

市町村別鳥類生息密度調査報告書

第 13 次鳥獣保護管理事業計画（令和 4 年度～令和 8 年度）第三次報告

令和 7 年 9 月

群馬県

序

群馬県は三方を山に囲まれ、県土の約3分の2を森林が占め、利根川水系を中心とした河川は網の目のように流れ、関東平野につながっています。このような群馬県には、数多くの野鳥の生息が確認されていますが、生息する野鳥の種や数は、生息環境の変化に伴い、次第に変わりつつあります。

このような中、野鳥の生息状況の調査を行うことは、単に野鳥の生息状況を知るだけでなく、私たちを取り巻く環境の変化を知るうえでも極めて大切なことであります。

この生息密度調査は、県内を河川の流域別に5つのブロックに分け、昭和47年度から「市町村別鳥獣生息調査」として始まりましたが、昭和57年度からは「市町村別鳥類生息密度調査」と名称を変え、現在に至っております。調査は、「鳥獣保護管理事業計画」に基づき5か年で県内全体を一巡する形となっております。

本報告書は、「第13次鳥獣保護管理事業計画」に基づき実施する調査の第三次報告で、令和6年度において、吾妻川流域を調査した結果をまとめたものです。野鳥保護のための基礎資料となるものですが、広く県民の皆様が野鳥に親しむための一助となれば幸いです。

なお、本調査の実施にあたり、日本野鳥の会群馬をはじめとする多くの関係者の皆様に御協力をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

令和7年9月

群馬県環境森林部自然環境課長

臼田 栄慈

目 次

1. はじめに	1
2. 調査メッシュ区画図	3
3. 中之条町（旧中之条町）〔四万 d、小雨 a・b、野反湖 b、 中之条 a・b・c・d〕	5
4. 中之条町（旧六合村）〔野反湖 d、長野原 c、小雨 c・d〕	27
5. 東吾妻町（旧東村）〔金井 c・d〕	39
6. 東吾妻町（旧吾妻町）〔長野原 a・b・d、群馬原町 a・b・c・d、 浅間隠山 a・c、榛名湖 c〕	47
7. 長野原町〔大前 a・b、北軽井沢 a・b〕	73
8. 嬭恋村〔四阿山 a・b、大前 c・d、嬭恋田代 a・b・c・d、 北軽井沢 c・d〕	85
9. 草津町〔上野草津 a・b〕	111
10. 高山村〔上野中山 a・b・c・d〕	119

はじめに

本調査は、鳥類の生息数および生息環境等を把握するため、県内を流域別に5ブロックに分け、順次ブロックごとに繁殖期の生息密度および越冬期における生息状況について、メッシュ調査をおこなうものである。調査は、日本野鳥の会群馬に委託して実施した。

1. 調査地

国土地理院発行の2万5千分の1の地形図を縦横各2等分し、4分割となった1区画（東西約6.0km×南北約4.5km）を1メッシュとし、各メッシュの中で鳥類の生息が比較的良好と思われる地域に4kmの調査コースを設けた。安全な調査ルートが確保できず調査できない場所を除外し、今回は44メッシュの調査を実施した。

2. 調査方法

各メッシュに設けた4kmの調査コース上を時速約2kmで歩き、コースの左右25m（全幅50m）の範囲で、観察または鳴声等により確認された鳥の種類および個体数等を記録した。さらに、この範囲外（左右25m以遠）で確認できた鳥がいた場合には、種類のみを記録した。調査時期は、繁殖期の5月～7月と越冬期の11月～1月である。調査回数は、繁殖期に4回（2往復）と越冬期に2回（1往復）の計6回とした。調査対象種は、外来種を含めた鳥類全種である。なお、繁殖に関係する行動などは、繁殖鳥の全国調査と同様の基準で記録した。

3. 結果の集計方法

結果は調査メッシュごとに集計し、旧市町村ごとに、調査コースの環境の概要、繁殖期と越冬期の結果、および過去の記録との比較について簡潔にまとめた。その際、越冬期の調査回数は第10次計画までが1回、第11次計画からが2回であるため、個体数の比較には調査1回あたりの平均を用いた。1メッシュが2つ以上の旧市町村にまたがる場合は、面積の一番多い旧市町村に区分するか、旧市町村名を併記した。各メッシュの集計表には調査日ごとの記録種とその個体数を示し、繁殖期・越冬期とも、合計と平均個体数を示した。調査範囲外で記録されたものについては○で示し、個体数の集計からは除外した。また、

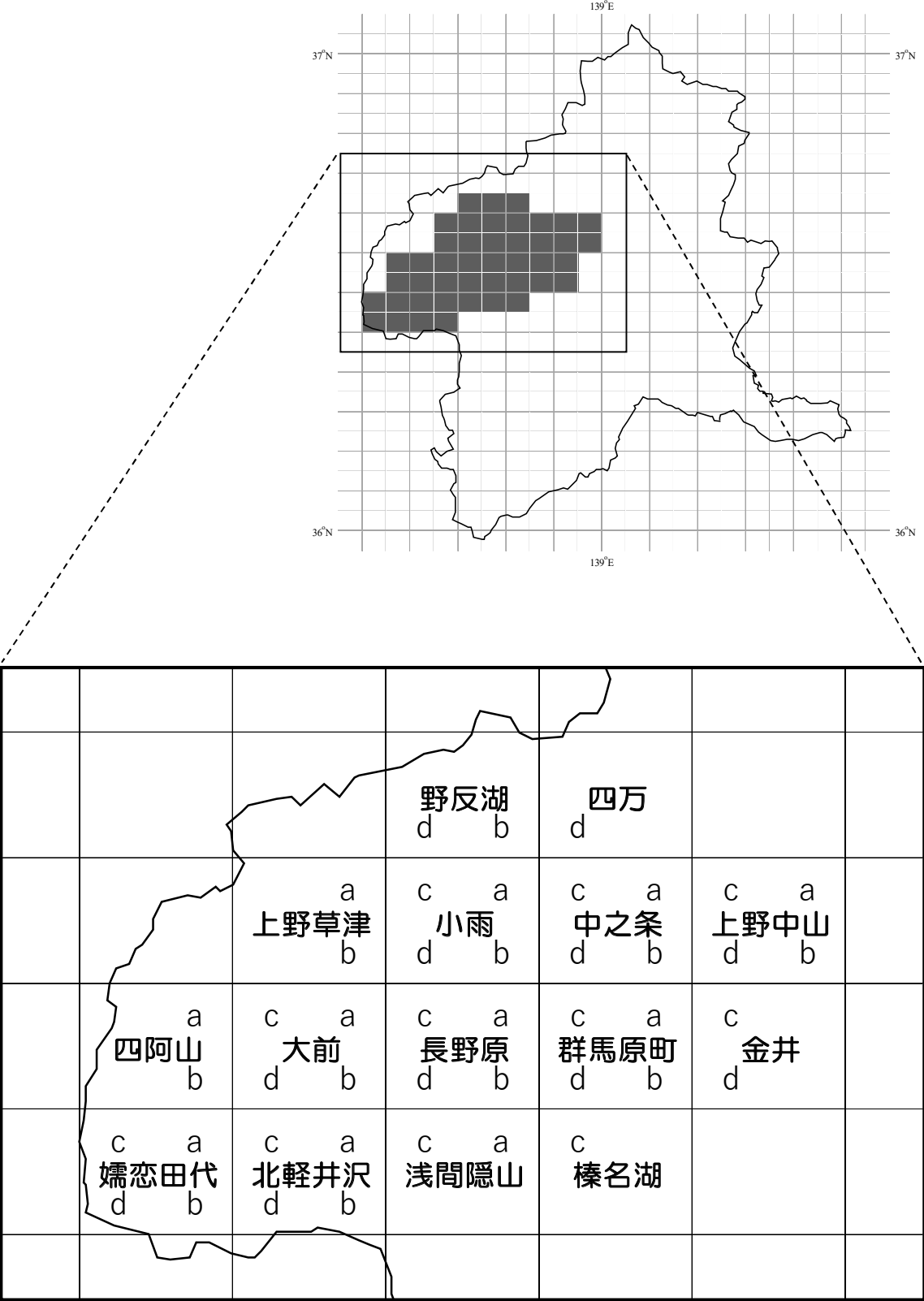
繁殖期に関しては、密度、種優占度、相対出現頻度を算出し、繁殖可能性ランクを示した。
 計算方法は次のとおりである。繁殖可能性ランクについては、繁殖に直接関わる行動を観察したAランクと、繁殖は確認できなかったが繁殖の可能性が高いBランクのみを示した。
 過去の記録との比較では、越冬期の調査回数が過去の調査と異なるため、繁殖期・越冬期とも平均個体数を比較に用いた。

- ① 1時間当たり密度 = $\frac{\text{観察個体数}}{\text{調査時間}}$
- ② 1ha 当たり密度 = $\frac{\text{観察個体数}}{\text{調査面積}}$
- ③ 種 優 占 度 = $\frac{\text{その種の観察個体数}}{\text{全種類の観察個体数}} \times 100(\%)$ (その種がその地域で占める
個体数の割合)
- ④ 相 対 出 現 頻 度 = $\frac{\text{その種の観察個体数}}{\text{最多出現種の個体数}} \times 100(\%)$ (最多出現種の観察個体数を
100としたときの相対値)

4. 第13次鳥獣保護管理事業計画（令和4年度～令和8年度）の調査概要

対 象 鳥 獣 名	調 査 年 度	調 査 方 法 内 容	調 査 地 域			調 査 時 期
			流域別	市町村(旧区分)	メッシュ数	
外 来 種 を 含 む 全 て の 鳥 類	令 和 4 年 度 (第一次報告)	市町村別に2万5千分の1地形図を4分割したメッシュごとに現地調査をおこなう。 調査結果は報告書として印刷製本する。	神 流 川 鎗 川	藤岡市、鬼石町、吉井町、万場町、中里村、上野村、富岡市、妙義町、下仁田町、南牧村、甘楽町 11市町村	38	繁殖期 (5～7月) に4回 越冬期 (12～1月) に2回
	碓 氷 川 鳥 川 利 根 川 (中 流)		渋川市、子持村、小野上村、伊香保町、榛東村、吉岡町、高崎市、安中市、榛名町、倉渕村、箕郷町、群馬町、松井田町 13市町村	33		
	吾 妻 川		中之条町、(吾)東村、吾妻町、長野原町、嬬恋村、草津町、六合村、高山町 8市町村	44		
	奥 利 根 川		沼田市、利根村、白沢村、片品村、川場村、月夜野町、水上町、新治村、昭和村 9市町村	43		
	利 根 川 渡 良 瀬 川		前橋市、桐生市、玉村町、太田市、館林市、北橘村、赤城村、富士見村、大胡町、宮城村、粕川村、黒保根村、(勢)東村、大間々町、赤堀町、新田町、藪塚本町、笠懸町、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町 23市町村	61		
			合 計 64市町村			219

調査メッシュ区画図



中之条町(旧中之条町)鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

旧中之条町に含まれる調査地は下表の 8 メッシュである。中之条 b は低山帯に、その他のメッシュは山地帯下部に属し、広葉樹の雑木林やスギ・ヒノキなどの植林地を中心とした環境と、河川やダム湖を含む山間部の水辺環境が主要な環境要素となっている。小雨 b と中之条 a～d は、山間部のため面積は広くないが農耕地を含む里山的環境も含んでいる。

調査コースは全メッシュとも前回と同じであり、調査コース沿いの環境も前回までと比較して大きな変化はなかった。今回の調査中に、ヒミズ（死体）、ニホンザル、ニホンリス、テン、ニホンジカ、カモシカが観察された。

調査 メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広 葉 樹 林	針 葉 樹 林	植 林 地	草 地 草 原	農 耕 地	里 山 集 落	市 街 地	河 川 湖 沼	
四万d	690 ～ 850	◎	—	○	—	—	—	—	◎	前回と同じ
小雨a	665 ～ 1050	○	—	◎	—	—	—	—	○	前回と同じ
小雨b	590 ～ 780	○	—	○	—	◎	○	—	○	前回と同じ
野反湖b	800 ～ 1000	◎	○	○	—	—	—	—	○	前回と同じ
中之条a	460 ～ 780	○	○	○	—	◎	○	—	○	前回と同じ
中之条b	370 ～ 560	◎	○	○	—	○	○	—	—	前回と同じ
中之条c	550 ～ 880	◎	—	◎	—	○	○	—	○	前回と同じ
中之条d	480 ～ 720	○	—	◎	◎	○	○	—	○	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今回の調査では、旧中之条町全体で繁殖期に 66 種、越冬期に 48 種、年間では 82 種が記録された。なお、前々回（平成 26 年度実施）は繁殖期 69 種、越冬期 46 種、年間 81 種が、前回（令和元年度実施）は繁殖期 67 種、越冬期 46 種、年間 80 種が記録されている。

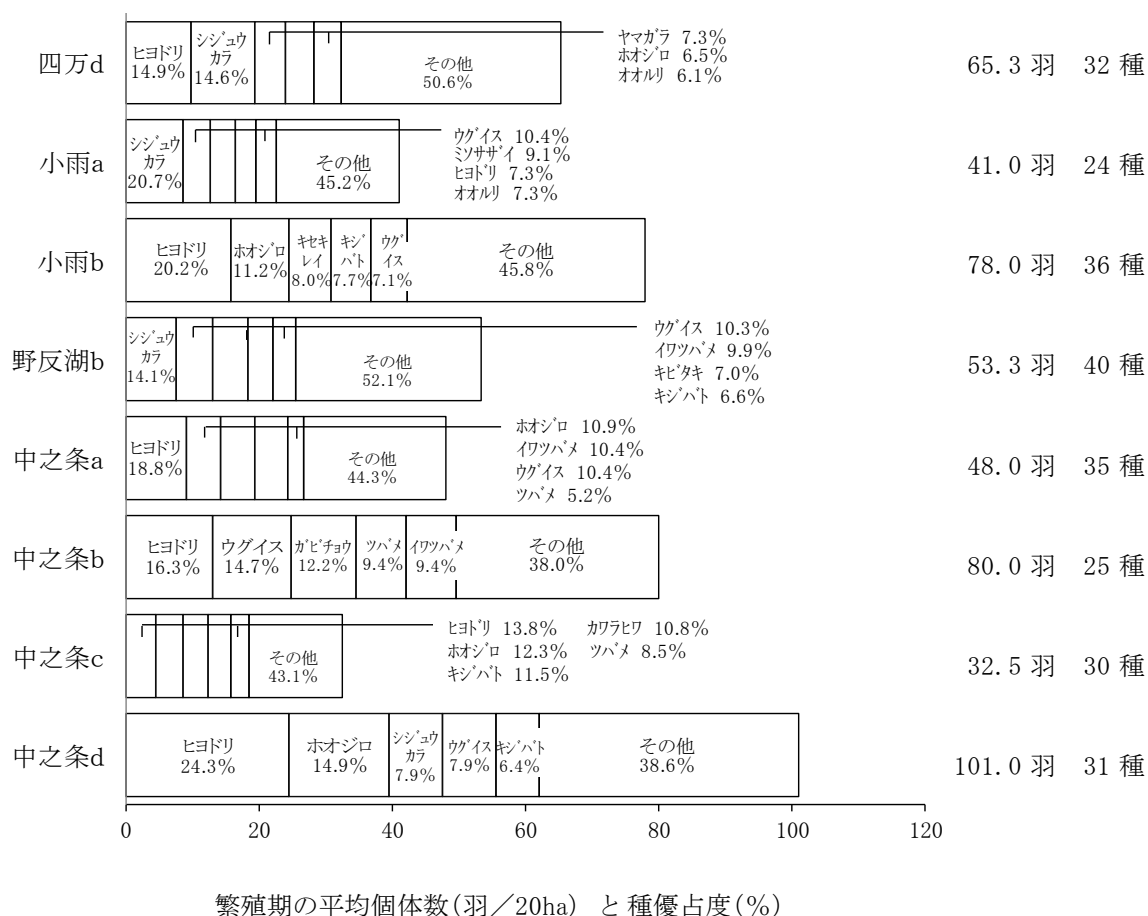
(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は次ページの図および各メッシュの調査票のとおりである。どのメッシュも森林を主な環境要素に含むため、ヒヨドリやシジュウカラなどの森林性の種が優占したほか、農耕地や里山集落を含むメッシュでは、ツバメやホオジロ、ウグイスなどの人里に生息する種も上位に入った。今回の調査地域全体と比較すると、中之条 b の種数、中之条 c の個体数、小雨 a の種数と個体数がやや少なく、野反湖 b の種数、中之条 d の個体数がやや多かったが、旧中之条町全体では種数・個体数ともにほぼ平均的な値であった。この傾向は前回と同様である。

群馬県の絶滅のおそれのある野生生物（以下、群馬県版 RDB 掲載種と表記）は、オシドリ、アオバト、ジュウイチ、ツツドリ、カッコウ、オオタカ、サシバ、クマタカ、フクロウ、アカショウビン、ハヤブサ、サンショウクイ、キバシリ、マミジロ、アカハラ、コサメビタキ、ビンズイ、ノジコの 18 種が記録された。このうち、アカショウビンは県内では個体数が少なく、貴重な記録であるが、繁殖期に 1 回記録されただけなので、繁殖の可能性については判断できなかった。また、猛禽類のオオタカ、サシバ、クマタカ、フクロウ、ハヤブサ

が記録された。このうち、クマタカは県内では最大級の猛禽類であり、個体数は多くない。また、サシバは谷津田などの里山環境を代表する猛禽類で、近年、県内では個体数の減少が著しい。これらの猛禽類は生態系の上位に位置するため、良好な環境の指標として重要である。オオタカとハヤブサは中形の鳥類を、サシバは両生類や小形のハ虫類を、クマタカは中形の鳥類や哺乳類を、フクロウはネズミ類を主に捕食するため、猛禽類が生息できる場所には、捕食されるこれらの動物が十分に生息すること、そしてそれを可能にする自然環境が残されていることが示唆されるからである。また、県内では減少傾向にある托卵鳥のジュウイチ、ツツドリ、カッコウが記録された。托卵鳥は、宿主となる鳥類が豊富に生息することが示唆されるため、注目に値する。一方、特定外来生物（以下、外来種と表記）のガビチョウとカオジロガビチョウは、前回に続き増加傾向にあった。生態的地位が重なる在来種への影響が懸念されるが、現時点ではその影響の有無については判断できなかった。

今回の調査で繁殖に関係する行動が観察され、繁殖可能性が A ランクとなったのは、サンショウクイ、モズ、シジュウカラ、ツバメ、イワツバメ、ウグイス、スズメ、キセキレイ、カワラヒワ、ホオジロの 10 種であった。



(2) 越冬期

越冬期の優占種は次ページの表のとおりであった。繁殖期と同様に、シジュウカラやヒヨドリなどの森林性の種のほか、農耕地などを利用するカシラダカやホオジロなどが優占した。このうち、カシラダカは全国的に個体数の減少が著しい種である。今回は小雨 b で 55 羽、中之条 b で 45 羽、中之条 d で 75 羽が記録された。今季は昨年続き、他の市町村で

も記録された個体数がやや多かったので、県内への渡来数が多かったものと考えられる。今回の調査地域全体と比較すると、繁殖期と同様に小雨 a、中之条 c の種数と個体数が少なかったが、野反湖 b の種数、中之条 b の個体数、中之条 d の種数と個体数がやや多かった。旧中之条町全体では、前回同様、他のメッシュと比較して、ほぼ平均的な値であった。

越冬期には、群馬県版 RDB 掲載種はハイタカ、クマタカ、オオアカゲラ、ハギマシコ、カシラダカの 5 種が記録された。外来種のガビチョウが越冬期にも 5 メッシュで記録されたほか、カオジロガビチョウも 1 メッシュで記録された。ガビチョウ類は藪を好み、積雪の多い地域では越冬しないことが多いとされる。そのため、冬季の積雪量が分布の制限要因の一つと考えられている。県内では南部を中心に、各地で定着しており、旧中之条町のような標高がやや高い地域へも進出が続いているため、越冬期の記録が増えているものと考えられる。

調査メッシュ	優占種(上位5種*)					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
四万d	ハギマシコ	ヤマガラ	シジュウカラ	ベニマシコ	カケス	77.0	22
小雨a	シジュウカラ	カワラヒワ	ヤマガラ	カケス	エナガ	26.5	13
小雨b	カシラダカ	ヒヨドリ	カワラヒワ	シジュウカラ	ホオジロ	108.5	23
野反湖b	カシラダカ	シジュウカラ	ヒガラ	カケス	アトリ	49.0	30
中之条a	シジュウカラ	ヒヨドリ	エナガ	ホオジロ	ガビチョウ	31.0	20
中之条b	カシラダカ	ムクドリ	シジュウカラ	カケス	ヒヨドリ	140.0	24
中之条c	エナガ	カシラダカ	ヒヨドリ	シジュウカラ	ヤマガラ	25.0	15
中之条d	カシラダカ	シジュウカラ	エナガ	ヤマガラ	カワラヒワ	209.5	29

*同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

過去 3 回分の種数と個体数の結果は下表のとおりである。過去 3 回の比較では、変動があるものの種数には大きな変化はみられなかったが、個体数はやや増加したメッシュがあった。このうち、繁殖期中之条 b では、イワツバメとヒヨドリ、ウグイス、ガビチョウの記録数が増えたことが主な要因である。このうちイワツバメは、繁殖場所以外では空中で採食する集団がまとまって記録されることがあるため、記録数の変動が大きい。また、ガビチョウは県内各地で分布を拡大し個体数が増えてきており、中之条 b でもその影響を受けているものと考えられる。一方、越冬期中之条 d では、シジュウカラとカシラダカの記録数が増えたことが主な要因である。両種は越冬期に群れで行動するため、個体数の変動が起こりやすい。今回の結果も、そういった特徴を反映したもので、特に両種が増加しているということではないと考えられる。

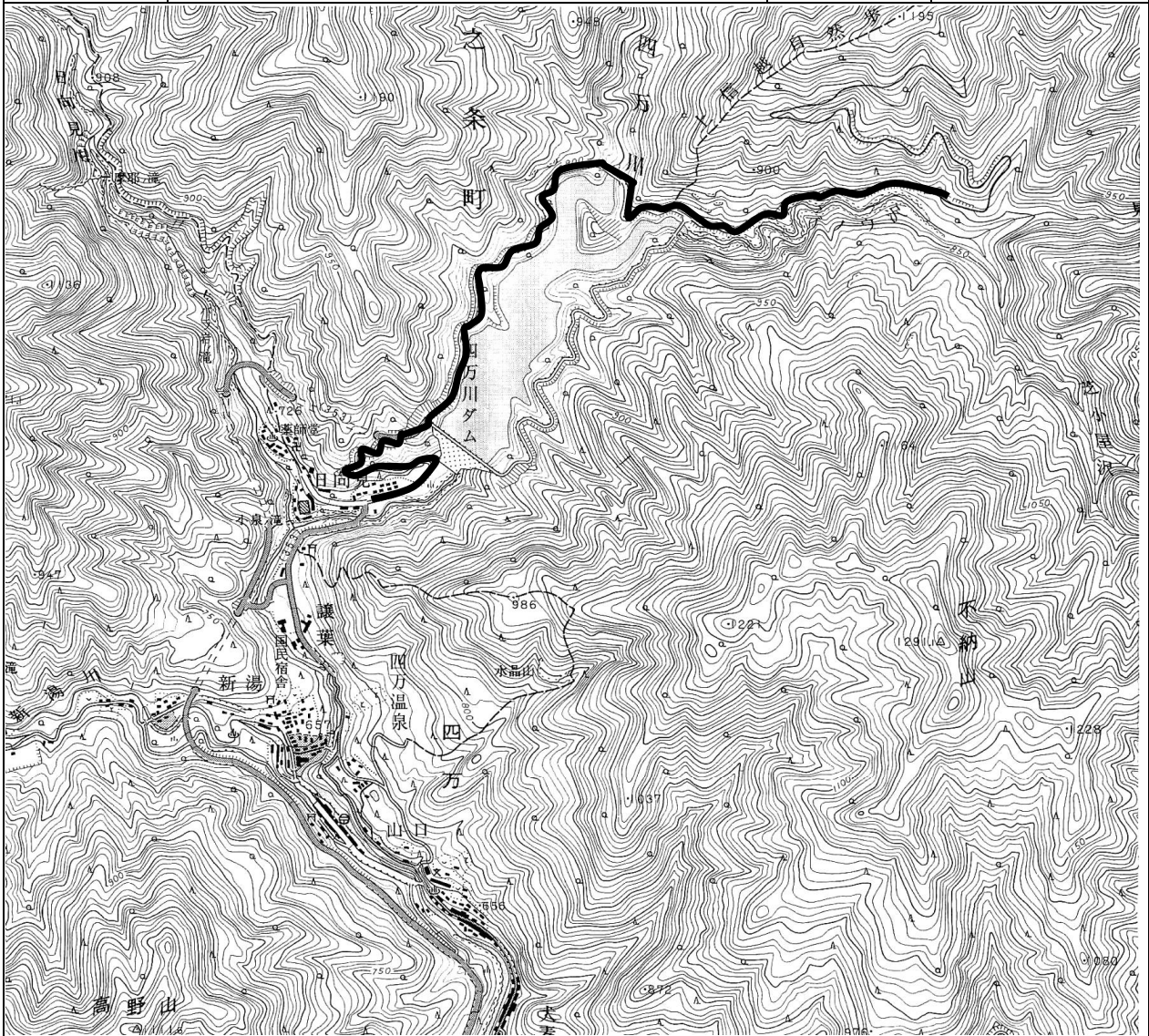
前回、前々回に記録がなく、今回記録された種は、ハイタカ、サシバ、ハヤブサ、キバシリ、ハギマシコの 5 種である。このうち中之条 a で記録されたサシバは、繁殖に結び付く行動は記録されなかったが、5 月末と 6 月末に記録されたことから繁殖した可能性もある。隣接する中之条 b では第 7 次調査から第 10 次調査まで連続して記録されていたので、今後の動向に注目したい。一方、前回、前々回とも記録されていたのに今回記録されなかった種

はカルガモ、メボソムシクイ、ウソ、ミヤマホオジロの4種である。本調査では、この4種は旧中之条町では元来あまり記録が多くはなかったため、今後も記録されることがあると考えられ、減少が著しいために記録されなくなったというものではない。過去3回とも記録されているが個体数の増減が顕著な種としては、スズメとガビチョウがあげられる。旧中之条町全体で、スズメは平均個体数（調査1回当たりの個体数。H21、H26、R1、R6の順に示す。以下同様）は、繁殖期が43.0羽、10.3羽、13.3羽、4.8羽、越冬期は150.0羽、38.5羽、28.5羽、2.0羽と著しく減少している。スズメは全国的に個体数が減少している種である。群馬県内では全国的な減少の割合と比較すると穏やかな減少傾向であることが知られているが、楽観はできない状況にあるのかもしれない。一方、ガビチョウの平均個体数が、繁殖期は1.8羽、7.0羽、19.8羽、24.0羽、越冬期は0.0羽、17.5羽、7.0羽、15.5羽と著しく増加している。外来種の急激な増加は、生態的地位に近い在来種への影響が懸念されるが、餌生物や採食環境が似ていると考えられるクロツグミや、繁殖環境が近いと考えられるウグイスなどでは、現時点では生息数に顕著な変化は認められなかった。しかし、影響が全くないとは考えにくいいため、今後も継続して外来種の動向に注意する必要がある。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H26	R1	R6	H26	R1	R6	H26	R1	R6	H26	R1	R6
四万d	37	31	32	48.0	63.0	65.3	13	20	22	35.5	88.0	77.0
小雨a	25	19	24	39.8	23.5	41.0	8	12	13	11.0	68.5	26.5
小雨b	29	33	36	71.5	62.0	78.0	21	23	23	88.5	140.5	108.5
野反湖b	39	44	40	43.8	56.5	53.3	23	27	30	34.5	55.0	49.0
中之条a	37	30	35	46.3	72.3	48.0	27	19	20	84.0	45.5	31.0
中之条b	27	28	25	22.3	35.5	80.0	26	25	24	114.5	78.5	140.0
中之条c	25	20	30	50.0	44.3	32.5	15	11	15	39.5	23.5	25.0
中之条d	37	35	31	76.5	73.3	101.0	26	23	29	112.0	123.0	209.5

調 査 地 の 概 況

市町村名	中之条町（旧中之条町）	地形図名	四万d	調 査 者	中澤 和則
調査範囲	4 km（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	690 ～ 850 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	日向見から奥四万湖の西側を経てブノウ沢に入るコースで、コース沿いの急斜面はケヤキ、ナラ、シデ、イヌブナ、カエデ、ハンノキなどの落葉樹が多く、水場となる沢も多い。 5月にはオシドリが3羽確認された。繁殖を示唆する行動は観察できなかったが、前回5年前と同様に、繁殖期の調査で記録されたことから、周辺で繁殖している可能性がある。ただし、四万ブルーというキャッチフレーズで奥四万湖はカヌーの利用者が増え、オシドリが追われることで繁殖に影響が出る可能性がある。また、湖の周遊道路では無人車両の走行実験が行われており、観光客の増加による環境の変化には注意を要する。
—	針葉樹林（自然林）	
○	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
—	農耕地（田・畑・果樹園）	
—	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
◎	河川湖沼・河川敷	← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じ。越冬期の調査では一部に積雪があり、歩行時に雪を踏みつける音が気になった。カモシカとサルを観察した。

生 息 調 査 集 計 表

生 息 調 査 集 計 表								地形図名		四万d		調 査 者		中澤 和則		
調 査 年 月 日		R6. 5. 26	R6. 5. 26	R6. 6. 21	R6. 6. 21	R7. 1. 4	R7. 1. 4	繁殖期						越冬期		
調 査 時 間		4 : 40 〃 6 : 30 (110分)	6 : 40 〃 8 : 35 (115分)	4 : 30 〃 6 : 15 (105分)	6 : 20 〃 8 : 10 (110分)	7 : 50 〃 9 : 40 (110分)	9 : 45 〃 11 : 40 (115分)	合 計	平 均	密 度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候		曇	曇	曇	曇	晴	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2
種 類 〓 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数			⑦	⑧					
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧	
ヤマドリ		1		1				2	0.50	0.27	0.03	0.8	5.1	B		
オシドリ			3					3	0.75	0.41	0.04	1.1	7.7			
キジバト		4	2	○	1	2		7	1.75	0.95	0.09	2.7	17.9	B	2	1.00
アオバト		3	○	1	1			5	1.25	0.68	0.06	1.9	12.8	B		
5 ジュウイチ		1	○					1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.6			
トビ		1						1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.6			
コゲラ		1	1	3	2	2	5	7	1.75	0.95	0.09	2.7	17.9		7	3.50
アカゲラ		2	3	2	1		1	8	2.00	1.09	0.10	3.1	20.5		1	0.50
サンショウクイ		○	○					○								
0 カケス		3	2	4	4	4	3	13	3.25	1.77	0.16	5.0	33.3		7	3.50
ハシボソガラス		○	○					○								
ハシブトガラス				1	5		3	6	1.50	0.82	0.08	2.3	15.4		3	1.50
コガラ						1	2								3	1.50
ヤマガラ		5	1	7	6	9	12	19	4.75	2.59	0.24	7.3	48.7	B	21	10.50
5 ヒガラ		3	1	1		2		5	1.25	0.68	0.06	1.9	12.8	B	2	1.00
シジュウカラ		9	4	10	15	11	3	38	9.50	5.18	0.48	14.6	97.4	B	14	7.00
イワツバメ			3					3	0.75	0.41	0.04	1.1	7.7			
ヒヨドリ		9	10	8	12	4	2	39	9.75	5.32	0.49	14.9	100.0		6	3.00
ウグイス		4	3	3	5			15	3.75	2.05	0.19	5.7	38.5	B		
0 ヤブサメ		○	2	5	6			13	3.25	1.77	0.16	5.0	33.3	B		
エナガ			4	2	2	3	2	8	2.00	1.09	0.10	3.1	20.5	B	5	2.50
センダイムシクイ			3	1	1			5	1.25	0.68	0.06	1.9	12.8	B		
ミソサザイ					1			1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.6			
マミジロ				1				1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.6			
5 トラツグミ		○	○	1	1			2	0.50	0.27	0.03	0.8	5.1	B		
クロツグミ		○			○			○						B		
ツグミ						5	1								6	3.00
ルリビタキ						1									1	0.50
ジョウビタキ						2	2								4	2.00
0 キビタキ		1	2	2	2			7	1.75	0.95	0.09	2.7	17.9	B		
オオルリ		4	4	3	5			16	4.00	2.18	0.20	6.1	41.0	B		
カヤクグリ						5	1								6	3.00
キセキレイ			1	3	2			6	1.50	0.82	0.08	2.3	15.4			
ハクセキレイ		1	1					2	0.50	0.27	0.03	0.8	5.1			
5 アトリ							3								3	1.50
カワラヒワ						1									1	0.50
マヒワ							3								3	1.50
ハギマシコ						15	30								45	22.50
ベニマシコ						7	4								11	5.50
0 イカル			1	6	○			7	1.75	0.95	0.09	2.7	17.9			
ホオジロ		5	3	5	4		1	17	4.25	2.32	0.21	6.5	43.6	B	1	0.50
ガビチョウ		1		1	2	2		4	1.00	0.55	0.05	1.5	10.3	B	2	1.00
5																
0																
計	範 囲 内	個体数	58	54	71	78	76	78	261	65.25	35.59	3.26			154	77.00
		種 数	18	20	22	20	17	17	29						22	
		全 種 数	23	25	23	22	17	17	32						22	

調 査 地 の 概 況

市町村名	中之条町（旧中之条町）	地形図名	小雨a	調 査 者	高橋 哲郎
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝ 20 ha			調査地の標高	665 ～ 1050 m

調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
○ 広葉樹林（自然林・雑木林）	調査コースは中尾沢に沿った林道である。スギの植林地が多いが、尾根や沢沿いには落葉広葉樹林が残されている。中尾沢に流れ込む支流も数本あり水量は豊富である。 今回の調査では、雛に餌運びをしていると思われるシジュウカラとウグイスが観察された。周辺で繁殖したものと考えられる。	
－ 針葉樹林（自然林）		
◎ 植林地（人工林）		
－ 草地・草原・ヨシ原		
－ 農耕地（田・畑・果樹園）		
－ 里山・疎らな民家		
－ 市街地・工業団地		
○ 河川湖沼・河川敷		
← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。		
<備考> 調査コースは前回と同じ。越冬期は一面に積雪があり、東端で1cm、中間地点で10cm、西端で15cmであった。繁殖期にカモシカとヒミズ（死体）、越冬期にはシカ（雪上の足跡）とサルを観察した。繁殖期の調査ではクマとヤマビルへの注意が必要。		

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

小雨a

調査者

高橋 哲郎

調査年月日								繁殖期								越冬期	
調査時間		R6. 5. 30	R6. 5. 30	R6. 6. 22	R6. 6. 22	R6. 12. 27	R6. 12. 27	合計	平均	密度		種優占度	相対出現頻度	繁殖可能性ランク	合計	平均	
		5:05 〆 7:10 (125分)	7:30 〆 9:20 (110分)	5:05 〆 6:50 (105分)	7:10 〆 8:50 (100分)	7:10 〆 9:00 (110分)	9:15 〆 11:10 (115分)										(110分)
天候		晴	晴	晴	晴	雪	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤～⑥	⑧／2	
種類／結果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧		
5		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							1	0.50	
	ヤマドリ					1											
	キジバト				2			2	0.50	0.27	0.03	1.2	5.9				
	アオバト	1	2	1	1			5	1.25	0.68	0.06	3.0	14.7	B			
	ツツドリ	1	1		1			3	0.75	0.41	0.04	1.8	8.8	B			
10	コゲラ		1			1	2	1	0.25	0.14	0.01	0.6	2.9		3	1.50	
	アカゲラ		1	2	2			5	1.25	0.68	0.06	3.0	14.7	B			
	ハヤブサ			1				1	0.25	0.14	0.01	0.6	2.9				
	カケス	2	3		1	3	1	6	1.50	0.82	0.08	3.7	17.6		4	2.00	
	ハシブトガラス		1	1				2	0.50	0.27	0.03	1.2	5.9				
15	コガラ	3	2				1	5	1.25	0.68	0.06	3.0	14.7		1	0.50	
	ヤマガラ	2	3	2	1	2	2	8	2.00	1.09	0.10	4.9	23.5		4	2.00	
	シジュウカラ	12	8	6	8	9	12	34	8.50	4.64	0.43	20.7	100.0	A	21	10.50	
	ヒヨドリ	2	3	2	5	1	1	12	3.00	1.64	0.15	7.3	35.3		2	1.00	
	ウグイス	4	3	3	7	1		17	4.25	2.32	0.21	10.4	50.0	A	1	0.50	
20	ヤブサメ		2					2	0.50	0.27	0.03	1.2	5.9				
	エナガ					2	2								4	2.00	
	センダイムシクイ	3	6		2			11	2.75	1.50	0.14	6.7	32.4	B			
	メジロ		2					2	0.50	0.27	0.03	1.2	5.9				
	ミソサザイ	3	6	4	2			15	3.75	2.05	0.19	9.1	44.1	B			
25	トラツグミ	1		2				3	0.75	0.41	0.04	1.8	8.8	B			
	クロツグミ	1	2					3	0.75	0.41	0.04	1.8	8.8				
	シロハラ					1									1	0.50	
	コルリ			1				1	0.25	0.14	0.01	0.6	2.9				
	キビタキ	1		2	1			4	1.00	0.55	0.05	2.4	11.8	B			
30	オオルリ	2	3	3	4			12	3.00	1.64	0.15	7.3	35.3	B			
	カヤクグリ			2	4	1	1	6	1.50	0.82	0.08	3.7	17.6		2	1.00	
	カワラヒワ					6									6	3.00	
	ホオジロ			2	2	1	2	4	1.00	0.55	0.05	2.4	11.8		3	1.50	
35																	
40																	
45																	
50																	
計	範囲内	個体数	38	49	34	43	29	24	164	41.00	22.36	2.05				53	26.50
		種数	14	17	15	15	12	9	24							13	
		全種数	14	17	15	15	12	9	24							13	

調査地の概況

市町村名	中之条町（旧中之条町）	地形図名	小雨b	調査者	神宮 義憲
調査範囲	4 km（調査距離）×50m（幅）＝20ha			調査地の標高	590 ～ 780 m

調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
○ 広葉樹林（自然林・雑木林）	上沢渡川に沿った県道が調査コースである。道路の両側に山が迫っていて、民家や田畑が続いているが、手入れがされない耕作地が散見されるようになった。山には針葉樹の人工林と広葉樹の雑木林があり、沢沿いで水場も多いため、鳥類の生息環境としては良好である。 前回の調査に比べてツバメが少なくなり、今回はスズメが記録されなかった。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。	
－ 針葉樹林（自然林）		
○ 植林地（人工林）		
－ 草地・草原・ヨシ原		
◎ 農耕地（田・畑・果樹園）		
○ 里山・疎らな民家		
－ 市街地・工業団地		
○ 河川湖沼・河川敷		

<備考>

調査コースは前回と同じ。

生息調査集計表

生 息 調 査 集 計 表								地形図名		小雨b		調査者		神宮 義憲		
調 査 年 月 日		R6. 5. 25	R6. 5. 25	R6. 6. 29	R6. 6. 29	R6. 12. 21	R6. 12. 21	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間		4 : 50 ＼ 6 : 50 (120分)	7 : 00 ＼ 8 : 55 (115分)	4 : 30 ＼ 6 : 30 (120分)	6 : 40 ＼ 8 : 30 (110分)	7 : 20 ＼ 9 : 20 (120分)	9 : 30 ＼ 11 : 10 (100分)	合 計	平 均	密 度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候		晴	晴	雨	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2
種 類 ⅳ 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数									
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧	
5	キジ	1	2		○			3	0.75	0.39	0.04	1.0	4.8	B		
	キジバト	7	6	9	2			24	6.00	3.10	0.30	7.7	38.1	B		
	アオバト	3		○				3	0.75	0.39	0.04	1.0	4.8	B		
	ホトトギス		○					○								
	トビ		○		2			2	0.50	0.26	0.03	0.6	3.2			
10	ノスリ	1						1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.6			
	コゲラ	1	1	1	1	2	1	4	1.00	0.52	0.05	1.3	6.3		3	1.50
	オオアカゲラ					1									1	0.50
	アカゲラ	2			1	1	1	3	0.75	0.39	0.04	1.0	4.8		2	1.00
	アオゲラ	1				1		1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.6		1	0.50
15	チョウゲンボウ						1								1	0.50
	サンショウクイ			1				1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.6			
	モズ	2		2	1	1		5	1.25	0.65	0.06	1.6	7.9		1	0.50
	カケス	○		4	2	5		6	1.50	0.77	0.08	1.9	9.5		5	2.50
	ハシボソガラス	2	1		1			4	1.00	0.52	0.05	1.3	6.3			
20	ハシブトガラス	4	3	4	2	2	2	13	3.25	1.68	0.16	4.2	20.6	B	4	2.00
	ヤマガラ	1	4			2	3	5	1.25	0.65	0.06	1.6	7.9		5	2.50
	シジュウカラ	4	5	5	3	11	11	17	4.25	2.19	0.21	5.4	27.0	B	22	11.00
	ツバメ	2	1					3	0.75	0.39	0.04	1.0	4.8			
	ヒヨドリ	15	14	20	14	22	14	63	15.75	8.13	0.79	20.2	100.0	B	36	18.00
25	ウグイス	8	6	5	3	1	1	22	5.50	2.84	0.28	7.1	34.9	B	2	1.00
	ヤブサメ	1		3	1			5	1.25	0.65	0.06	1.6	7.9	B		
	エナガ					3	2								5	2.50
	メジロ	1	3	4		1		8	2.00	1.03	0.10	2.6	12.7		1	0.50
	キバシリ				2			2	0.50	0.26	0.03	0.6	3.2			
30	カワガラス	1	1				2	2	0.50	0.26	0.03	0.6	3.2		2	1.00
	トラツグミ			2	2			4	1.00	0.52	0.05	1.3	6.3			
	クロツグミ			1	1			2	0.50	0.26	0.03	0.6	3.2			
	ジョウビタキ					1	2								3	1.50
	コサメビタキ			2				2	0.50	0.26	0.03	0.6	3.2			
35	キビタキ	1	2	1	○			4	1.00	0.52	0.05	1.3	6.3			
	オオルリ	1	1		1			3	0.75	0.39	0.04	1.0	4.8	B		
	カヤクグリ						1								1	0.50
	キセキレイ	9	5	6	5			25	6.25	3.23	0.31	8.0	39.7			
	ハクセキレイ	1	1	○				2	0.50	0.26	0.03	0.6	3.2			
40	カワラヒワ	2	1	6	2	24	○	11	2.75	1.42	0.14	3.5	17.5		24	12.00
	ベニマシコ					3									3	1.50
	イカル	2	3	○	1			6	1.50	0.77	0.08	1.9	9.5			
	ホオジロ	9	8	9	9	7	1	35	8.75	4.52	0.44	11.2	55.6	B	8	4.00
	カシラダカ					25	55								80	40.00
45	コジュケイ	○	○		2			2	0.50	0.26	0.03	0.6	3.2	B		
	ガビチョウ	2	4	8	1	5	1	15	3.75	1.94	0.19	4.8	23.8	B	6	3.00
	カオジロガビチョウ			3	1		1	4	1.00	0.52	0.05	1.3	6.3		1	0.50
50																
計	範囲内	84	72	96	60	118	99	312	78.00	40.26	3.90				217	108.50
	個体数	26	20	20	23	19	16	35							23	
	全種数	28	23	23	25	19	17	36							23	

調 査 地 の 概 況

市町村名	中之条町（旧中之条町）	地形図名	野反湖b	調 査 者	卯木 達朗
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）= 20 ha			調査地の標高	800 ～ 1000 m

調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	コース沿いの斜面はスギ、ヒノキ、カラマツ等の人工林に改変されているが、新湯川沿いは広葉樹の巨木も残っている。新湯川にそそぐ沢は水量もあり、数が多いため水場には困らない。自然環境は比較的良好といえる。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
○	針葉樹林（自然林）	
○	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
—	農耕地（田・畑・果樹園）	
—	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	
<備考> 調査コースは前回と同じ。		

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

野反湖b

調査者

卯木 達朗

調 査 年 月 日			R6. 6. 8	R6. 6. 8	R6. 6. 29	R6. 6. 29	R6. 11. 24	R6. 11. 24	繁殖期								越冬期		
調 査 時 間			4 : 00 5 6 : 05 (125分)	6 : 30 5 8 : 35 (125分)	3 : 50 5 6 : 00 (130分)	6 : 30 5 8 : 40 (130分)	7 : 00 5 9 : 05 (125分)	9 : 30 5 11 : 40 (130分)	合 計	平 均	密 度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均		
天 候			曇	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①~④	⑦／ 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤~⑥	⑧／ 2		
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数											
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧			
5	ヤマドリ			○		○	○	○	○						B	○			
	キジ			○		○			○					B					
	キジバト			4	3	4	3	3	3	14	3.50	1.65	0.18	6.6	46.7	6	3.00		
	ジュウイチ			○	○	○	○		○					B					
	ホトトギス			○	○	○	○		○					B					
	ツツドリ			○					○										
	カッコウ			○	○	○	○		○					B					
	アマツバメ			○	○				○										
	トビ							○								○			
	ノスリ			○	○	○			○										
10	クマタカ						○		○							○			
	フクロウ					○			○										
	アカショウビン						○		○										
	コゲラ			1		1	1	1	3	0.75	0.35	0.04	1.4	10.0		2	1.00		
	アカゲラ			○	1		1	2	2	0.50	0.24	0.03	0.9	6.7		3	1.50		
	サンショウクイ				2				2	0.50	0.24	0.03	0.9	6.7					
	モズ					2		1	2	0.50	0.24	0.03	0.9	6.7		1	0.50		
	カケス			1	2	2	2	4	3	7	1.75	0.82	0.09	3.3	23.3		7	3.50	
	ハシボソガラス							○	○							○			
	ハシブトガラス							○	○							○			
15	キクイタダキ							1								1	0.50		
	コガラ				2	1		2	2	3	0.75	0.35	0.04	1.4	10.0	B	4	2.00	
	ヒガラ			○	4		3	6	3	7	1.75	0.82	0.09	3.3	23.3	B	9	4.50	
	シジュウカラ			8	7	7	8	4	5	30	7.50	3.53	0.38	14.1	100.0	B	9	4.50	
	イワツバメ					12	9		21	5.25	2.47	0.26	9.9	70.0					
	ヒヨドリ			2	2	2	2		2	8	2.00	0.94	0.10	3.8	26.7		2	1.00	
	ウグイス			4	6	8	4	2	1	22	5.50	2.59	0.28	10.3	73.3	B	3	1.50	
	ヤブサメ					1	1		2	0.50	0.24	0.03	0.9	6.7					
	エゾムシクイ			1					1	0.25	0.12	0.01	0.5	3.3					
	センダイムシクイ			1	1				2	0.50	0.24	0.03	0.9	6.7					
20	ゴジュウカラ			1				1		1	0.25	0.12	0.01	0.5	3.3		1	0.50	
	ミソサザイ			3	3	3	2	3	1	11	2.75	1.29	0.14	5.2	36.7	B	4	2.00	
	カワガラス			3	2	1	1	2	1	7	1.75	0.82	0.09	3.3	23.3		3	1.50	
	マミジロ			○	○				○										
	クロツグミ					1			1	0.25	0.12	0.01	0.5	3.3					
	アカハラ			2					2	0.50	0.24	0.03	0.9	6.7					
	ツグミ							3	3							6	3.00		
	コルリ			4	4	2	4		14	3.50	1.65	0.18	6.6	46.7	B				
	ルリビタキ							1								1	0.50		
	ジョウビタキ							1	2							3	1.50		
25	キビタキ			4	4	3	4			15	3.75	1.76	0.19	7.0	50.0	B			
	オオルリ			2	3	2	1			8	2.00	0.94	0.10	3.8	26.7	B			
	カヤクグリ								1							1	0.50		
	キセキレイ				2	2		1		4	1.00	0.47	0.05	1.9	13.3		1	0.50	
	ビンズイ				1		1			2	0.50	0.24	0.03	0.9	6.7	B			
	アトリ								7							7	3.50		
	ベニマシコ							2	2							4	2.00		
	イカル							1	1							2	1.00		
	ホオジロ			3	2	2	2	3	3	9	2.25	1.06	0.11	4.2	30.0	B	6	3.00	
	カシラダカ							8	4							12	6.00		
30	ノジコ			1	1					2	0.50	0.24	0.03	0.9	6.7				
	アオジ			3	3	3	2			11	2.75	1.29	0.14	5.2	36.7	B			
	コジュケイ							○								○			
	35	計	範囲内	個体数	48	55	59	51	52	46	213	53.25	25.06	2.66				98	49.00
			種 数	18	20	19	18	21	19	28							24		
			全 種 数	29	26	26	24	26	22	40							30		

調 査 地 の 概 況

市町村名	中之条町（旧中之条町）	地形図名	中之条a	調 査 者	清水 伸彦
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	460 ～ 780 m

調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
☐ 広葉樹林（自然林・雑木林） ☐ 針葉樹林（自然林） ☐ 植林地（人工林） ☐ 草地・草原・ヨシ原 ☒ 農耕地（田・畑・果樹園） ☐ 里山・疎らな民家 ☐ 市街地・工業団地 ☐ 河川湖沼・河川敷	調査コース南端から赤坂川沿いの車道約2km間には集落が散在し田畑がある。その先は里山で、簡易舗装されている道を登っていく。スギやヒノキの植林地が点在し、その他は落葉樹林でアカマツが混じる。スタート地点周辺は水田のある丘陵地帯でサシバの好む環境である。越冬期の調査では、冬鳥のツグミ、シメ、カシラダカが観察されなかった。全国的に暖かった影響かもしれない。 今回の調査では、巣に出入りするイワツバメとスズメが観察された。また、巣立ち雛と思われるキセキレイ、カワラヒワ、ホオジロが観察された。周辺で繁殖したものと考えられる。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。	

<備考>

調査コースは前回と同じ。越冬期の調査時にリスを観察した。

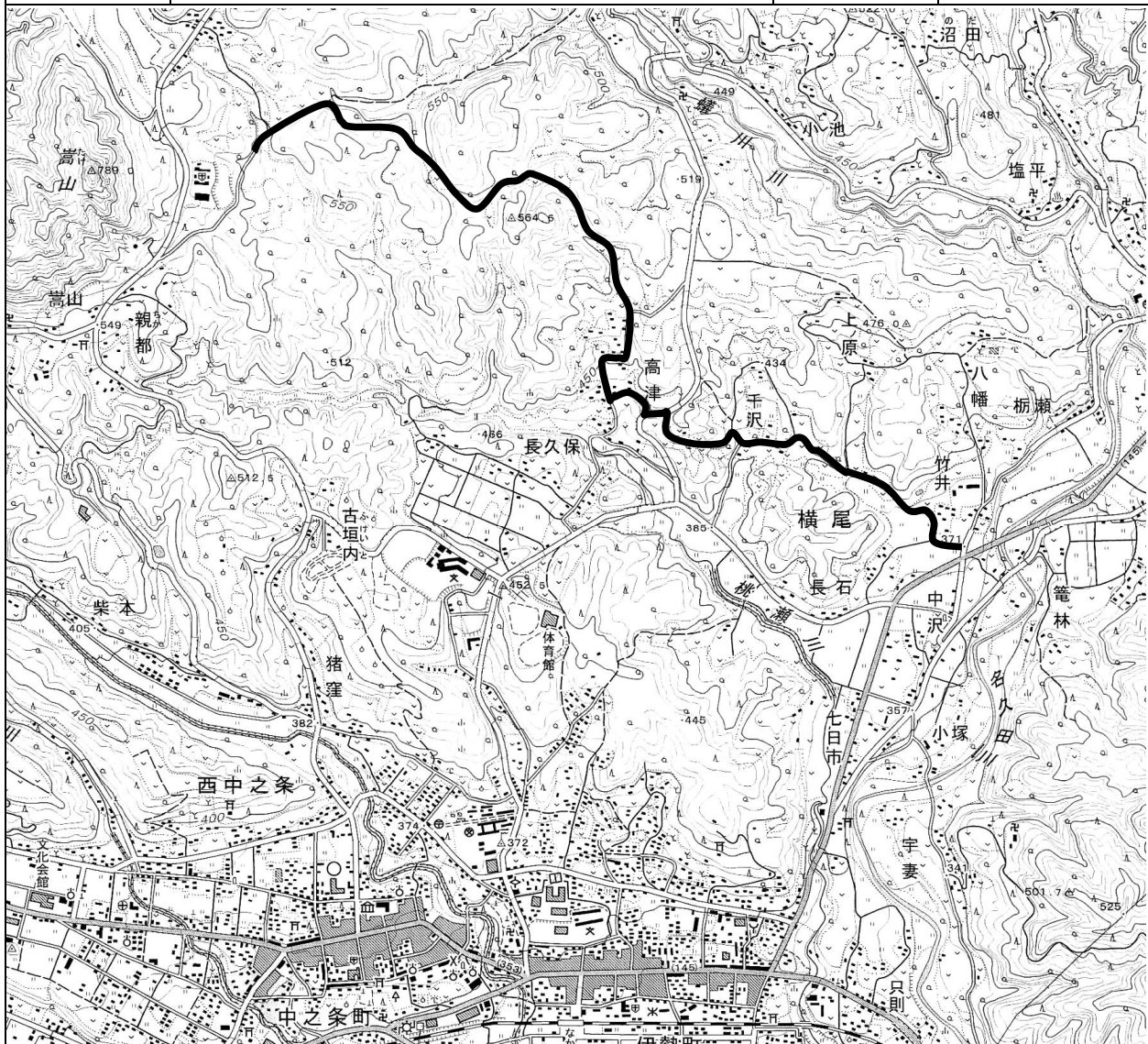
生 息 調 査 集 計 表

地形図名	中之条a	調査者	清水 伸彦
------	------	-----	-------

調 査 年 月 日			R6. 5. 30	R6. 5. 30	R6. 6. 26	R6. 6. 26	R6. 12. 2	R6. 12. 2	繁殖期								越冬期	
			5：00 ＼ 7：00 (120分)	7：30 ＼ 9：30 (120分)	4：45 ＼ 6：30 (105分)	6：50 ＼ 8：20 (90分)	7：10 ＼ 9：10 (120分)	9：25 ＼ 10：55 (90分)	合 計	平 均 (109分)	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (105分)	
天 候			晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／ 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／ 2	
種 類 　／　 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦				⑧					
5	キジ			○	○				○									
	キジバト			1		○	○	2	1	0.25	0.14	0.01	0.5	2.8	2	1.00		
	アオバト				○	○			○									
	アオサギ			1					1	0.25	0.14	0.01	0.5	2.8				
	ホトトギス				○				○									
	トビ				1				1	0.25	0.14	0.01	0.5	2.8				
	オオタカ			○					○									
	サシバ			1			1		2	0.50	0.28	0.03	1.0	5.6				
	ノスリ				○		○		○									
	コゲラ			3		2	1	1	○	6	1.50	0.83	0.08	3.1	16.7	1	0.50	
10	オオアカゲラ							1							1	0.50		
	アオゲラ			1		1			2	0.50	0.28	0.03	1.0	5.6				
	サンショウクイ				1	○	○		1	0.25	0.14	0.01	0.5	2.8				
	モズ							1							1	0.50		
	カケス			3		1	1	○	○	5	1.25	0.69	0.06	2.6	13.9	○		
	ハシボソガラス							○							○			
	ハシブトガラス			2	1		○	2	○	3	0.75	0.41	0.04	1.6	8.3	2	1.00	
	ヤマガラ			2	1	○	1	1	1	4	1.00	0.55	0.05	2.1	11.1	2	1.00	
	シジュウカラ			3	1	1	1	9	4	6	1.50	0.83	0.08	3.1	16.7	B	13	6.50
	ツバメ			2	2	4	2			10	2.50	1.38	0.13	5.2	27.8			
20	イワツバメ				6	10	4			20	5.00	2.76	0.25	10.4	55.6	A		
	ヒヨドリ			7	5	13	11	5	7	36	9.00	4.97	0.45	18.8	100.0		12	6.00
	ウグイス			5	4	5	6	1	1	20	5.00	2.76	0.25	10.4	55.6	B	2	1.00
	ヤブサメ			1						1	0.25	0.14	0.01	0.5	2.8			
	エナガ							7	2							9	4.50	
	メジロ			○	2	1	2	1		5	1.25	0.69	0.06	2.6	13.9		1	0.50
	ミソサザイ								1							1	0.50	
	カワガラス			1		1				2	0.50	0.28	0.03	1.0	5.6			
	トラツグミ					○				○								
	クロツグミ						1			1	0.25	0.14	0.01	0.5	2.8			
30	ルリビタキ							1								1	0.50	
	ジョウビタキ							2	2							4	2.00	
	キビタキ			1		1	1			3	0.75	0.41	0.04	1.6	8.3	B		
	オオルリ					○				○								
	スズメ			2	3		2			7	1.75	0.97	0.09	3.6	19.4	A		
	キセキレイ			1	2	3	4	○		10	2.50	1.38	0.13	5.2	27.8	A	○	
	セグロセキレイ						1			1	0.25	0.14	0.01	0.5	2.8			
	カワラヒワ			6	3		1			10	2.50	1.38	0.13	5.2	27.8	A		
	ベニマシコ							2									2	1.00
	イカル					2				2	0.50	0.28	0.03	1.0	5.6			
40	ホオジロ			5	5	7	4	4		21	5.25	2.90	0.26	10.9	58.3	A	4	2.00
	コジュケイ					1				1	0.25	0.14	0.01	0.5	2.8			
	ガビチョウ			2	3	3	2	2	2	10	2.50	1.38	0.13	5.2	27.8	B	4	2.00
50																		
計	範囲内	個体数	50	40	56	46	41	21	192	48.00	26.48	2.40				62	31.00	
		種 数	20	15	16	18	15	9	28							17		
		全 種 数	23	19	22	22	18	12	35							20		

調 査 地 の 概 況

市町村名	中之条町（旧中之条町）	地形図名	中之条b	調 査 者	嶋田 茂豊
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）= 20 ha			調査地の標高	370 ～ 560 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	嵩山から高津までは、スギの植林地と雑木林が占めていて、その中に水田と幾つかの畑地がある。高津から横尾までは、人家・農耕地・雑木林など里山の環境があり、横尾では水田が少し広がるようになる。全体として大きな川・池・沼などは無いが、沢と用水路などの水場は点在している。 今回の調査では、巣に出入りするツバメが観察され、繁殖が確認された。
○	針葉樹林（自然林）	
○	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
—	河川湖沼・河川敷	

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じだが、駐車場（道の駅たかやま）の関係で、前回とは逆のコース取り（往路が嵩山→高津→横尾）とした。繁殖期4回目の調査時にテンを観察した。

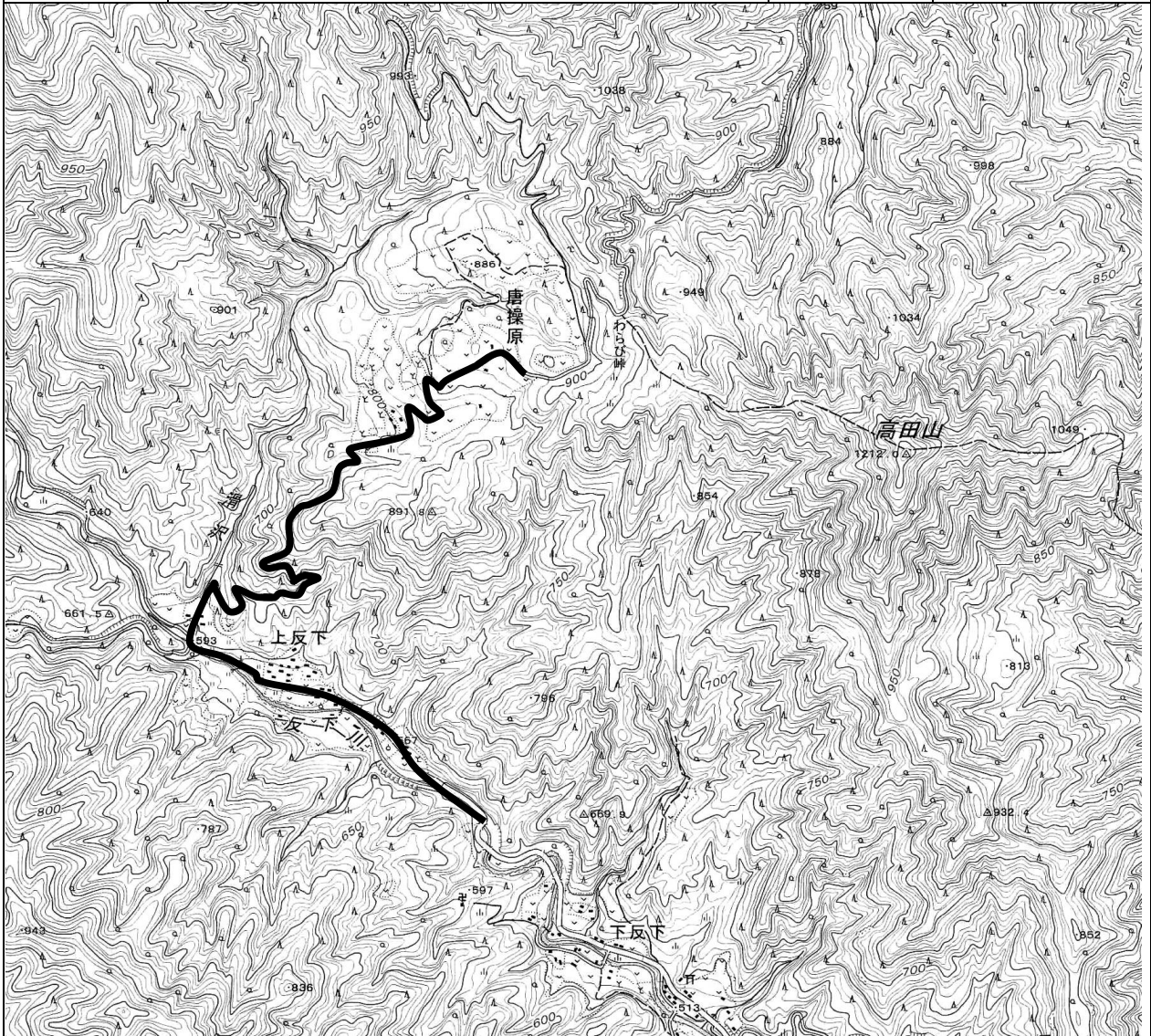
生 息 調 査 集 計 表

地形図名	中之条b	調査者	嶋田 茂豊
------	------	-----	-------

調 査 年 月 日			R6. 5. 30	R6. 5. 30	R6. 6. 15	R6. 6. 15	R6. 12. 5	R6. 12. 5	繁殖期								越冬期	
調 査 時 間			4 : 35 6 : 20 (105分)	6 : 30 8 : 30 (120分)	4 : 20 6 : 05 (105分)	6 : 15 8 : 10 (115分)	7 : 25 9 : 15 (110分)	9 : 25 11 : 35 (130分)	合 計	平 均	密 度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均	
天 候			晴	晴	曇	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り				1ha当り	Σ⑤～⑥	⑧／2
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2	
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧		
5	キジ			2	○	1	1			4	1.00	0.54	0.05	1.3	7.7			
	キジバト			6	6	1	1	1	1	14	3.50	1.89	0.18	4.4	26.9	2	1.00	
	アオバト				○		○			○								
	アオサギ				1	2				3	0.75	0.40	0.04	0.9	5.8			
	ホトトギス			○	○	○	○			○						B		
10	ノスリ			2	1	1	1			5	1.25	0.67	0.06	1.6	9.6			
	コゲラ							1	2							3	1.50	
	アカゲラ				1				1	1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.9	1	0.50	
	アオゲラ						1	1	1	1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.9	2	1.00	
	モズ				1			2	2	1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.9	4	2.00	
15	カケス				○		○	9	14	○						23	11.50	
	ハシボソガラス				1			4	3	1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.9	7	3.50	
	ハシブトガラス			4	3	2	3	1	2	12	3.00	1.62	0.15	3.8	23.1	3	1.50	
	コガラ			2	3		3	3	1	8	2.00	1.08	0.10	2.5	15.4	B	4	2.00
	ヤマガラ							7	4							11	5.50	
20	シジュウカラ				2	2	2	11	17	6	1.50	0.81	0.08	1.9	11.5	B	28	14.00
	ツバメ			3	10	8	9			30	7.50	4.04	0.38	9.4	57.7	A		
	イワツバメ				30					30	7.50	4.04	0.38	9.4	57.7			
	ヒヨドリ			10	14	13	15	5	10	52	13.00	7.01	0.65	16.3	100.0	B	15	7.50
	ウグイス			9	12	12	14			47	11.75	6.34	0.59	14.7	90.4	B		
25	エナガ							12								12	6.00	
	メジロ			4	4	7	10			25	6.25	3.37	0.31	7.8	48.1	B		
	ムクドリ							5	30							35	17.50	
	ジョウビタキ							1	1							2	1.00	
	キビタキ			2	2	3	1			8	2.00	1.08	0.10	2.5	15.4	B		
30	スズメ			5	3	2	2			12	3.00	1.62	0.15	3.8	23.1			
	セグロセキレイ				2			2	2	2	0.50	0.27	0.03	0.6	3.8	4	2.00	
	カワラヒワ			○		4	6		10	10	2.50	1.35	0.13	3.1	19.2	10	5.00	
	ベニマシコ								3							3	1.50	
	イカル							○								○		
35	ホオジロ			1	2	6	○	5	8	9	2.25	1.21	0.11	2.8	17.3	B	13	6.50
	カシラダカ							40	45							85	42.50	
	アオジ							1	1							2	1.00	
	コジュケイ							1	5							6	3.00	
	ガビチョウ			8	8	12	11	1	4	39	9.75	5.26	0.49	12.2	75.0	B	5	2.50
40																		
45																		
50																		
計	範 囲 内	個 体 数	58	106	76	80	113	167	320	80.00	43.15	4.00				280	140.00	
		種 数	13	19	15	15	20	22	22							23		
		全 種 数	15	23	16	19	21	22	25							24		

調 査 地 の 概 況

市町村名	中之条町（旧中之条町）	地形図名	中之条c	調 査 者	二川 真士
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	550 ～ 880 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	高田山の西南の山麓地で、反下川にかかる中野橋から上反下を経て唐操原までのコース。反下川は川幅が10～20mほどで水量は豊富である。反下川沿いは谷合で土地が狭く、田畑の中に民家が点在するが、空き家や耕作放棄地が散見される。所々に針葉樹の植林が見られ、果実をつける広葉樹も豊富である。上反下から上部は、滑沢沿い（沢幅は5mほどだが水量は豊富）となるが、民家はほとんどない。半分はスギ、ヒノキの植林地で、残りは広葉樹林である。自然が比較的良好に保たれ、食餌植物も豊富である。 今回の調査では、巣立ち雛に給餌するモズが記録された。周辺で繁殖したものと考えられる。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
—	針葉樹林（自然林）	
◎	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎な民家	
—	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	

<備考>

調査コースは前回と同じ。越冬期の調査時は、路面の2/3程度に1～2cmの積雪があった。繁殖期4回目の調査時にカモシカを観察した。

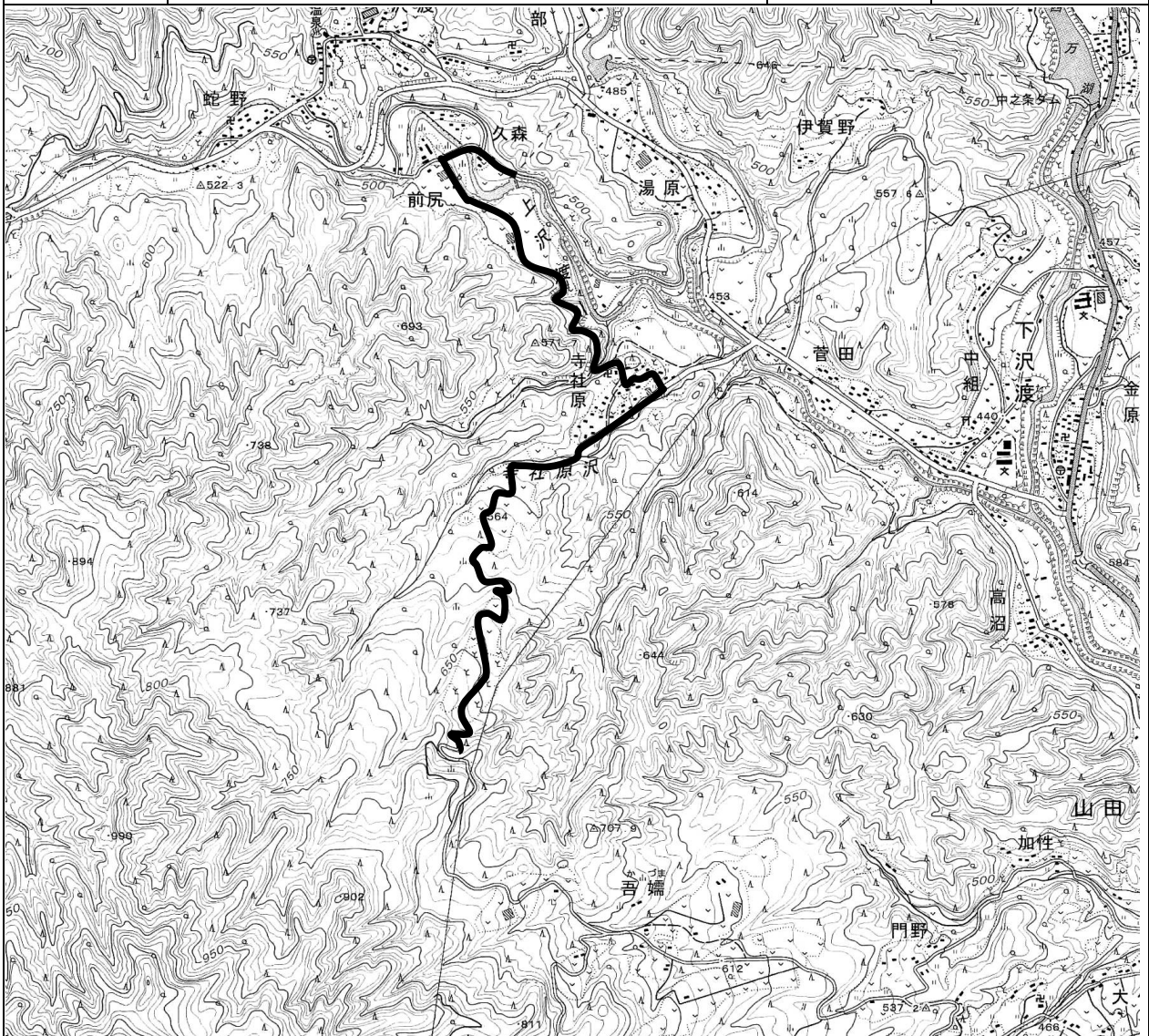
生 息 調 査 集 計 表

地形図名	中之条c	調査者	二川 真士
------	------	-----	-------

調 査 年 月 日	R6. 5. 13	R6. 5. 13	R6. 6. 22	R6. 6. 22	R6. 12. 9	R6. 12. 9	繁殖期							越冬期	
	5:30 7:20 (110分)	7:30 9:05 (95分)	5:15 7:15 (120分)	7:45 9:55 (130分)	7:10 9:10 (120分)	9:20 11:20 (120分)	合計	平均	密度		種優 占度	相対 出現 頻度	繁殖 可能性 ランク	合計	平均
天 候	曇	曇	晴	晴	晴	晴	Σ①~④	⑦/4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧/2
種類 / 結果	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦								
キジ	1	○	1	○			2	0.50	0.26	0.03	1.5	11.1			
キジバト	4	5	5	1	1	2	15	3.75	1.98	0.19	11.5	83.3		3	1.50
アオバト	○		○				○								
アオサギ		1					1	0.25	0.13	0.01	0.8	5.6			
5 ホトトギス	○	○	○	○			○						B		
ツツドリ	○	○					○								
トビ	1	1					2	0.50	0.26	0.03	1.5	11.1			
アカゲラ	○	○	○	1			1	0.25	0.13	0.01	0.8	5.6	B		
アオゲラ	○						○								
10 サンショウクイ	○		○				○								
モズ	2	1	4	○			7	1.75	0.92	0.09	5.4	38.9	A		
カケス	○	1	○	○	1	1	1	0.25	0.13	0.01	0.8	5.6		2	1.00
ハシブトガラス	1	2	○	2	2	○	5	1.25	0.66	0.06	3.8	27.8		2	1.00
コガラ						3								3	1.50
15 ヤマガラ	○			1		5	1	0.25	0.13	0.01	0.8	5.6		5	2.50
ヒガラ	1	○	1	○			2	0.50	0.26	0.03	1.5	11.1			
シジュウカラ	2	2	○	○	2	3	4	1.00	0.53	0.05	3.1	22.2		5	2.50
ツバメ	1	3	3	4			11	2.75	1.45	0.14	8.5	61.1			
ヒヨドリ	8	1	5	4	2	3	18	4.50	2.37	0.23	13.8	100.0		5	2.50
20 ウグイス	1	2	2	2	○		7	1.75	0.92	0.09	5.4	38.9		○	
ヤブサメ		1					1	0.25	0.13	0.01	0.8	5.6			
エナガ						8								8	4.00
メジロ				1			1	0.25	0.13	0.01	0.8	5.6			
カワガラス					2									2	1.00
25 トラツグミ	○	○	○	○			○						B		
クロツグミ			1	1			2	0.50	0.26	0.03	1.5	11.1			
ジョウビタキ						1								1	0.50
キビタキ	1	○					1	0.25	0.13	0.01	0.8	5.6			
オオルリ		1		1			2	0.50	0.26	0.03	1.5	11.1			
30 キセキレイ	2	1	1	4			8	2.00	1.05	0.10	6.2	44.4	B		
カワラヒワ	1	2	3	8		3	14	3.50	1.85	0.18	10.8	77.8		3	1.50
ベニマシコ					1									1	0.50
ホオジロ	2	4	4	6	2	2	16	4.00	2.11	0.20	12.3	88.9		4	2.00
カシラダカ					6									6	3.00
35 コジュケイ		○		○			○						B		
ガビチョウ	1	○	5	2			8	2.00	1.05	0.10	6.2	44.4	B		
40															
45															
50															
計	範囲 内	個体数	29	28	35	38	19	31	130	32.50	17.14	1.63		50	25.00
		種 数	15	15	12	14	9	10	23					14	
		全 種 数	24	24	20	22	10	11	30					15	

調 査 地 の 概 況

市町村名	中之条町（旧中之条町）	地形図名	中之条d	調 査 者	奥 浩之
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	480 ～ 720 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

☐	広葉樹林（自然林・雑木林）	久森の集落から、上沢渡川を渡り寺社原の集落を抜け、吾嬬へ抜ける舗装された山道のコースで、途中には養豚場、天蚕飼育用のエノキ林、堆肥加工場などがある。コース沿いの植生は、スギなどの植林地と広葉樹の雑木林、草地である。また、上沢渡川や寺社原沢などは、冬でも涸れない。 雛に給餌するサンショウクイとホオジロが観察された。周辺で繁殖したものと考えられる。
☐	針葉樹林（自然林）	
☒	植林地（人工林）	
☒	草地・草原・ヨシ原	
☐	農耕地（田・畑・果樹園）	
☐	里山・疎らな民家	
☐	市街地・工業団地	
☐	河川湖沼・河川敷	
		← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じ。繁殖期の調査時は川の水量が多く、沢音で鳥の声を聞きづらかった。犬が放し飼いの状態になっている畑があり、犬に吠えられ早々に通過したため、その近くでは調査にならなかった。

生 息 調 査 集 計 表

生 息 調 査 集 計 表								地形図名		中之条d		調 査 者		奥 浩 之		
調 査 年 月 日		R5. 5. 30	R5. 5. 30	R5. 6. 22	R5. 6. 22	R6. 12. 30	R6. 12. 30	繁殖期						越冬期		
調 査 時 間		4 : 50 〃 7 : 00 (130分)	7 : 15 〃 9 : 15 (120分)	4 : 50 〃 6 : 55 (125分)	7 : 10 〃 9 : 10 (120分)	7 : 45 〃 9 : 45 (120分)	9 : 55 〃 11 : 55 (120分)	合 計	平 均	密 度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候		晴	晴	曇	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦								
ヤマドリ			○					○								
キジ		2		1				3	0.75	0.36	0.04	0.7	3.1	B		
キジバト		15	4	4	3	9		26	6.50	3.15	0.33	6.4	26.5	B	9	4.50
アオバト		2	○	○	1			3	0.75	0.36	0.04	0.7	3.1	B		
アオサギ		1						1	0.25	0.12	0.01	0.2	1.0			
ホトトギス		10		2	2			14	3.50	1.70	0.18	3.5	14.3	B		
トビ			1	1				2	0.50	0.24	0.03	0.5	2.0			
ハイタカ						1									1	0.50
コゲラ		2	1		2	6	4	5	1.25	0.61	0.06	1.2	5.1		10	5.00
アカゲラ							1								1	0.50
アオゲラ		1		1		3	2	2	0.50	0.24	0.03	0.5	2.0		5	2.50
チョウゲンボウ							1								1	0.50
サンショウクイ		1	1	2	1			5	1.25	0.61	0.06	1.2	5.1	A		
モズ							1								1	0.50
カケス		1		3	7	9	3	11	2.75	1.33	0.14	2.7	11.2		12	6.00
ハシブトガラス		○	1	2	○	2	○	3	0.75	0.36	0.04	0.7	3.1		2	1.00
コガラ							2								2	1.00
ヤマガラ		○		4		15	12	4	1.00	0.48	0.05	1.0	4.1		27	13.50
ヒガラ					2			2	0.50	0.24	0.03	0.5	2.0			
シジュウカラ		9	5	7	11	40	51	32	8.00	3.88	0.40	7.9	32.7	B	91	45.50
ツバメ		1		2	13			16	4.00	1.94	0.20	4.0	16.3	B		
ヒヨドリ		30	24	29	15	7	2	98	24.50	11.88	1.23	24.3	100.0	B	9	4.50
ウグイス		10	7	10	5		2	32	8.00	3.88	0.40	7.9	32.7	B	2	1.00
エナガ		1		1	3	29	9	5	1.25	0.61	0.06	1.2	5.1	B	38	19.00
メジロ		1	5	2	2		1	10	2.50	1.21	0.13	2.5	10.2	B	1	0.50
ミソサザイ						1	2								3	1.50
カワガラス			1					1	0.25	0.12	0.01	0.2	1.0			
トラツグミ		1						1	0.25	0.12	0.01	0.2	1.0			
クロツグミ			4	1	5			10	2.50	1.21	0.13	2.5	10.2	B		
シロハラ						1									1	0.50
ルリビタキ						2	3								5	2.50
ジョウビタキ						2	4								6	3.00
キビタキ		4	3	4	2			13	3.25	1.58	0.16	3.2	13.3	B		
オオルリ		1	1					2	0.50	0.24	0.03	0.5	2.0			
カヤクグリ						4	3								7	3.50
スズメ						3	1								4	2.00
キセキレイ		1	4	2	1			8	2.00	0.97	0.10	2.0	8.2	B		
カワラヒワ		7		4	1	9	15	12	3.00	1.45	0.15	3.0	12.2	B	24	12.00
シメ						6									6	3.00
ホオジロ		15	12	15	18	12	6	60	15.00	7.27	0.75	14.9	61.2	A	18	9.00
カシラダカ						39	75								114	57.00
アオジ						4									4	2.00
コジュケイ		○	1			1		1	0.25	0.12	0.01	0.2	1.0		1	0.50
ガビチョウ		5	4	10	1	11	3	20	5.00	2.42	0.25	5.0	20.4		14	7.00
カオジロガビチョウ				1	1			2	0.50	0.24	0.03	0.5	2.0			
計	範囲内	個体数	121	79	108	96	216	203	404	101.00	48.97	5.05			419	209.50
		種 数	22	17	22	20	23	22	30						29	
		全 種 数	25	19	23	21	23	23	31						29	

中之条町(旧六合村)鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

旧六合村に含まれる調査地は下表の 4 メッシュである。野反湖 d は亜高山帯下部に、他の 3 メッシュは山地帯下部に属する。野反湖 d は野反湖畔の草地と落葉広葉樹の疎林を主な環境要素とするが、他の 3 メッシュは植林地と広葉樹の雑木林を主とし、一部に里山環境を含んでいる。

全メッシュとも前回と同じコースで実施し、前回と比較して大きな環境の変化はなかった。今回の調査では、イノシシ（痕跡）、カモシカ、ニホンジカが観察された。

調査メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
野反湖d	1510 ～ 1745	◎	○	—	◎	—	—	—	○	前回と同じ
長野原c	740 ～ 940	◎	—	◎	○	—	—	—	○	前回と同じ
小雨c	830 ～ 1000	◎	—	◎	—	—	○	—	○	前回と同じ
小雨d	750 ～ 935	◎	—	◎	—	○	○	—	○	前回と同じ

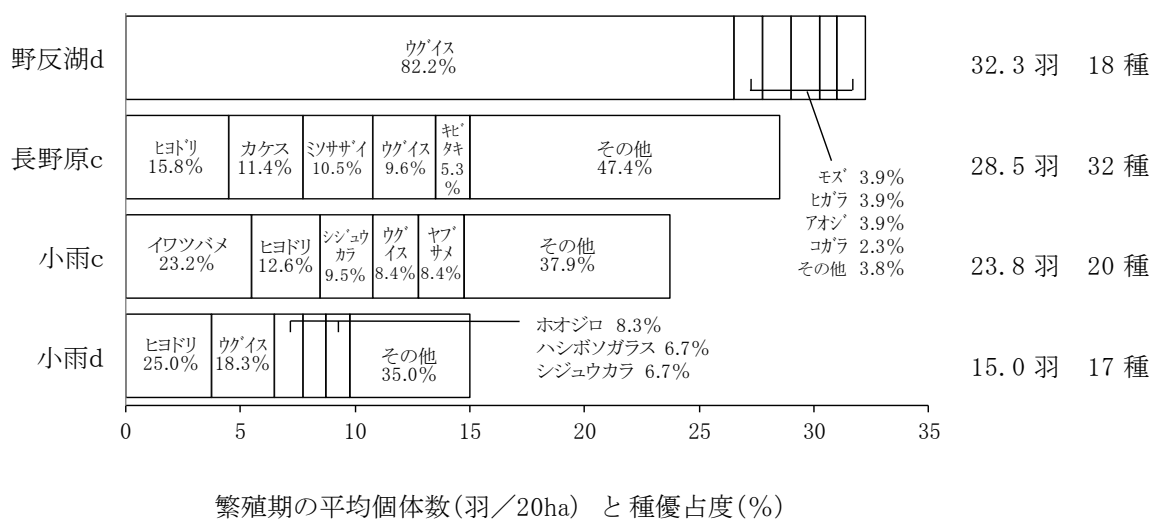
2. 調査結果と考察

今回の調査では、旧六合村全体で繁殖期に 50 種、越冬期に 28 種、年間では 61 種が記録された。なお、前々回（平成 26 年度実施）は繁殖期 44 種、越冬期 31 種、年間 53 種が、前回（令和元年度実施）は繁殖期 46 種、越冬期 23 種、年間 49 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図および各メッシュの調査票のとおりである。森林が主要な環境要素であるため、ヒヨドリやウグイス、シジュウカラなどが優占した。各メッシュとも標高が高いことから鳥類相は比較的単純で、今回の調査地域全体と比較すると、長野原 c の種数が平均的な値であったほかは、種数・個体数ともに少なかった。前回までと同様の傾向であり、調査地の標高が高いことが一因と考えられる。

群馬県の絶滅のおそれのある野生生物（以下、群馬県版 RDB 掲載種と表記）は、アオバ



ト、ジュウイチ、ツツドリ、カッコウ、ハチクマ、オオアカゲラ、サンショウクイ、コサメビタキ、ホオアカの 9 種が記録された。一方、前回、当地では初めて記録された特定外来生物のガビチョウが今回も記録された。今回の調査で繁殖可能性が A ランクとなった種はモズ、シジュウカラ、ツバメ、ホオジロの 4 種であった。

(2) 越冬期

越冬期の優占種は次表のとおりであった。繁殖期と同様に森林環境の種が優占した。今回の調査地域全体と比較すると、長野原 c 以外は種数・個体数ともに少なかった。寒冷で、特に冬季は鳥類の生息には厳しい環境であることから、種数や個体数が少ないと考えられる。群馬県版 RDB 掲載種はコガモ、アオバト、カシラダカ、クロジの 4 種が記録され、外来種はガビチョウが記録された。ガビチョウは県内で急激に分布を拡大しているが、藪を好み、主に地上で採餌するため積雪量が分布の制限になっており、旧六合村は生息適地とはいえないが、今回の調査では越冬期にも記録されたことから、今後の動向に注目したい。

調査メッシュ	優占種(上位5種*)					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
野反湖d	コガラ	カヤクグリ	ハシブトガラス	ヒガラ	ウソ	5.0	6
長野原c	エナガ	シジュウカラ	ヤマガラ	カケス	ヒガラ	72.5	21
小雨c	シジュウカラ	カケス	ホオジロ	ガビチョウ	ヒヨドリ	15.5	9
小雨d	シジュウカラ	ホオジロ	カケス	カワラヒワ	アカゲラ	10.0	9

*同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

過去 3 回分の調査結果は下表のとおりである。過去 3 回の比較では、長野原 c の越冬期の個体数が多かった。コガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、エナガといったカラ類の記録数が多かったことが主な要因である。前回、前々回の調査では、カラ類の記録が減ったために個体数が少なかった。これらの種は越冬期に群れで移動するため、もともと個体数の変動が大きいと、何か特別な要因によって個体数が増減しているというわけではない。

前回と前々回の調査では記録が無く今回新たに記録された種は、キジ、カルガモ、コガモ、カンムリカイツブリ、アオサギ、ハチクマ、オオアカゲラ、アオゲラ、サンショウクイ、トラツグミ、ルリビタキ、カヤクグリの 12 種であった。前回初めて記録された外来種のガビチョウが、今回は 2 メッシュで記録された。前述のとおり、増加傾向にある。一方、過去 2 回とも記録があるのに今回記録されなかったのはアマツバメ、ビンズイの 2 種であった。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H26	R1	R6	H26	R1	R6	H26	R1	R6	H26	R1	R6
野反湖d	21	21	18	22.8	41.0	32.3	15	11	6	17.5	8.5	5.0
長野原c	27	28	32	34.5	45.3	28.5	19	13	21	31.0	23.5	72.5
小雨c	18	16	20	17.8	22.8	23.8	12	7	9	13.0	13.0	15.5
小雨d	16	20	17	27.0	21.0	15.0	14	10	9	19.0	17.5	10.0

調査地の概況

市町村名	中之条町（旧六合村）	地形図名	野反湖d	調査者	瀧川 二士男
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝ 20 ha			調査地の標高	1510 ～ 1745 m

調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
☒ 広葉樹林（自然林・雑木林）	野反峠から野反湖畔を通過してエビ山までのコース。植生はダケカンバが主でツツジ、カエデ、ブナなどの落葉広葉樹が混じる。林床はササで覆われており、一部には草原もある。コース途中で沢があるが、雪解けの時期に水が流れる程度で、野反湖畔以外は水場はほとんどない。実のなる木も少なく、生息環境としては単調である。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。	
☐ 針葉樹林（自然林）		
☐ 植林地（人工林）		
☒ 草地・草原・ヨシ原		
☐ 農耕地（田・畑・果樹園）		
☐ 里山・疎らな民家		
☐ 市街地・工業団地		
☐ 河川湖沼・河川敷		
<備考> 調査コースは前回と同じ。国道405号は11月下旬（2024年は11月26日）に通行止めになる。また、降雪も早いので調査は11月上旬に実施することが望ましい。		

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

野反湖d

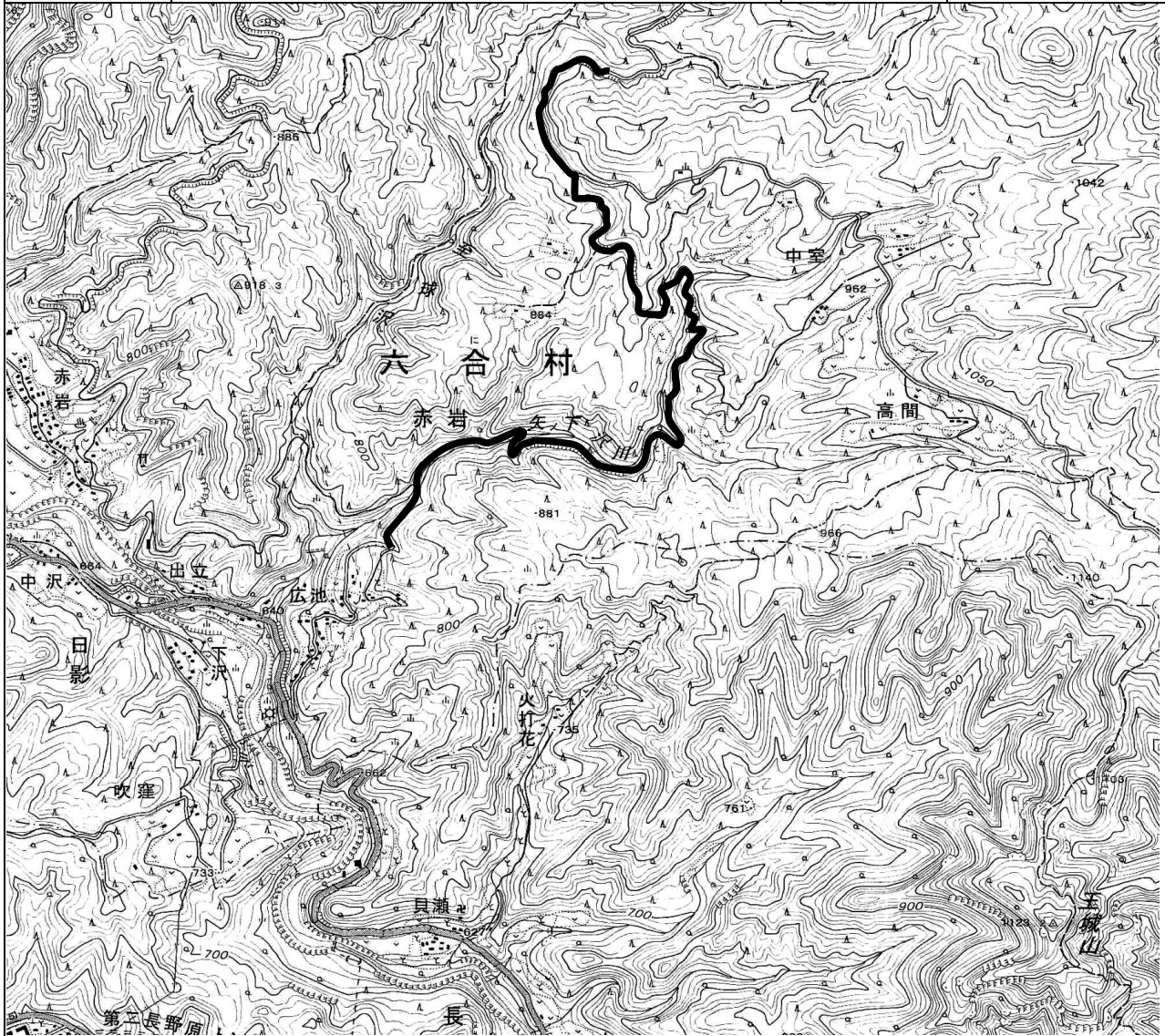
調査者

瀧川 二士男

調 査 年 月 日		R6. 5. 24	R6. 5. 24	R6. 6. 20	R6. 6. 20	R6. 11. 21	R6. 11. 21	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間		5 : 30 5 7 : 20 (110分)	7 : 30 5 9 : 00 (90分)	5 : 20 5 7 : 00 (100分)	7 : 15 5 8 : 50 (95分)	8 : 40 5 10 : 20 (100分)	10 : 30 5 12 : 00 (90分)	合 計	平 均	密 度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候		晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤~⑥	⑧ / 2
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
5	カンムリカイツブリ	○				○	○	○							○	
	ホトトギス	○	○	○	1			1	0.25	0.15	0.01	0.8	0.9	B		
	ツツドリ	○						○								
	カッコウ	○	○	○	○			○						B		
	ハチクマ				○			○								
10	トビ	○	○					○								
	ノスリ		○					○								
	モズ	3	2					5	1.25	0.76	0.06	3.9	4.7			
	カケス		1	1				2	0.50	0.30	0.03	1.6	1.9			
	ハシブトガラス		○	○		2		○							2	1.00
15	コガラ	1			2		3	3	0.75	0.46	0.04	2.3	2.8	B	3	1.50
	ヒガラ	1	3	○	1	1		5	1.25	0.76	0.06	3.9	4.7	B	1	0.50
	シジュウカラ	1						1	0.25	0.15	0.01	0.8	0.9			
	イワツバメ			○				○								
	ウグイス	24	27	27	28			106	26.50	16.10	1.33	82.2	100.0	B		
20	メボソムシクイ	○	○					○								
	コルリ	○						○								
	カヤクグリ					2	1								3	1.50
	ウソ						1								1	0.50
	ホオアカ				1			1	0.25	0.15	0.01	0.8	0.9			
25	アオジ	2	1	2				5	1.25	0.76	0.06	3.9	4.7	B		
30																
35																
40																
45																
50																
計	範囲内	個体数	32	34	30	33	5	5	129	32.25	19.59	1.61			10	5.00
		種 数	6	5	3	5	3	3	9						5	
		全 種 数	12	11	8	7	4	4	18						6	

調 査 地 の 概 況

市町村名	中之条町（旧六合村）	地形図名	長野原c	調 査 者	五十嵐 寛
調査範囲	4 k m（調査距離）×50 m（幅）=20ha			調査地の標高	740 ～ 940 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	白砂川の支流である矢ノ下沢川沿いから尾根筋に伸びる舗装された林道を登っていくコース。コースの半分以上は沢沿いであるが、沢沿いの樹木で沢筋は観察しづらい。落葉広葉樹の雑木林と、スギやヒノキの植林地が混じっているが、植林地は間伐などの手が入っていない込み入った状態である。赤岩の東側にカラマツが植えてある広い伐採地が2ヶ所広がり、猛禽類の狩場になり得る。交通量はなく、今回は人と会わなかった。 今回の調査では、雛に餌を運んでいると思われるモズとシジュウカラが観察された。周辺で繁殖したものと考えられる。
—	針葉樹林（自然林）	
◎	植林地（人工林）	
○	草地・草原・ヨシ原	
—	農耕地（田・畑・果樹園）	
—	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じ。繁殖期初日は前日の雨で増水し、沢沿いでは水音がうるさくて鳥の声を聞きづらかった。繁殖期2日目復路は8:10頃からハルゼミが鳴き始め、声を聞きづらかった。繁殖期の調査時にシカの声を聞き、カモシカを観察した。イノシシの痕跡もあった。林道は舗装されているので、ヤマビル対策は特に要らなかった。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

長野原c

調査者

五十嵐 寛

調 査 年 月 日			R6. 5. 21	R6. 5. 21	R6. 6. 8	R6. 6. 8	R6. 12. 4	R6. 12. 4	繁殖期							越冬期			
調 査 時 間			4 : 55 ＼ 6 : 50 (115分)	7 : 00 ＼ 8 : 55 (115分)	5 : 10 ＼ 7 : 05 (115分)	7 : 15 ＼ 9 : 20 (125分)	7 : 10 ＼ 9 : 10 (120分)	9 : 20 ＼ 11 : 15 (115分)	合 計	平 均	密 度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均		
									(118分)									Σ ⑤～⑥	⑧／2
天 候			晴	晴	曇	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り				1ha当り			⑧
種 類 ／ 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数											
5				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦									
	キジ			1	○	○	○	○	○	1	0.25	0.13	0.01	0.9	5.6	B	○		
	キジバト			2		○				2	0.50	0.26	0.03	1.8	11.1				
	アオバト			○	○	○	○	○		○						B	○		
	アオサギ				2					2	0.50	0.26	0.03	1.8	11.1				
10	ホトトギス			○	○		○			○						B			
	ツツドリ				○					○									
	カッコウ					○	○			○									
	コゲラ			○		○		○	2	○							2	1.00	
	オオアカゲラ						1			1	0.25	0.13	0.01	0.9	5.6				
15	アカゲラ			○	1		1	1	1	2	0.50	0.26	0.03	1.8	11.1		2	1.00	
	アオゲラ			1	○	1				2	0.50	0.26	0.03	1.8	11.1	B			
	サンショウクイ			○						○									
	モズ						1			1	0.25	0.13	0.01	0.9	5.6	A			
	カケス			3	3	2	5	11	1	13	3.25	1.66	0.16	11.4	72.2		12	6.00	
20	ハシブトガラス			○	○	○			2	○							2	1.00	
	キクイタダキ								1								1	0.50	
	コガラ				2			5	3	2	0.50	0.26	0.03	1.8	11.1		8	4.00	
	ヤマガラ			1		1	1	6	10	3	0.75	0.38	0.04	2.6	16.7	B	16	8.00	
	ヒガラ			2	○	○	2		10	4	1.00	0.51	0.05	3.5	22.2		10	5.00	
25	シジュウカラ				1	1	1	10	12	3	0.75	0.38	0.04	2.6	16.7	A	22	11.00	
	ヒヨドリ			1	2	4	11	1	○	18	4.50	2.30	0.23	15.8	100.0		1	0.50	
	ウグイス			4	3	3	1			11	2.75	1.40	0.14	9.6	61.1	B			
	ヤブサメ			1	○	2	1			4	1.00	0.51	0.05	3.5	22.2	B			
	エナガ			1	3			15	28	4	1.00	0.51	0.05	3.5	22.2		43	21.50	
30	センダイムシクイ			○			1			1	0.25	0.13	0.01	0.9	5.6	B			
	メジロ			○	1	2				3	0.75	0.38	0.04	2.6	16.7				
	ゴジュウカラ							2									2	1.00	
	ミソサザイ			2	2	3	5	1	○	12	3.00	1.53	0.15	10.5	66.7	B	1	0.50	
	カワガラス							1									1	0.50	
35	クロツグミ				○	2	1			3	0.75	0.38	0.04	2.6	16.7	B			
	ルリビタキ							1	3								4	2.00	
	コサメビタキ						2			2	0.50	0.26	0.03	1.8	11.1				
	キビタキ			1	1	3	1			6	1.50	0.77	0.08	5.3	33.3	B			
	オオルリ			1	1	1				3	0.75	0.38	0.04	2.6	16.7	B			
40	ホオジロ			1	1	1	3	5	2	6	1.50	0.77	0.08	5.3	33.3	B	7	3.50	
	カシラダカ							○	2								2	1.00	
	クロジ								1								1	0.50	
	ガビチョウ			1		1	3	○	8	5	1.25	0.64	0.06	4.4	27.8		8	4.00	
45																			
50																			
計	範 囲 内	個体数	23	23	27	41	59	86	114	28.50	14.55	1.43				145	72.50		
		種 数	15	13	14	17	12	15	25							19			
		全 種 数	23	22	21	21	17	18	32							21			

調 査 地 の 概 況

市町村名	中之条町 (旧六合村)	地形図名	小雨c	調 査 者	塚越 徹
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20 ha			調査地の標高	830 ~ 1000 m



調査地の環境 (調査コースの植生、地形など)

調査コース

◎ 広葉樹林 (自然林・雑木林)

— 針葉樹林 (自然林)

◎ 植林地 (人工林)

— 草地・草原・ヨシ原

— 農耕地 (田・畑・果樹園)

○ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

○ 河川湖沼・河川敷

白砂川の支流である長笹沢川に沿った県道55号線を、引沼集落から花敷温泉、尻焼温泉を通り、長平集落の先まで進むコースである。路面は全線舗装されているが、調査時の交通量は少なかった。長笹沢川は深い谷を形成されている。植生は、スギやカラマツなどの人工林と落葉広葉樹の雑木林が混成している。引沼から花敷温泉の区間と長平集落付近には、わずかに畑がある。長笹川やその支流の水量は一年を通じて豊富である。

今回の調査では、雛に餌を運んでいると思われるモズとホオジロが観察された。周辺で繁殖したものと考えられる。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

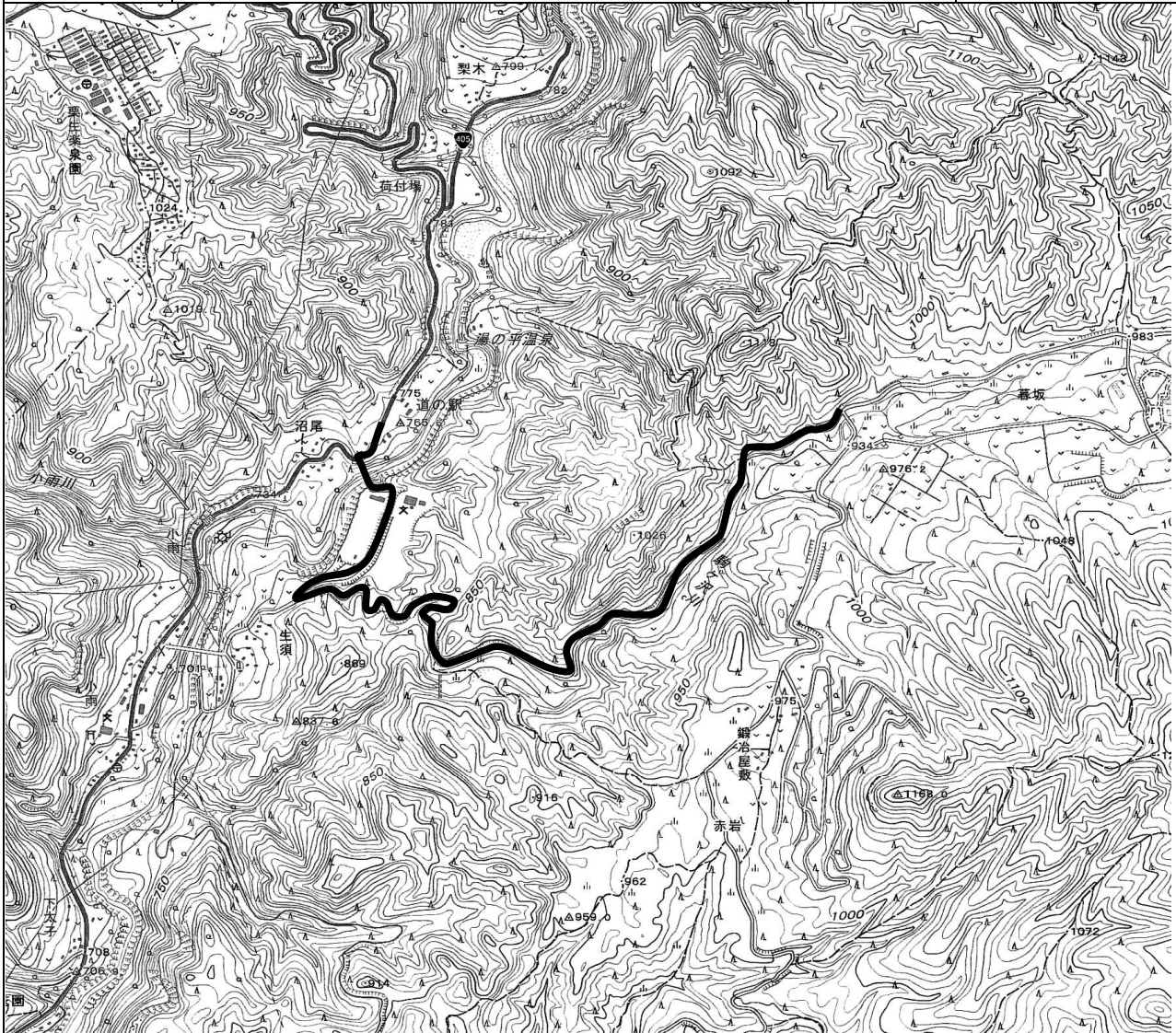
調査コースは前回と同じ。

塚越 徹

– 35 –

調 査 地 の 概 況

市町村名	中之条町 (旧六合村)	地形図名	小雨d	調 査 者	塚越 徹
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20ha			調査地の標高	750 ~ 935 m



調査地の環境 (調査コースの植生、地形など)

調査コース

◎	広葉樹林 (自然林・雑木林)	調査コースは、沼尾を起点として一級河川白沢川を渡り、県道中之条・草津線を駒ヶ沢川に沿って暮坂までである。路面は全区間舗装されている。植生は、ナラ、クヌギなどの広葉樹林とカラマツ、アカマツなどからなる混合林である。沼尾から生須までの区間には、人家、六合中学校、運動広場などの施設がある。耕作地 (畑) がわずかに点在している。白砂川や駒ヶ沢川の水量は年間を通じて豊富である。 今回の調査では、巣に出入りするツバメが観察され、繁殖が確認された。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
—	針葉樹林 (自然林)	
◎	植林地 (人工林)	
—	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地 (田・畑・果樹園)	
○	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	

<備考>

調査コースは前回と同じ。

塚越 徹

– 37 –

東吾妻町(旧東村)鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

旧東村に含まれる調査地は下表の 2 メッシュである。金井 c は低山帯に属し、里山集落を主とする環境である。調査範囲外であるが広範囲にゴルフ場が隣接しているコースである。金井 d は山地帯下部に属し、植林地や雑木林を中心に、農耕地や集落など里山的環境を含むコースである。

両メッシュとも調査コースは前回と同じである。金井 c では上信自動車道の工事が行われており、自動車道がコースの東半分と並走するため、自動車道が完成すると鳥類の生息環境に影響があると予想される。今回の調査ではカモシカが観察された。

調査メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
金井c	320 ～ 440	○	—	○	—	○	◎	—	○	前回と同じ
金井d	430 ～ 720	○	—	◎	○	○	○	—	○	前回と同じ

2. 調査結果と考察

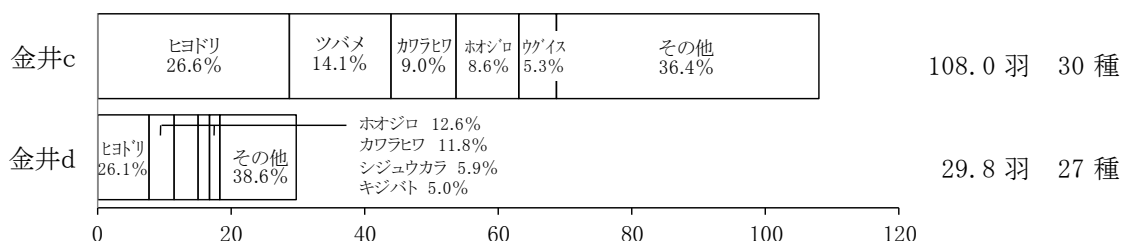
今回の調査では、旧東村全体で繁殖期に 35 種、越冬期に 30 種、年間では 46 種が記録された。なお、前々回（平成 26 年度実施）は繁殖期 38 種、越冬期 26 種、年間 44 種が、前回（令和元年度実施）は繁殖期 35 種、越冬期 36 種、年間 52 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図および各メッシュの調査表のとおりである。両メッシュとも植林地や里山集落などが主たる環境要素であるため、このような環境に多いヒヨドリやツバメ、ホオジロ、カワラヒワといった種が優占した。今回の調査地域全体と比較すると、金井 c の個体数がやや多く、金井 d は種数・個体数ともにやや少なかったが、全体的には平均的な値であった。この傾向は前回と同様である。

群馬県の絶滅のおそれのある野生生物（以下、群馬県版 RDB 掲載種と表記）は、アオバト、サンショウクイ、サンコウチョウの 3 種が記録された。一方、特定外来生物（以下、外来種と表記）のガビチョウとカオジロガビチョウが両メッシュで記録された。

今回の調査で繁殖に関係する行動が観察され、繁殖可能性が A ランクとなったのは、ツバメ、キセキレイ、ホオジロの 3 種であった。



繁殖期の平均個体数(羽/20ha) と種優占度(%)

(2) 越冬期

越冬期の優占種は次表のとおりであった。繁殖期と同様に、ヒヨドリやスズメ、ホオジロ、カワラヒワが優占した。今回の調査地域全体と比較すると、金井 d の個体数がやや少なかったが、全体的には平均的な値であった。群馬県版 RDB 掲載種はカシラダカが記録された。外来種のガビチョウが越冬期にも記録された。

調査メッシュ	優占種(上位5種*)					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
金井c	ヒヨドリ	スズメ	ホオジロ	メジロ	エナガ	82.5	20
金井d	シメ	カワラヒワ	カシラダカ	ハシブトガラス	カケス	28.5	22

*同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

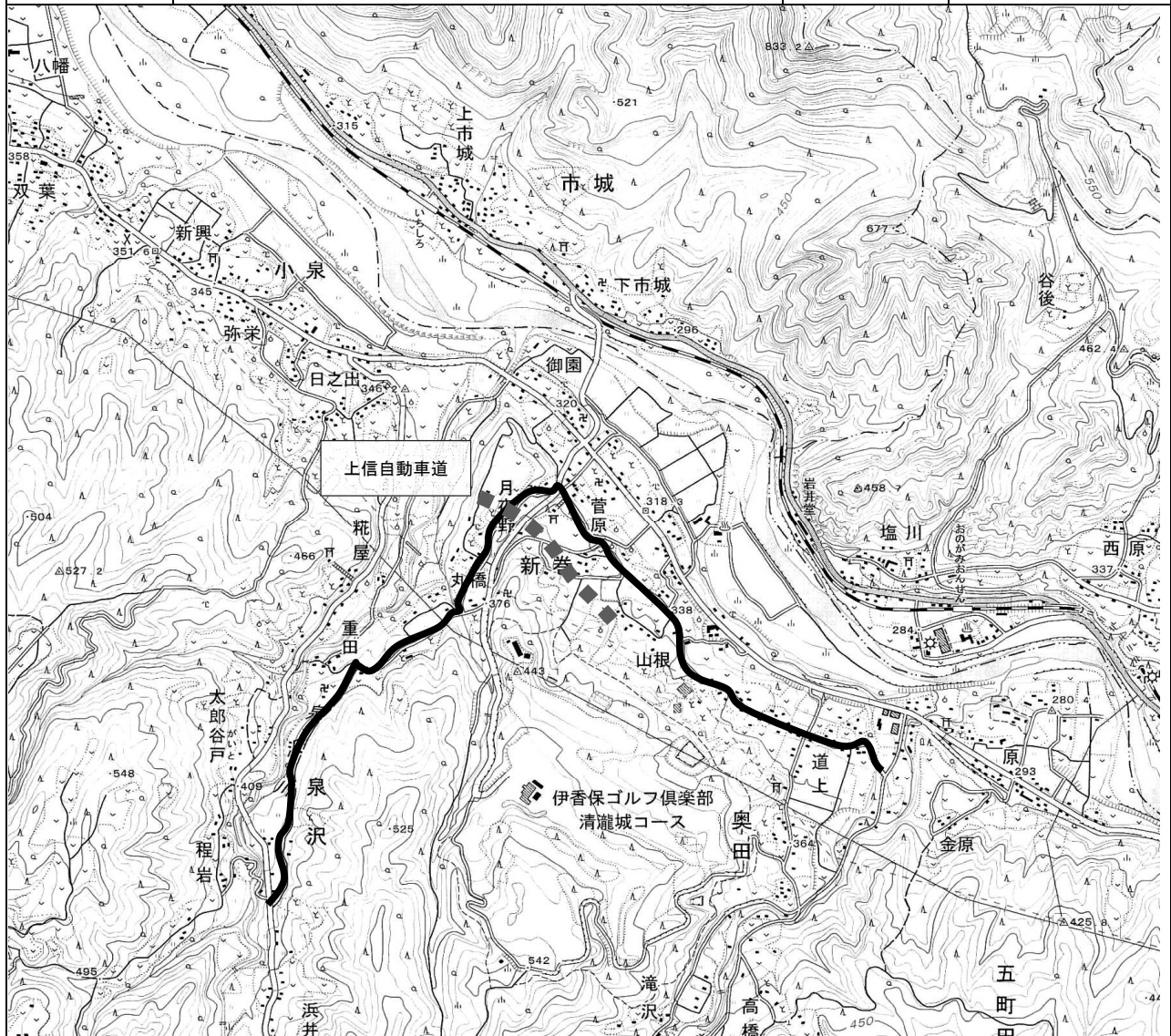
前回、前々回に記録が無く今回新たに記録された種は、アオバト、オオヨシキリ、トラツグミ、カオジロガビチョウの4種であった。このうち在来種のアオバトは、県南西部の山間部から分布を広げている種であり、今回の調査では県北西部の全市町村で記録された。また、外来種のカオジロガビチョウは、県中央部の大間々町から各地へ少しずつ分布を拡大している種であり、今回の調査では標高が高い草津町や旧六合村、嬬恋村、長野原町を除く4市町村で記録された。両種とも、今後も記録が増えていくものと考えられる。一方、前回、前々回とも記録されていたのに今回記録されなかった種は、カルガモ、アオサギ、アカゲラ、ツグミ、オオルリの5種であった。本調査では、この5種は旧東村では元来あまり記録が多くはなかったので、今後も記録されることがあると考えられ、減少が著しいために記録されなくなったということではない。また、前回記録されなくなったクロツグミが今回も記録されなかった。クロツグミは外来種のガビチョウと生態的地位が近いと考えられるため、ガビチョウの増加が影響を与えた可能性も考えられる。ただし、旧中之条町など、近隣の地域ではガビチョウの増加が影響した様子が認められないこと、また、旧東村ではガビチョウは繁殖期・越冬期とも、両メッシュで記録された個体数が前回とほぼ同じかやや減少したことから、旧東村におけるクロツグミの減少にガビチョウの影響があったのか、またどの程度影響したのかについては、今後の検証が必要である。

過去3回分の調査結果は下表のとおりである。過去3回の比較では、金井 d の繁殖期の個体数、金井 c の越冬期の個体数がやや減少したが、金井 d はヒヨドリとウグイスが、金井 c はスズメとホオジロの記録数の減少が一因であるが、どれも個体数変動の範囲内であり、旧東村全体としては大きな変化は認められなかった。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H26	R1	R6	H26	R1	R6	H26	R1	R6	H26	R1	R6
金井c	31	32	30	113.0	130.5	108.0	25	25	20	179.0	102.5	82.5
金井d	27	17	27	61.5	33.5	29.8	11	29	22	36.5	78.5	28.5

調 査 地 の 概 況

市町村名	東吾妻町（旧（吾）東村）	地形図名	金井c	調 査 者	葛生 淳一
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）= 20 ha			調査地の標高	320 ～ 440 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○	広葉樹林（自然林・雑木林）	吾妻川右岸の里山集落を通る調査コース。全線舗装道路で竹林、スギ植林地、落葉樹の雑木林、人家、農耕地が道路沿いに続く。コースの東半分は緩傾斜地で民家や農耕地が連続する。西半分は山の麓に沿うルートになる。湧水由来と思われる水場が豊富にある。 今回の調査では、ツバメが営巣する民家を2軒確認できた。また、雛に給餌していると思われるキセキレイとホオジロが記録された。周辺で繁殖したものと考えられる。
—	針葉樹林（自然林）	
○	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地（田・畑・果樹園）	
◎	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	
		← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じ。越冬期の調査時は、上信自動車道の工事によって調査結果が影響を受けた。コースの東半分が自動車道と近くなるため、今後の調査にどの程度影響があるか、次回の調査時に検討が必要であろう。繁殖期1回目に南西端でカモシカを観察した。

葛生 淳一

– 43 –

調 査 地 の 概 況

市町村名	東吾妻町（旧（吾）東村）	地形図名	金井d	調 査 者	木村 紀久
調査範囲	4 k m（調査距離）×50 m（幅）＝20ha			調査地の標高	430 ～ 720 m

調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
○	広葉樹林（自然林・雑木林）	平五良地区には集落があり、近くには雑木林や田畑があるがその他はほとんどが山林で、スギの植林地が多い。奥田川沿いの上流部も大半がスギの植林地である。奥田川は水量が豊富で植林地では所々で伐採が行われていた。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
—	針葉樹林（自然林）	
◎	植林地（人工林）	
○	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	
<備考> 調査コースは前回と同じ。越冬期の調査はみぞれ交じりの天候で風も強く、鳥の声を確認しづかった。調査範囲外でアオゲラと思われる声を聞いたが、確認できなかった。		

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

金井d

調査者

木村 紀久

調 査 年 月 日			R6. 5. 24	R6. 5. 24	R6. 6. 9	R6. 6. 9	R6. 12. 22	R6. 12. 22	繁殖期							越冬期		
調 査 時 間			5 : 20 5 6 : 55 (95分)	7 : 00 5 8 : 35 (95分)	5 : 30 5 7 : 15 (105分)	7 : 20 5 9 : 20 (120分)	8 : 30 5 10 : 05 (95分)	10 : 10 5 11 : 40 (90分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均	
天 候			晴	晴	曇	曇	曇	曇	Σ①～④	⑦／ 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／ 2	
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数			⑧							
5				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦								
	キジ			○	○	○			○									
	キジバト			2	2	1	1		6	1. 50	0. 87	0. 08	5. 0	19. 4	B			
	アオバト			○	○	○	○		○						B			
	ホトトギス			○		○			○						B			
10	トビ							1								1	0. 50	
	コゲラ			1	1	1	1		4	1. 00	0. 58	0. 05	3. 4	12. 9		1	0. 50	
	アオゲラ			○	○	1	1		2	0. 50	0. 29	0. 03	1. 7	6. 5				
	カケス			1	1	1	○	4	1	3	0. 75	0. 43	0. 04	2. 5	9. 7		5	2. 50
	ハシボソガラス					2	○		2	0. 50	0. 29	0. 03	1. 7	6. 5				
15	ハシブトガラス			1	2	○	1	2	3	4	1. 00	0. 58	0. 05	3. 4	12. 9		5	2. 50
	コガラ							○	○							○		
	ヤマガラ			2	○	○	1	○	○	3	0. 75	0. 43	0. 04	2. 5	9. 7	B	○	
	ヒガラ					1	1	○	○	2	0. 50	0. 29	0. 03	1. 7	6. 5		○	
	シジュウカラ			2	2	1	2	2	2	7	1. 75	1. 01	0. 09	5. 9	22. 6	B	4	2. 00
20	ツバメ				○	1	1			2	0. 50	0. 29	0. 03	1. 7	6. 5	B		
	ヒヨドリ			6	6	6	13		○	31	7. 75	4. 48	0. 39	26. 1	100. 0		○	
	ウグイス			○	○	1	2	○	1	3	0. 75	0. 43	0. 04	2. 5	9. 7	B	1	0. 50
	ヤブサメ			1	○	○	1			2	0. 50	0. 29	0. 03	1. 7	6. 5	B		
	エナガ			2	1		1			4	1. 00	0. 58	0. 05	3. 4	12. 9	B		
25	メジロ			○	○		2	○		2	0. 50	0. 29	0. 03	1. 7	6. 5	B	○	
	ミソサザイ							1								1	0. 50	
	トラツグミ			○		○	○			○						B		
	シロハラ								2								2	1. 00
	ジョウビタキ							1	1								2	1. 00
30	キビタキ			○	1	○	1			2	0. 50	0. 29	0. 03	1. 7	6. 5	B		
	スズメ			1						1	0. 25	0. 14	0. 01	0. 8	3. 2			
	キセキレイ			2	1	3	○			6	1. 50	0. 87	0. 08	5. 0	19. 4	B		
	カワラヒワ			1	3	6	4	7		14	3. 50	2. 02	0. 18	11. 8	45. 2	B	7	3. 50
	ベニマシコ							1									1	0. 50
35	シメ							15									15	7. 50
	イカル							1									1	0. 50
	ホオジロ			7	2	1	5	2	2	15	3. 75	2. 17	0. 19	12. 6	48. 4	B	4	2. 00
	カシラダカ							3	3								6	3. 00
	アオジ								1								1	0. 50
40	コジュケイ			○						○								
	ガビチョウ			1	○	2	1	○	○	4	1. 00	0. 58	0. 05	3. 4	12. 9	B	○	
	カオジロガビチョウ			○						○								
45																		
50																		
計	範 囲 内	個体数	30	22	28	39	39	18	119	29. 75	17. 20	1. 49				57	28. 50	
		種 数	14	11	14	17	11	11	21							16		
		全 種 数	24	20	22	22	17	16	27							22		

東吾妻町(旧吾妻町)鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

旧吾妻町に含まれる調査地は下表の 10 メッシュである。群馬原町 a・c・d が低山帯に、その他のメッシュが山地帯下部に属し、広葉樹の雑木林とスギやヒノキ、カラマツなどの植林地を中心とした環境が主要な要素となっている。群馬原町 c と榛名湖 c は、集落と農耕地を多く含む里山的環境が主要な環境要素となっているが、その他のメッシュは小さな山間集落と狭い農耕地をわずかに含むだけである。

群馬原町 d は、前回までの調査コースが採石場の運搬道を通るためダンプの交通量が多く調査日に制約があったことから、大谷沢川の右岸の林道にコースを移動したが（地図参照）、それ以外のメッシュは前回と同じコースで実施した。群馬原町 c は上信自動車道の完成区間が調査コースとほぼ並走しており、全線開通後は交通量が増えて、鳥類の生息環境に影響があるものと予想される。今回の調査では、アナグマ（轢死体）、イノシシ（痕跡）、ニホンジカが観察された。

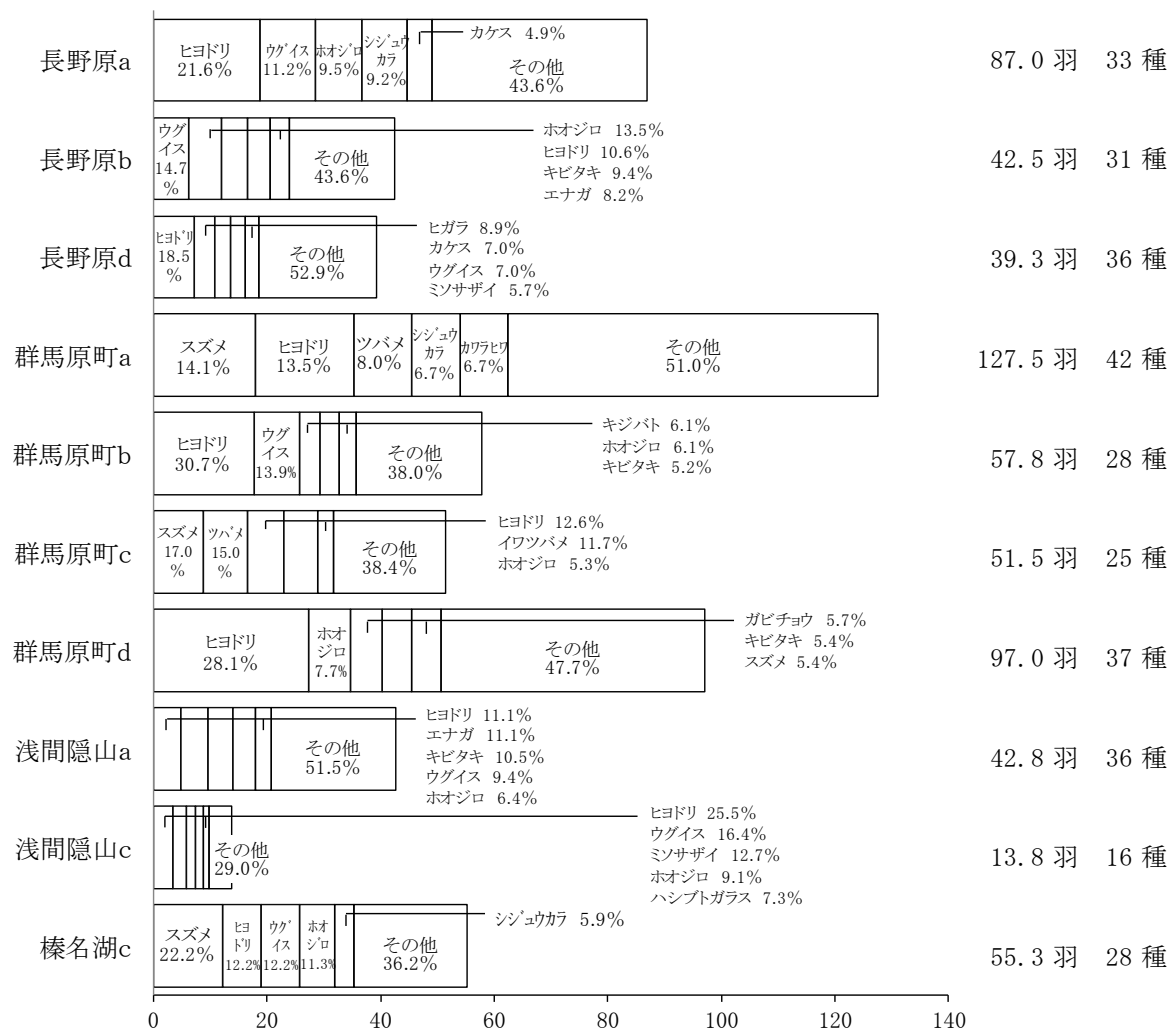
調査 メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広 葉 樹 林	針 葉 樹 林	植 林 地	草 地 草 原	農 耕 地	里 山 集 落	市 街 地	河 川 湖 沼	
長野原a	500 ～ 900	◎	—	◎	○	○	○	—	—	前回と同じ
長野原b	650 ～ 800	○	○	◎	—	○	○	—	○	前回と同じ
長野原d	830 ～ 1180	◎	—	○	—	—	—	—	○	前回と同じ
群馬原町a	350 ～ 600	○	—	◎	—	◎	○	—	—	前回と同じ
群馬原町b	600 ～ 660	○	—	◎	—	○	○	—	—	前回と同じ
群馬原町c	410 ～ 460	○	—	○	—	○	◎	—	○	前回と同じ
群馬原町d	425 ～ 590	◎	—	○	—	◎	○	—	○	全部変更
浅間隠山a	740 ～ 900	◎	—	○	○	—	—	—	—	前回と同じ
浅間隠山c	790 ～ 1100	○	—	◎	○	○	○	—	○	前回と同じ
榛名湖c	625 ～ 790	○	○	○	—	○	◎	—	—	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今回の調査では、旧吾妻町全体で繁殖期に 67 種、越冬期に 51 種、年間では 83 種が記録された。なお、前々回（平成 26 年度実施）は繁殖期 61 種、越冬期 48 種、年間 77 種が、前回（令和元年度実施）は繁殖期 62 種、越冬期 48 種、年間 77 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は次ページの図および各メッシュの調査票のとおりである。どのメッシュも森林を主な環境要素に含むため、ヒヨドリやシジュウカラ、キビタキといった主に森林に生息する種や、林縁部の藪に生息するウグイスやホオジロなどが優占した。また、農耕地や里山集落を含むメッシュでは、スズメやツバメなどの人里に生息する種も上位に入った。今回の調査地域全体と比較すると、長野原 d の個体数、群馬原町 c の種数がやや少なく、浅間隠山 c は種数・個体数ともに少なかった。また、群馬原町 a と群馬原町 d の個体数がやや多く、群馬原町 a の種数が多かったが、全体としては、著しく多い、あるいは少ない傾向はみられず、平均的な値であった。



繁殖期の平均個体数(羽/20ha) と種優占度(%)

群馬県の絶滅のおそれのある野生生物（以下、群馬県版 RDB 掲載種と表記）は、アオバト、ミゾゴイ、ゴイサギ、ジュウイチ、ツツドリ、ハチクマ、オオタカ、フクロウ、オオアカゲラ、サンショウクイ、サンコウチョウ、オナガ、マミジロ、アカハラ、コサメビタキ、ノジコ、クロジの 17 種が記録された。このうちミゾゴイは県内では記録が少なく、貴重である。また、猛禽類はハチクマ、オオタカ、フクロウの 3 種が記録された。猛禽類は生態系の最上位に位置し、地域の良好な環境の指標として重要である。一方、特定外来生物（以下、外来種と表記）のガビチョウが全てのメッシュで、カオジロガビチョウも 2 メッシュで記録された。クロツグミやウグイスなどの在来種への影響が懸念されるが、現時点ではその影響の有無を判断できなかった。

今回の調査で繁殖に関係する行動が観察され、繁殖可能性が A ランクとなったのは、シジュウカラ、ツバメ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロの 5 種であった。

(2) 越冬期

越冬期の優占種は次の表のとおりであった。繁殖期と同様に、シジュウカラやヒヨドリ、エナガといった森林性の種のほか、カシラダカ、カワラヒワ、スズメ、ホオジロといった農

耕地に生息する種が優占した。今回の調査地域全体と比較すると、種数・個体数ともに、長野原 d、浅間隠山 a・c が少なく、群馬原町 a が多かったが、旧吾妻町全体としては平均的な値を示した。

群馬県版 RDB 掲載種は、オオタカ、オナガ、カシラダカの 3 種が記録された。繁殖期と同様に、猛禽類のオオタカは、良好な環境の指標として重要である。一方、外来種のガビチョウは越冬期にも 6 メッシュで記録され、カオジロガビチョウとソウシチョウも記録された。ソウシチョウは前回、繁殖期に浅間隠山 a で記録されたが、今回は榛名湖 c で越冬期に記録された。本種は標高の高い地域で繁殖し、越冬期には標高が低い地域へ移動するが、生息状況を把握しづらいため、今後の調査で実態を解明することが望まれる。

調査メッシュ	優占種(上位5種*)					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
長野原a	カシラダカ	シジュウカラ	エナガ	ヒヨドリ	ヒガラ	111.0	23
長野原b	カワラヒワ	カシラダカ	エナガ	シジュウカラ	キジバト	51.5	21
長野原d	コガラ	エナガ	ヒヨドリ	カケス	シジュウカラ	26.0	10
群馬原町a	カワラヒワ	カシラダカ	エナガ	シジュウカラ	スズメ	223.5	38
群馬原町b	シジュウカラ	エナガ	カシラダカ	カケス	ヒガラ	75.0	21
群馬原町c	カワラヒワ	ヒヨドリ	シジュウカラ	カシラダカ	スズメ	95.0	16
群馬原町d	ヒヨドリ	シジュウカラ	カワラヒワ	ホオジロ	スズメ	100.0	25
浅間隠山a	エナガ	コガラ	コゲラ	ヒヨドリ	ホオジロ	19.0	12
浅間隠山c	カシラダカ	カワガラス	カケス	ジョウビタキ	ヒヨドリ	6.5	5
榛名湖c	カシラダカ	カワラヒワ	ヒヨドリ	シジュウカラ	ガビチョウ	53.5	19

*同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

過去 3 回分の調査結果は次ページの表のとおりである。過去 3 回の比較では、浅間隠山 c の種数が繁殖期、越冬期ともにやや減少し、榛名湖 c の越冬期の個体数が著しく減少した。浅間隠山 c の種数が減少したのは、繁殖期はジュウイチ、ツツドリ、カッコウといった托卵鳥が記録されなくなったこと、越冬期はシジュウカラやヤマガラなどのカラ類やコゲラ、アカゲラなどのキツツキ類が記録されなかったことが一因である。また、榛名湖 c の越冬期の個体数が減少したのは、スズメが激減したことと、カワラヒワやホオジロ、カシラダカおよびシジュウカラやエナガなどのカラ類の記録数が減少したことが主な要因である。カッコウ類 3 種は群馬県内では減少傾向にあり、群馬県版 RDB では絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。浅間隠山 c では前回に引き続き、カッコウ類が記録されなかったが、その原因は不明である。一方、越冬期の減少傾向は、群れが記録されることが多い種が一因となっており、全国的な減少傾向にあるスズメを除くと、記録数の変動の範囲内であり、実際の個体数が著しく減少している可能性は高いものと考えられる。

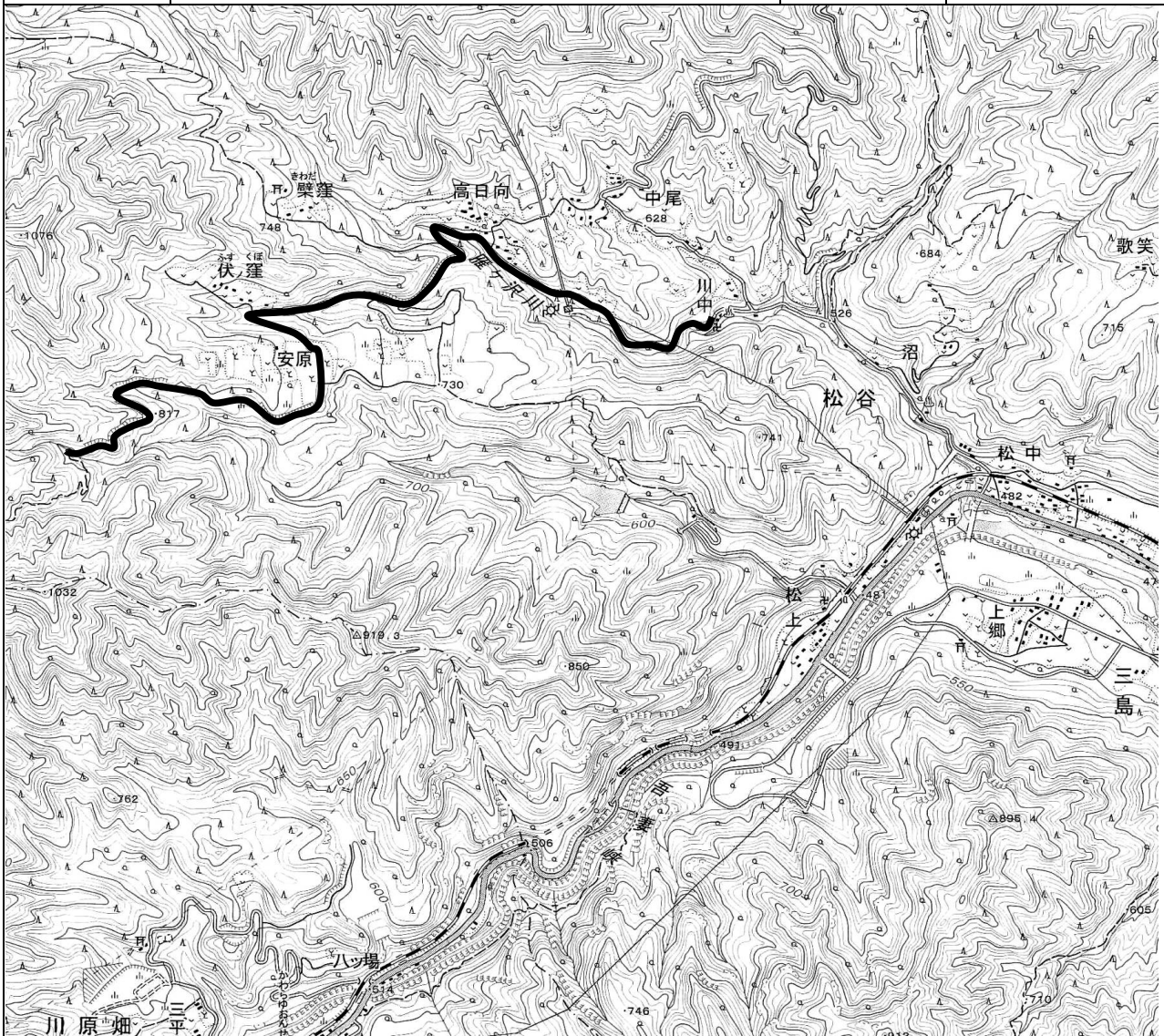
前回、前々回に記録が無く今回新たに記録された種は、ミゾゴイ、ゴイサギ、フクロウ、コムドリ、シロハラ の 5 種であった。一方、前回、前々回とも記録されていたのに今回記録されなかった種は、ハイタカ、アカショウビン、キクイタダキ、エゾムシクイ の 4 種であった。また、前回の調査で記録が途絶えたジュウイチとカッコウは、県内では個体数が減少

し、分布も縮小している種である。ジュウイチは今回、2メッシュで記録されたが、カッコウは今回も記録されなかった。両種とも繁殖期には、遠くからでも聞き取れる特徴的な声で鳴くため、調査コース周辺に生息していれば記録される可能性が高い。旧吾妻町でのカッコウの動向に注目したい。過去3回とも記録されている種の中で、個体数の増減が顕著な種はなかったが、ガビチョウの増加が他種よりやや目立った。旧吾妻町全体で、直近4回の調査結果（H21、H26、R1、R6年度実施）では、ガビチョウの繁殖期の平均個体数は7.5羽、12.5羽、17.8羽、20.5羽と増加している。越冬期についても0.0羽、4.0羽、14.0羽、13.0羽と増加傾向にあり、今後も個体数が急激に増加していくと、在来種への影響が出ることが危惧される。一方、繁殖期の個体数減少が心配されたスズメは、67.5羽、50.8羽、35.8羽、44.3羽と推移し、やや持ち直したようにも見える。スズメは、現在は普通種で個体数も少なくないが、全国的に減少している種であることから、その動向を注視していく必要がある。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H26	R1	R6	H26	R1	R6	H26	R1	R6	H26	R1	R6
長野原a	30	28	33	47.8	41.8	87.0	22	23	23	50.5	81.0	111.0
長野原b	30	34	31	31.3	46.3	42.5	16	24	21	26.5	66.0	51.5
長野原d	35	31	36	52.0	50.5	39.3	14	17	10	47.0	72.0	26.0
群馬原町a	39	43	42	111.0	124.0	127.5	33	31	38	149.5	237.0	223.5
群馬原町b	26	33	28	41.8	67.5	57.8	20	17	21	43.5	67.0	75.0
群馬原町c	23	24	25	67.8	59.8	51.5	16	20	16	83.5	96.5	95.0
群馬原町d	39	34	37	67.8	84.0	97.0	19	26	25	61.0	110.0	100.0
浅間隠山a	27	32	36	33.0	38.5	42.8	15	24	12	44.5	133.5	19.0
浅間隠山c	28	21	16	26.5	15.0	13.8	13	12	5	23.0	13.5	6.5
榛名湖c	31	33	28	76.3	70.0	55.3	26	22	19	233.0	112.0	53.5

調 査 地 の 概 況

市町村名	東吾妻町（旧吾妻町）	地形図名	長野原a	調 査 者	奥 浩之
調査範囲	4 k m（調査距離）×50 m（幅）=20ha			調査地の標高	500 ～ 900 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	コースのほとんどはスギとヒノキの人工林だが、沢筋には広葉樹の雑木林が残っている。コース上にある2か所の集落には、ところどころに畑地がある。道路は全線舗装されており、自動車の通行もあるが少ない。道端には食餌植物となるイネ科の雑草も多い。雁ヶ沢川は水量が豊富で、冬も涸れないため、水場には困らない。 今回の調査では、巣立ち雛と思われるホオジロが観察された。周辺で繁殖したものと考えられた。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
—	針葉樹林（自然林）	
◎	植林地（人工林）	
○	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
—	河川湖沼・河川敷	

<備考>

調査コースは前回と同じ。繁殖期の調査時は、川の水量が多く、特に2日目は沢音で鳥の声が聞きづらかった。越冬期の調査時は、一部の路面に残雪があり、凍っていた。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

長野原a

調査者

奥 浩之

調 査 年 月 日	R5. 5. 23	R5. 5. 23	R5. 6. 9	R5. 6. 9	R6. 12. 31	R6. 12. 31	繁殖期							越冬期	
	5 : 40 ㄱ 7 : 15 (95分)	7 : 25 ㄱ 9 : 25 (120分)	5 : 05 ㄱ 7 : 05 (120分)	7 : 20 ㄱ 9 : 25 (125分)	8 : 00 ㄱ 10 : 00 (120分)	10 : 10 ㄱ 12 : 10 (120分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
調 査 時 間															
天 候	晴	晴	曇	曇	晴	曇	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤~⑥	⑧ / 2
種 類 / 結 果	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦				(%)	(%)		⑧	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦								
ヤマドリ			1				1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.3			
キジバト	4	1	1	2			8	2.00	1.04	0.10	2.3	10.7	B		
アオバト	○	1	○	1			2	0.50	0.26	0.03	0.6	2.7	B		
ジュウイチ	○	1					1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.3			
5 ホトトギス	1	1	1	○			3	0.75	0.39	0.04	0.9	4.0	B		
ツツドリ	○						○								
ノスリ				1			1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.3			
コゲラ	5	2	4	2	4	5	13	3.25	1.70	0.16	3.7	17.3		9	4.50
オオアカゲラ			1	1			2	0.50	0.26	0.03	0.6	2.7			
10 アカゲラ	4	1	1	2			8	2.00	1.04	0.10	2.3	10.7	B		
アオゲラ	1	1	1		○		3	0.75	0.39	0.04	0.9	4.0		○	
サンショウクイ	1		1	1			3	0.75	0.39	0.04	0.9	4.0			
カケス	2	4	7	4	2	3	17	4.25	2.22	0.21	4.9	22.7		5	2.50
ハシブトガラス	○		1	○	1		1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.3		1	0.50
15 コガラ	1		7	2	1	2	10	2.50	1.30	0.13	2.9	13.3	B	3	1.50
ヤマガラ	5	3	3	1	8	4	12	3.00	1.57	0.15	3.4	16.0	B	12	6.00
ヒガラ		6	1	4	10	7	11	2.75	1.43	0.14	3.2	14.7	B	17	8.50
シジュウカラ	15	11	3	3	20	15	32	8.00	4.17	0.40	9.2	42.7	B	35	17.50
ヒヨドリ	20	14	22	19	6	11	75	18.75	9.78	0.94	21.6	100.0	B	17	8.50
20 ウグイス	17	9	7	6			39	9.75	5.09	0.49	11.2	52.0	B		
ヤブサメ	2	4	2	5			13	3.25	1.70	0.16	3.7	17.3	B		
エナガ		2		3	10	8	5	1.25	0.65	0.06	1.4	6.7		18	9.00
メジロ	3	2	3	○	2	○	8	2.00	1.04	0.10	2.3	10.7	B	2	1.00
ミソサザイ	1	1		1	1		3	0.75	0.39	0.04	0.9	4.0		1	0.50
25 カワガラス	1	1		1			3	0.75	0.39	0.04	0.9	4.0			
トラツグミ		○	○	○			○						B		
クロツグミ	2		2				4	1.00	0.52	0.05	1.1	5.3	B		
ルリビタキ					2	2								4	2.00
ジョウビタキ					3	1								4	2.00
30 キビタキ	4	3	6	4			17	4.25	2.22	0.21	4.9	22.7	B		
オオルリ				2			2	0.50	0.26	0.03	0.6	2.7			
カヤクグリ					3	3								6	3.00
キセキレイ	○	○					○								
カワラヒワ					5	1								6	3.00
35 ベニマシコ					1	6								7	3.50
ホオジロ	5	8	14	6	5		33	8.25	4.30	0.41	9.5	44.0	A	5	2.50
カシラダカ					37	26								63	31.50
ミヤマホオジロ					1									1	0.50
アオジ					1									1	0.50
40 コジュケイ	1		○	○			1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.3			
ガビチョウ	6	5	4	2	4		17	4.25	2.22	0.21	4.9	22.7		4	2.00
カオジロガビチョウ					1									1	0.50
45															
50															
計	範囲内	個体数	101	81	93	73	128	94	348	87.00	45.39	4.35		222	111.00
		種 数	21	21	22	22	22	14	30					22	
		全 種 数	26	23	25	27	23	15	33					23	

調 査 地 の 概 況

市町村名	東吾妻町（旧吾妻町）	地形図名	長野原b	調 査 者	瀧川二士男
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝ 20 ha			調査地の標高	650 ～ 800 m

調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
○ 広葉樹林（自然林・雑木林）	水神原から北に向かい、尾根を越えて大場に向かうコース。水神原と大場は集落で、田畑がある里山の環境である。尾根を越える道沿いは、スギ・ヒノキの植林と落葉広葉樹の林がある。尾根を挟んで南に温川、北に今川があり、途中にも沢が点在する変化に富んだ環境である。	
○ 針葉樹林（自然林）		
◎ 植林地（人工林）		
— 草地・草原・ヨシ原		
○ 農耕地（田・畑・果樹園）		
○ 里山・疎らな民家		
— 市街地・工業団地		
○ 河川湖沼・河川敷	← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。	

<備考>

調査コースは前回と同じ。繁殖期1回目の調査時、コース南端から500mほど離れた路上にアナグマの死体があった。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

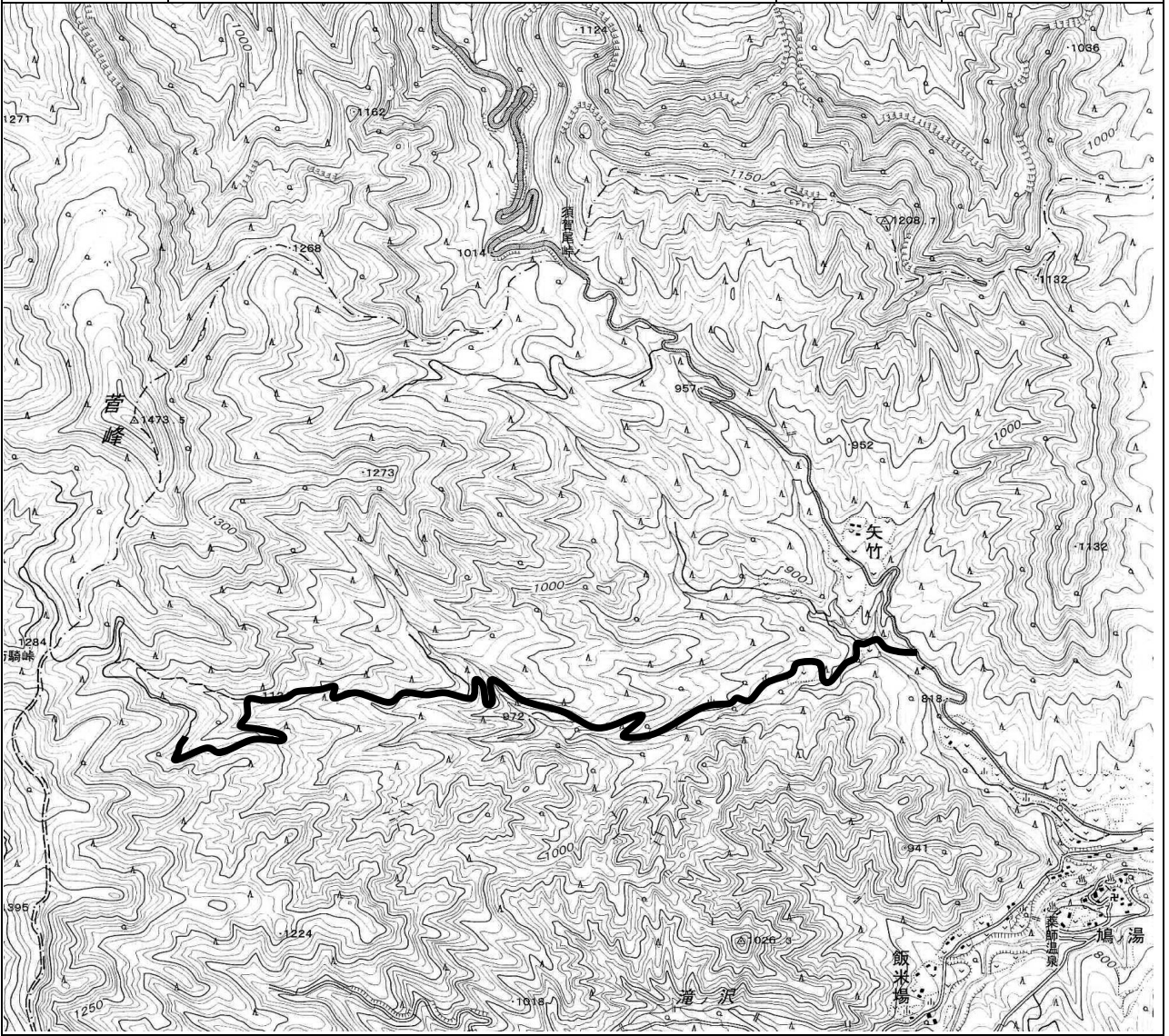
長野原b

調査者

瀧川二士男

調 査 年 月 日			R6. 5. 23	R6. 5. 23	R6. 6. 11	R6. 6. 11	R6. 12. 10	R6. 12. 10	繁殖期								越冬期	
			4 : 50 5 6 : 30 (100分)	6 : 40 5 8 : 10 (90分)	5 : 00 5 6 : 35 (95分)	6 : 45 5 8 : 15 (90分)	8 : 00 5 9 : 30 (90分)	9 : 40 5 11 : 10 (90分)	合 計	平 均 (94分)	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (90分)	
天 候			晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／ 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2	
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦				⑧					
5	キジ			○	○	○	○			○				B				
	キジバト			1	2	2	1	3	2	6	1. 50	0. 96	0. 08	3. 5	24. 0	B	5	2. 50
	アオバト			○	○	○	○			○					B			
	ミゾゴイ					1				1	0. 25	0. 16	0. 01	0. 6	4. 0			
	アオサギ				○	1				1	0. 25	0. 16	0. 01	0. 6	4. 0			
10	ホトトギス			○	○	○	1			1	0. 25	0. 16	0. 01	0. 6	4. 0	B		
	トビ					○				○								
	ノスリ						○	1		○						1	0. 50	
	コゲラ							1	○							1	0. 50	
	アオゲラ			2			1		1	3	0. 75	0. 48	0. 04	1. 8	12. 0		1	0. 50
15	サンショウクイ			○	○		○			○								
	モズ					○	1			1	0. 25	0. 16	0. 01	0. 6	4. 0			
	カケス			1	○		1	1	2	2	0. 50	0. 32	0. 03	1. 2	8. 0	3	1. 50	
	ハシブトガラス					2	4		○	6	1. 50	0. 96	0. 08	3. 5	24. 0	○		
	コガラ							1								1	0. 50	
20	ヤマガラ			2	1	2	1		2	6	1. 50	0. 96	0. 08	3. 5	24. 0	B	2	1. 00
	ヒガラ			○	○		1			1	0. 25	0. 16	0. 01	0. 6	4. 0	B		
	シジュウカラ			2	2		4	4	3	8	2. 00	1. 28	0. 10	4. 7	32. 0	B	7	3. 50
	ツバメ				2					2	0. 50	0. 32	0. 03	1. 2	8. 0			
	ヒヨドリ			5	6	4	3	4	○	18	4. 50	2. 88	0. 23	10. 6	72. 0		4	2. 00
25	ウグイス			6	7	6	6		1	25	6. 25	4. 00	0. 31	14. 7	100. 0	B	1	0. 50
	ヤブサメ				1					1	0. 25	0. 16	0. 01	0. 6	4. 0			
	エナガ					3	11	3	9	14	3. 50	2. 24	0. 18	8. 2	56. 0		12	6. 00
	メジロ				3	2	3			8	2. 00	1. 28	0. 10	4. 7	32. 0			
	ミソサザイ							2									2	1. 00
30	トラツグミ				○	1	○			1	0. 25	0. 16	0. 01	0. 6	4. 0	B		
	クロツグミ			○	1	○	○			1	0. 25	0. 16	0. 01	0. 6	4. 0	B		
	ルリビタキ							2	○							2	1. 00	
	キビタキ			4	3	3	6			16	4. 00	2. 56	0. 20	9. 4	64. 0	B		
	オオルリ					1				1	0. 25	0. 16	0. 01	0. 6	4. 0			
35	カヤクグリ							1									1	0. 50
	キセキレイ					2	2			4	1. 00	0. 64	0. 05	2. 4	16. 0			
	セグロセキレイ							1								1	0. 50	
	カワラヒワ			4	3	○	○	2	35	7	1. 75	1. 12	0. 09	4. 1	28. 0		37	18. 50
	ベニマシコ							3	2								5	2. 50
40	イカル			1	1		2			4	1. 00	0. 64	0. 05	2. 4	16. 0			
	ホオジロ			4	7	6	6	2	2	23	5. 75	3. 68	0. 29	13. 5	92. 0	B	4	2. 00
	カシラダカ								13								13	6. 50
	ガビチョウ			1	2	3	3	○		9	2. 25	1. 44	0. 11	5. 3	36. 0	B	○	
45																		
50																		
計	範囲内	個体数	33	41	39	57	31	72	170	42. 50	27. 20	2. 13				103	51. 50	
		種 数	12	14	15	18	15	11	26							19		
		全 種 数	18	22	22	25	16	15	31							21		

市町村名	東吾妻町（旧吾妻町）	地形図名	長野原d	調 査 者	一倉 行雄
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）＝20ha			調査地の標高	830 ～ 1180 m

調査コース

◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	全線舗装された林道を進むコース。落葉広葉樹の雑木林を主として、カラマツやスギなどの植林地が混在する。コース沿いの沢は水量が豊富で、冬も涸れない。シカの食害で下草が減り、総個体数は減少傾向である。
－	針葉樹林（自然林）	
○	植林地（人工林）	
－	草地・草原・ヨシ原	
－	農耕地（田・畑・果樹園）	
－	里山・疎らな民家	
－	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

調査コースは前回と同じ。繁殖期2日目の調査時は、ハルゼミがうるさくて鳥の声を聞きづらかった。越冬期の調査時、コース上空に強風が吹き、その影響か鳥が少なかった。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

長野原d

調査者

一倉 行雄

調 査 年 月 日			R6. 5. 19	R6. 5. 19	R6. 6. 15	R6. 6. 15	R6. 12. 6	R6. 12. 6	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間			6 : 30 ＼ 8 : 15 (105分)	8 : 20 ＼ 10 : 00 (100分)	6 : 40 ＼ 8 : 15 (95分)	8 : 20 ＼ 10 : 20 (120分)	7 : 50 ＼ 9 : 20 (90分)	9 : 30 ＼ 11 : 00 (90分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候			曇	曇	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／ 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数								⑧	
5				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							
	ヤマドリ			1			1			2	0.50	0.29	0.03	1.3	6.9	B	
	キジバト					1				1	0.25	0.14	0.01	0.6	3.4		
	アオバト			1	1	1	1			4	1.00	0.57	0.05	2.5	13.8		
	ジュウイチ			1	2					3	0.75	0.43	0.04	1.9	10.3		
10	ホトトギス			1		1	1			3	0.75	0.43	0.04	1.9	10.3	B	
	ツツドリ			○	○	1	○			1	0.25	0.14	0.01	0.6	3.4	B	
	トビ					1				1	0.25	0.14	0.01	0.6	3.4		
	コゲラ			1					1	1	0.25	0.14	0.01	0.6	3.4		1
	アカゲラ			1						1	0.25	0.14	0.01	0.6	3.4		0.50
15	アオゲラ			2	1					3	0.75	0.43	0.04	1.9	10.3		
	サンショウクイ					2	1			3	0.75	0.43	0.04	1.9	10.3		
	カケス			4	4	3		1	4	11	2.75	1.57	0.14	7.0	37.9		5
	ハシボソガラス								1							1	0.50
	ハシブトガラス			1	1	1		1	1	3	0.75	0.43	0.04	1.9	10.3		2
20	コガラ			3	1	1		2	13	5	1.25	0.71	0.06	3.2	17.2	B	15
	ヤマガラ				2					2	0.50	0.29	0.03	1.3	6.9		
	ヒガラ			5	4	3	2			14	3.50	2.00	0.18	8.9	48.3	B	
	シジュウカラ			1	2	2	1	1	2	6	1.50	0.86	0.08	3.8	20.7	B	3
	ヒヨドリ			11	6	6	6	7	4	29	7.25	4.14	0.36	18.5	100.0		11
25	ウグイス			4	5	2				11	2.75	1.57	0.14	7.0	37.9	B	
	ヤブサメ			1		1				2	0.50	0.29	0.03	1.3	6.9	B	
	エナガ			1					12	1	0.25	0.14	0.01	0.6	3.4		12
	センダイムシクイ			1	1					2	0.50	0.29	0.03	1.3	6.9		
	メジロ			1		1	1			3	0.75	0.43	0.04	1.9	10.3	B	
30	ゴジュウカラ			2	1	1				4	1.00	0.57	0.05	2.5	13.8	B	
	ミソサザイ			3	3	1	2			9	2.25	1.29	0.11	5.7	31.0	B	
	カワガラス				1					1	0.25	0.14	0.01	0.6	3.4		
	マミジロ			1						1	0.25	0.14	0.01	0.6	3.4		
	クロツグミ				1	1				2	0.50	0.29	0.03	1.3	6.9	B	
35	アカハラ					2				2	0.50	0.29	0.03	1.3	6.9		
	コルリ			2	1					3	0.75	0.43	0.04	1.9	10.3		
	キビタキ			1	3	1	2			7	1.75	1.00	0.09	4.5	24.1	B	
	オオルリ			1		1	2			4	1.00	0.57	0.05	2.5	13.8	B	
	マヒワ								1								1
40	ウソ							1									0.50
	イカル			4	2	1	1			8	2.00	1.14	0.10	5.1	27.6	B	
	ホオジロ				1	1				2	0.50	0.29	0.03	1.3	6.9		
	クロジ				1					1	0.25	0.14	0.01	0.6	3.4		
	ガビチョウ				1					1	0.25	0.14	0.01	0.6	3.4		
45																	
50																	
計	範 囲 内	個 体 数	55	45	36	21	13	39	157	39.25	22.43	1.96				52	26.00
		種 数	25	22	23	12	6	9	36							10	
		全 種 数	26	23	23	13	6	9	36							10	

調 査 地 の 概 況

市町村名	東吾妻町（旧吾妻町）	地形図名	群馬原町a	調 査 者	関口 裕
調査範囲	4 k m（調査距離）×50 m（幅）=20ha			調査地の標高	350 ～ 600 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○ 広葉樹林（自然林・雑木林）

— 針葉樹林（自然林）

◎ 植林地（人工林）

— 草地・草原・ヨシ原

◎ 農耕地（田・畑・果樹園）

○ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

— 河川湖沼・河川敷

北部の北組周辺は畑地、中西集落周辺は水田。南部の標高の高い十二ヶ原は広く畑作が行われている。どの農地も冬季は耕作されていない。中間部は大泉寺川沿いの成長したスギの植林地が中心となり、雑木林が道路沿いに入り組んだ状態になっている。周囲からの湧き水も見られ水場はあるが、あまり木の実はなかった。

今回の調査では、前回同様、サンコウチョウとノジコが複数回観察され、越冬期にはヤマドリも観察された。また、雛に餌を運んでいると思われるハクセキレイが記録された。周辺で繁殖したものと考えられる。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じだが、今回は植栗の集落を横切るように上信自動車道の工事が行われていた。調査に支障がないように、工事が休みの日に調査を実施した。

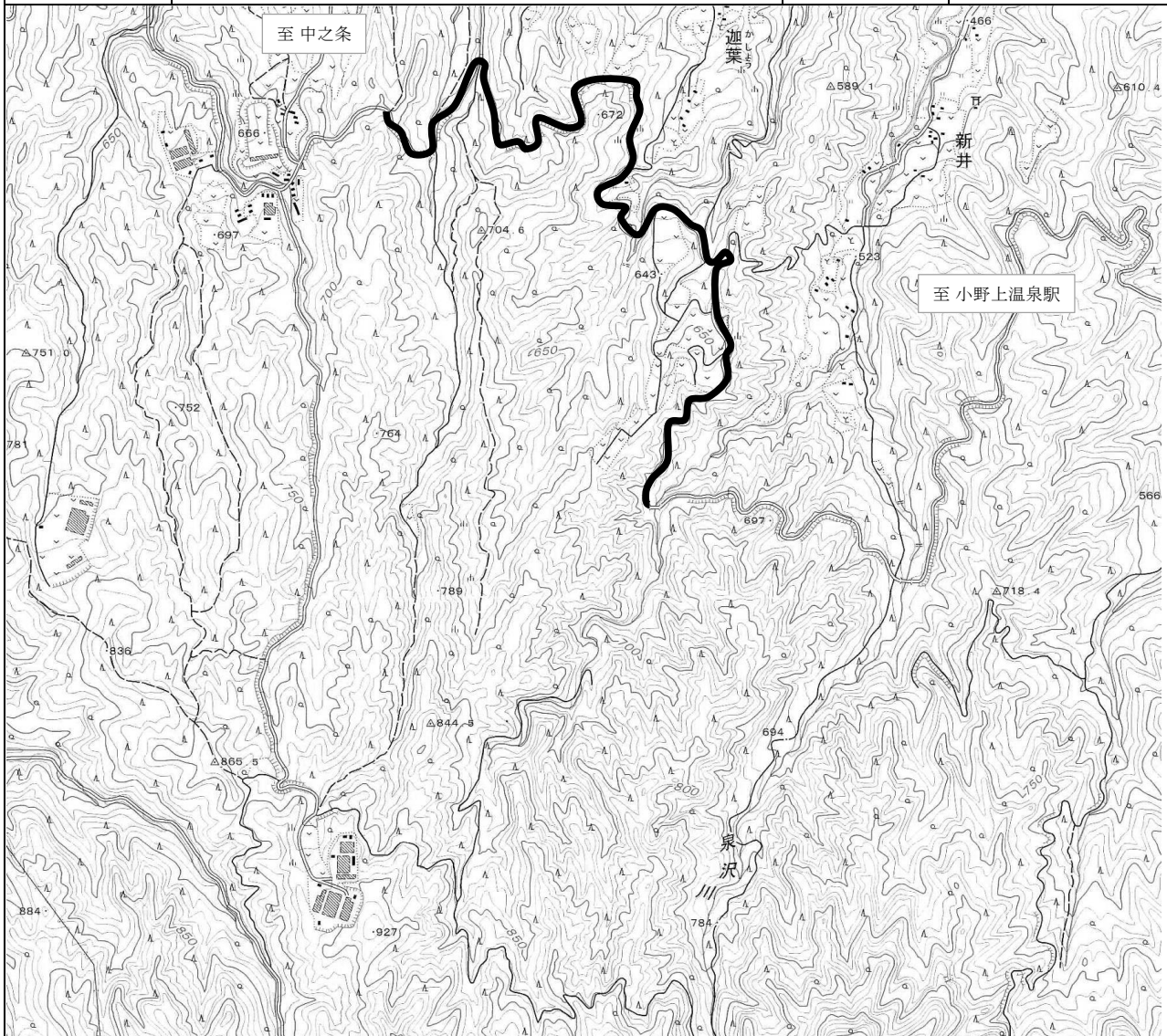
生 息 調 査 集 計 表

地形図名	群馬原町a	調査者	関口 裕
------	-------	-----	------

調 査 年 月 日			R6. 5. 26	R6. 5. 26	R6. 6. 16	R6. 6. 16	R6. 12. 21	R6. 12. 21	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間			4 : 55 ＼ 6 : 55 (120分)	7 : 10 ＼ 9 : 15 (125分)	4 : 35 ＼ 6 : 40 (125分)	6 : 55 ＼ 9 : 00 (125分)	6 : 45 ＼ 8 : 50 (125分)	9 : 10 ＼ 11 : 15 (125分)	合 計	平 均	密 度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候			曇	曇	曇	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2
種 類 ／ 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数			⑧	⑧／2					
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧	
			ヤマドリ				1								1	0.50	
			キジ	4	1	1	○		6	1.50	0.73	0.08	1.2	8.3	B		
			カルガモ	2	3				5	1.25	0.61	0.06	1.0	6.9			
			キジバト	5	3	4	6	○	18	4.50	2.18	0.23	3.5	25.0	B	1	0.50
			アオバト	3	6	○			9	2.25	1.09	0.11	1.8	12.5	B		
			アオサギ	○			○		○								
			ホトトギス	○	○	○	○		○						B		
			トビ			1	○		1	0.25	0.12	0.01	0.2	1.4			
			オオタカ		1		2		3	0.75	0.36	0.04	0.6	4.2		1	0.50
			ノスリ			2	○	1	2	0.50	0.24	0.03	0.4	2.8		1	0.50
			フクロウ	○					○								
			コゲラ	3		5	2		10	2.50	1.21	0.13	2.0	13.9	B	2	1.00
			アオゲラ	○	1	○	1	1	2	0.50	0.24	0.03	0.4	2.8		1	0.50
			サンショウクイ	○	○				○								
			サンコウチョウ		1	1			2	0.50	0.24	0.03	0.4	2.8	B		
			モズ	○		2	2		4	1.00	0.48	0.05	0.8	5.6			
			カケス	3	○	2	1	○	6	1.50	0.73	0.08	1.2	8.3		2	1.00
			オナガ					○								○	
			ハシボソガラス	3	2	8	4	1	17	4.25	2.06	0.21	3.3	23.6		3	1.50
			ハシブトガラス	4	2	2	2	3	10	2.50	1.21	0.13	2.0	13.9		6	3.00
			コガラ					2								2	1.00
			ヤマガラ	3		2	2	10	7	1.75	0.85	0.09	1.4	9.7		12	6.00
			ヒガラ				2	8	2	0.50	0.24	0.03	0.4	2.8		8	4.00
			シジュウカラ	7	12	11	4	18	34	8.50	4.12	0.43	6.7	47.2	B	38	19.00
			ヒバリ		○	○	1		1	0.25	0.12	0.01	0.2	1.4	B		
			ツバメ	9	8	6	18		41	10.25	4.97	0.51	8.0	56.9	B		
			ヒヨドリ	16	13	17	23	11	69	17.25	8.36	0.86	13.5	95.8	B	14	7.00
			ウグイス	3	3	3	2	1	11	2.75	1.33	0.14	2.2	15.3	B	1	0.50
			エナガ		10		13	29	23	5.75	2.79	0.29	4.5	31.9	B	40	20.00
			メボソムシクイ	1					1	0.25	0.12	0.01	0.2	1.4			
			メジロ	7	2	6	8	3	23	5.75	2.79	0.29	4.5	31.9	B	8	4.00
			ミソサザイ					3								6	3.00
			ムクドリ	19	2		1	○	22	5.50	2.67	0.28	4.3	30.6		○	
			コムクドリ	1					1	0.25	0.12	0.01	0.2	1.4			
			クロツグミ	○			1		1	0.25	0.12	0.01	0.2	1.4			
			シロハラ					1								1	0.50
			ツグミ					○								○	
			ルリビタキ					1								1	0.50
			ジョウビタキ					2								2	1.00
			キビタキ	5	3	6	2		16	4.00	1.94	0.20	3.1	22.2	B		
			オオルリ		1	○			1	0.25	0.12	0.01	0.2	1.4			
			カヤクグリ					1								1	0.50
			スズメ	15	29	12	16	4	72	18.00	8.73	0.90	14.1	100.0	B	34	17.00
			キセキレイ			3	5	1	8	2.00	0.97	0.10	1.6	11.1		1	0.50
			ハクセキレイ	4	3	1	2	2	10	2.50	1.21	0.13	2.0	13.9	A	2	1.00
			アトリ					2								2	1.00
			カワラヒワ	14	10	5	5	105	34	8.50	4.12	0.43	6.7	47.2	B	116	58.00
			ベニマシコ					3								4	2.00
			シメ					2								2	1.00
			イカル	1	3	○			4	1.00	0.48	0.05	0.8	5.6		3	1.50
			ホオジロ	5	5	6	8	9	24	6.00	2.91	0.30	4.7	33.3	B	20	10.00
			カシラダカ					100								108	54.00
			ノジコ	1		1	1		3	0.75	0.36	0.04	0.6	4.2	B		
			コジュケイ					○								○	
			ガビチョウ	2	1	3	1	3	7	1.75	0.85	0.09	1.4	9.7	B	3	1.50
			カオジロガビチョウ			○		○	○							○	
計	範囲内	個体数	140	125	110	135	320	127	510	127.50	61.82	6.38				447	223.50
		種 数	25	24	24	27	23	23	37							33	
		全 種 数	32	28	31	32	30	24	42							38	

調 査 地 の 概 況

市町村名	東吾妻町（旧吾妻町）	地形図名	群馬原町b	調 査 者	飯塚 博文
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝ 20 ha			調査地の標高	600 ～ 660 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○	広葉樹林（自然林・雑木林）	林道「北榛名山線」の堀切沢に架かるほりきり橋を起点とし西に進むコースで、全線が舗装道路である。コース両側は主にスギの植林地で、ところどころにナラやクスギなどの広葉樹林が混じる。コース途中で一部大規模な伐採も行われているが、全体的に荒れた林が多く、コース両側も藪状態である。人家はコース中程に一軒と、少し離れた場所に数軒あるが、コース脇の人家は空き家となったようである。また耕地は人家の周りに小さい田畑が少しあるだけである。コースを横切るいくつかの沢があり、コース両側は藪や草地も多く、鳥類の餌となる昆虫や食餌植物は多い。
—	針葉樹林（自然林）	
◎	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
—	河川湖沼・河川敷	

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じ。繁殖期1日目の復路で、通りかかった農場の作業員より、コース近くの迦葉集落付近で、子連れのカマが頻繁に出没しているので気をつけるよう注意喚起された。木の葉の生い茂りとカマよけ鈴の音が、多少調査の支障となった。越冬期復路は逆光で見づらかった。シカを観察したほか、コース全域でイノシシの生息の痕跡があった。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

群馬原町b

調査者

飯塚 博文

調 査 年 月 日			R6. 5. 24	R6. 5. 24	R6. 6. 20	R6. 6. 20	R6. 12. 10	R6. 12. 10	繁殖期							越冬期		
調 査 時 間			6 : 50 〃 8 : 50 (120分)	9 : 10 〃 11 : 10 (120分)	6 : 20 〃 8 : 20 (120分)	8 : 40 〃 10 : 40 (120分)	8 : 30 〃 10 : 25 (115分)	10 : 40 〃 12 : 30 (110分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均	
天 候			晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／ 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／ 2	
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数			⑧							
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦									
5	ヤマドリ			1					1	0.25	0.13	0.01	0.4	1.4				
	キジ			○	1	1			2	0.50	0.25	0.03	0.9	2.8	B			
	キジバト			3	2	7	2	2	14	3.50	1.75	0.18	6.1	19.7	B	4	2.00	
	アオバト			2	2	○	3		7	1.75	0.88	0.09	3.0	9.9	B			
	ホトトギス			○	1	1	○		2	0.50	0.25	0.03	0.9	2.8	B			
10	トビ				○			1	5	○						6	3.00	
	ノスリ			1					1	0.25	0.13	0.01	0.4	1.4				
	コゲラ			2	1	2	1	1	6	1.50	0.75	0.08	2.6	8.5		1	0.50	
	アオゲラ			1		2			3	0.75	0.38	0.04	1.3	4.2	B			
	モズ			1			1		2	0.50	0.25	0.03	0.9	2.8	B			
15	カケス				1		1	4	4	2	0.50	0.25	0.03	0.9	2.8		8	4.00
	ハシボソガラス			3	1	1	○	1		5	1.25	0.63	0.06	2.2	7.0		1	0.50
	ハシブトガラス							2	3							5	2.50	
	コガラ							2	2							4	2.00	
	ヤマガラ			2				4		2	0.50	0.25	0.03	0.9	2.8		4	2.00
20	ヒガラ			1	3		1	7		5	1.25	0.63	0.06	2.2	7.0	B	7	3.50
	シジュウカラ			2	2	2	3	21	10	9	2.25	1.13	0.11	3.9	12.7	B	31	15.50
	ヒヨドリ			22	9	16	24	2	3	71	17.75	8.88	0.89	30.7	100.0	B	5	2.50
	ウグイス			9	6	9	8			32	8.00	4.00	0.40	13.9	45.1	B		
	ヤブサメ						1			1	0.25	0.13	0.01	0.4	1.4			
25	エナガ			2	1	3	4	22	6	10	2.50	1.25	0.13	4.3	14.1		28	14.00
	メジロ			1	2	2	4			9	2.25	1.13	0.11	3.9	12.7	B		
	ゴジュウカラ						2			2	0.50	0.25	0.03	0.9	2.8			
	クロツグミ			2	1	2	○			5	1.25	0.63	0.06	2.2	7.0	B		
	ツグミ							3									3	1.50
30	ジョウビタキ							1	1							2	1.00	
	キビタキ			3	4	3	2			12	3.00	1.50	0.15	5.2	16.9	B		
	オオルリ			1		3				4	1.00	0.50	0.05	1.7	5.6	B		
	カヤクグリ								2								2	1.00
	カワラヒワ						1	1	2	1	0.25	0.13	0.01	0.4	1.4		3	1.50
35	ベニマシコ							1	4							5	2.50	
	イカル			1			2			3	0.75	0.38	0.04	1.3	4.2			
	ホオジロ			5	2	3	4	1	3	14	3.50	1.75	0.18	6.1	19.7	B	4	2.00
	カシラダカ							18	6							24	12.00	
	ミヤマホオジロ							1								1	0.50	
40	ガビチョウ			2	1	3	○		2	6	1.50	0.75	0.08	2.6	8.5	B	2	1.00
45																		
50																		
計	範 囲 内	個体数	67	40	60	64	95	55	231	57.75	28.88	2.89				150	75.00	
		種 数	21	17	16	17	19	15	27							21		
		全 種 数	23	18	17	21	19	15	28							21		

調 査 地 の 概 況

市町村名	東吾妻町（旧吾妻町）	地形図名	群馬原町c	調 査 者	土屋 等
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝ 20 ha			調査地の標高	410 ～ 460 m

調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
○	広葉樹林（自然林・雑木林）	上信自動車道の一部完成区間が調査コースにほぼ並行して走っている。コース沿いにコンクリートの側壁が部分的に見られ環境は若干悪化している。調査地点より100m程奥に山林が続いているため、範囲外の個体が多い。吾妻川沿いの民家もまばらな里山の要素があり環境は良好であったが、今後、上信自動車道が全線開通すると交通量が増え、鳥類の生息環境としては適さなくなるかもしれない。 今回の調査では、雛に餌を運んでいると思われるシジュウカラとスズメが観察された。周辺で繁殖したものと考えられる。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
—	針葉樹林（自然林）	
○	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地（田・畑・果樹園）	
◎	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	

<備考>

調査コースは前回と同じ。一部で上信自動車道の工事中であった。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

群馬原町c

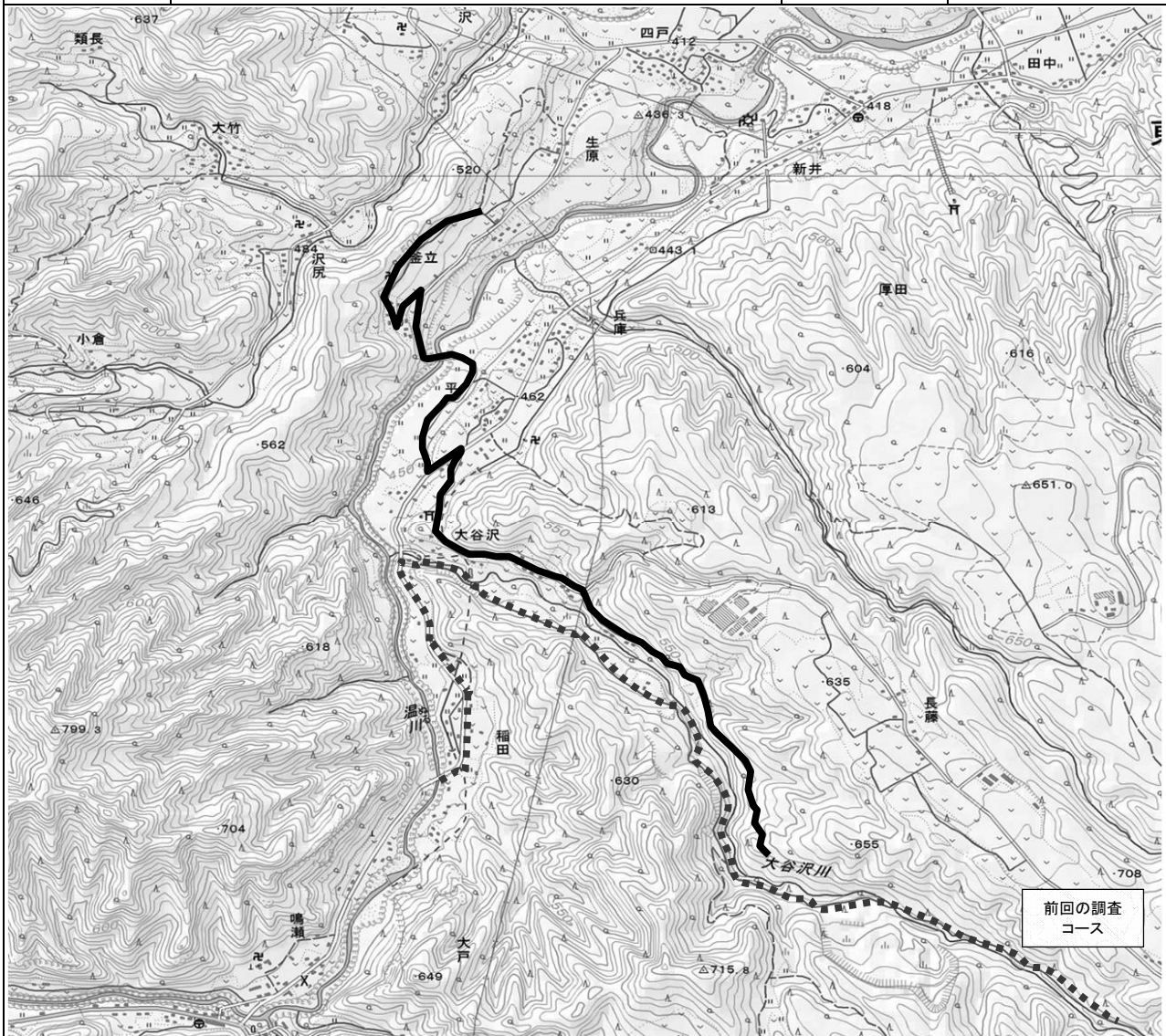
調査者

土屋 等

調 査 年 月 日	R6. 5. 17	R6. 5. 17	R6. 6. 8	R6. 6. 8	R6. 12. 14	R6. 12. 14	繁殖期							越冬期	
	7:10 5 9:00 (110分)	9:10 5 11:00 (110分)	6:40 5 8:30 (110分)	8:40 5 10:30 (110分)	6:40 5 8:30 (110分)	8:40 5 10:30 (110分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候	曇	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①~④	⑦/4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧/2
種 類 / 結 果	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧	
キジ	2	1	3	1		1	7	1.75	0.95	0.09	3.4	20.0	B	1	0.50
キジバト	1					3	1	0.25	0.14	0.01	0.5	2.9		3	1.50
カワウ				1			1	0.25	0.14	0.01	0.5	2.9			
ホトトギス				1			1	0.25	0.14	0.01	0.5	2.9			
5 トビ			1				1	0.25	0.14	0.01	0.5	2.9			
コゲラ			1				1	0.25	0.14	0.01	0.5	2.9			
アオゲラ	1						1	0.25	0.14	0.01	0.5	2.9			
モズ	1	2		1	1	2	4	1.00	0.55	0.05	1.9	11.4		3	1.50
カケス					1									1	0.50
10 オナガ		2		2			4	1.00	0.55	0.05	1.9	11.4			
ハシボソガラス	2		1	1	1	3	4	1.00	0.55	0.05	1.9	11.4		4	2.00
ハシブトガラス	3		1	3	2	4	7	1.75	0.95	0.09	3.4	20.0		6	3.00
ヤマガラ					1									1	0.50
シジュウカラ	2	4	2		15	1	8	2.00	1.09	0.10	3.9	22.9	A	16	8.00
15 ツバメ	7	3	10	11			31	7.75	4.23	0.39	15.0	88.6			
イワツバメ			12	12			24	6.00	3.27	0.30	11.7	68.6			
ヒヨドリ	11	3	4	8	10	6	26	6.50	3.55	0.33	12.6	74.3		16	8.00
ウグイス	2	1	4	1			8	2.00	1.09	0.10	3.9	22.9	B		
メジロ			1		3		1	0.25	0.14	0.01	0.5	2.9		3	1.50
20 ジョウビタキ						1								1	0.50
オオルリ	1	1					2	0.50	0.27	0.03	1.0	5.7			
スズメ	4	3	15	13	2	7	35	8.75	4.77	0.44	17.0	100.0	A	9	4.50
キセキレイ				1			1	0.25	0.14	0.01	0.5	2.9			
ハクセキレイ			2	5	1	2	7	1.75	0.95	0.09	3.4	20.0		3	1.50
25 セグロセキレイ		1					1	0.25	0.14	0.01	0.5	2.9			
カワラヒワ	1	7	1		35	68	9	2.25	1.23	0.11	4.4	25.7	B	103	51.50
ホオジロ	2	1	5	3	1	3	11	2.75	1.50	0.14	5.3	31.4	B	4	2.00
カシラダカ					5	11								16	8.00
ガビチョウ	3	2	4	1			10	2.50	1.36	0.13	4.9	28.6	B		
30															
35															
40															
45															
50															
計	範囲内	個体数	43	31	67	65	78	112	206	51.50	28.09	2.58		190	95.00
		種 数	15	13	16	16	13	13	25					16	
		全 種 数	15	13	16	16	13	13	25					16	

調 査 地 の 概 況

市町村名	東吾妻町（旧吾妻町）	地形図名	群馬原町d	調 査 者	田 口 雅之
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	425 ～ 590 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	コースの北端から丘陵部を下るあたりから民家と畑が混在し、温川沿いでは田んぼが広がっている。県道を渡って大谷沢川沿いに入るとまばらな民家と雑木林となり谷間に畑がある。その奥は未舗装の林道で、沢側にスギ林があるが、さらに上流側では全て雑木林となる。
—	針葉樹林（自然林）	
○	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
◎	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースを変更した。前回までの調査コースは採石場の道を通るためダンプの交通量が多く、また、その奥の林道には倒木や土砂が崩れた場所があって危険なため、大谷沢川の対岸にコースを変更した。越冬期の調査時は採石場の騒音で、鳥の声を聞きづらかった。繁殖期4回目の調査時にシカを観察した。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

群馬原町d

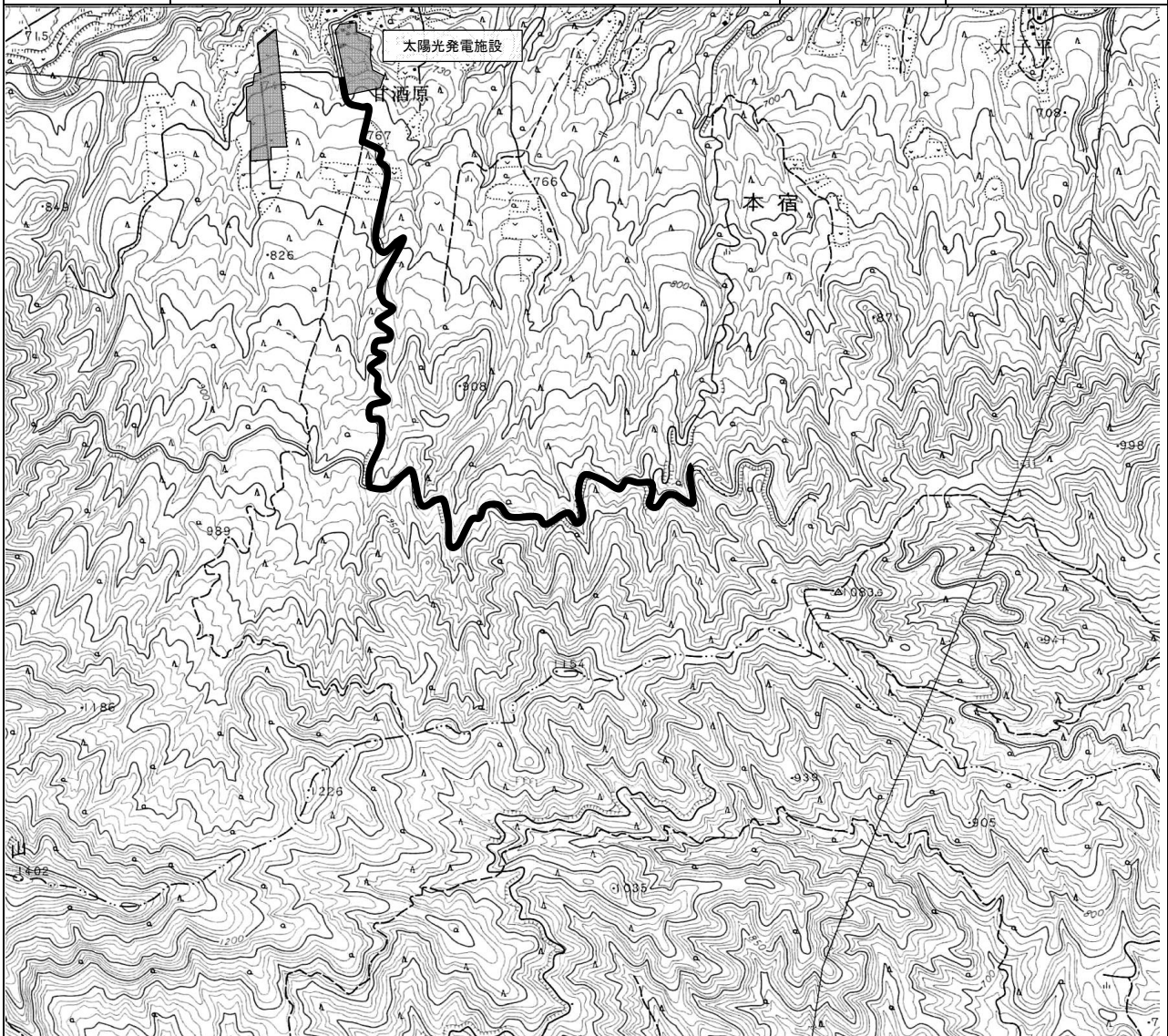
調査者

田口 雅之

調 査 年 月 日		R6. 5. 30	R6. 5. 30	R6. 6. 21	R6. 6. 21	R6. 12. 18	R6. 12. 18	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間		4 : 30 5 : 50 (80分)	5 : 50 7 : 20 (90分)	4 : 20 5 : 55 (95分)	6 : 00 7 : 30 (90分)	8 : 10 9 : 50 (100分)	9 : 55 11 : 30 (95分)	合 計	平 均 (89分)	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (98分)
天 候		晴	晴	曇	曇	晴	晴	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧ / 2
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤~⑥	⑧ / 2
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧	
5	ヤマドリ					2									2	1.00
	キジ	3	1		1	3		5	1.25	0.85	0.06	1.3	4.6		3	1.50
	カルガモ			2	2			4	1.00	0.68	0.05	1.0	3.7			
	キジバト	4	2	3	3	16	6	12	3.00	2.03	0.15	3.1	11.0	B	22	11.00
	アオバト	1	1					2	0.50	0.34	0.03	0.5	1.8			
10	ゴイサギ				1			1	0.25	0.17	0.01	0.3	0.9			
	アオサギ			1	3			4	1.00	0.68	0.05	1.0	3.7			
	ホトトギス		1	1	1			3	0.75	0.51	0.04	0.8	2.8	B		
	トビ		1					1	0.25	0.17	0.01	0.3	0.9			
	オオタカ						1								1	0.50
15	コゲラ	1	2	6	6	2	2	15	3.75	2.54	0.19	3.9	13.8		4	2.00
	アカゲラ	4	2	1	1	1		8	2.00	1.35	0.10	2.1	7.3		1	0.50
	サンショウクイ	1	3	4	1			9	2.25	1.52	0.11	2.3	8.3	B		
	サンコウチョウ	3		1	2			6	1.50	1.01	0.08	1.5	5.5	B		
	モズ					2									2	1.00
20	カケス		1			6	3	1	0.25	0.17	0.01	0.3	0.9		9	4.50
	ハシボソガラス	2		4		1	2	6	1.50	1.01	0.08	1.5	5.5		3	1.50
	ハシブトガラス	1	1	3	1	2		6	1.50	1.01	0.08	1.5	5.5		2	1.00
	ヤマガラ			3		1		3	0.75	0.51	0.04	0.8	2.8		1	0.50
	ヒガラ		1					1	0.25	0.17	0.01	0.3	0.9			
25	シジュウカラ	8	6	2	1	13	13	17	4.25	2.87	0.21	4.4	15.6	B	26	13.00
	ツバメ	1	8	1	5			15	3.75	2.54	0.19	3.9	13.8			
	ヒヨドリ	29	22	31	27	20	8	109	27.25	18.42	1.36	28.1	100.0		28	14.00
	ウグイス	6	3	6	4	1	1	19	4.75	3.21	0.24	4.9	17.4	B	2	1.00
	ヤブサメ	4	3	3	2			12	3.00	2.03	0.15	3.1	11.0	B		
30	エナガ						2								2	1.00
	メジロ		2	3				5	1.25	0.85	0.06	1.3	4.6	B		
	ゴジュウカラ		1			○		1	0.25	0.17	0.01	0.3	0.9		○	
	クロツグミ	2	1	2	1			6	1.50	1.01	0.08	1.5	5.5	B		
	ジョウビタキ					1									1	0.50
35	コサメビタキ		1					1	0.25	0.17	0.01	0.3	0.9			
	キビタキ	10	3	5	3			21	5.25	3.55	0.26	5.4	19.3	B		
	オオルリ	1		3				4	1.00	0.68	0.05	1.0	3.7			
	スズメ	4	2	5	10	10	15	21	5.25	3.55	0.26	5.4	19.3		25	12.50
	キセキレイ	1	1	2	2	1	2	6	1.50	1.01	0.08	1.5	5.5	B	3	1.50
40	ハクセキレイ			1				1	0.25	0.17	0.01	0.3	0.9			
	セグロセキレイ				1		1	1	0.25	0.17	0.01	0.3	0.9		1	0.50
	カワラヒワ	1	2	1	1		26	5	1.25	0.85	0.06	1.3	4.6	B	26	13.00
	イカル		1					1	0.25	0.17	0.01	0.3	0.9			
	ホオジロ	7	5	10	8	11	14	30	7.50	5.07	0.38	7.7	27.5	B	25	12.50
45	カシラダカ					2									2	1.00
	コジュケイ	1	2		1	1		4	1.00	0.68	0.05	1.0	3.7	B	1	0.50
	ガビチョウ	9	5	6	2	○	8	22	5.50	3.72	0.28	5.7	20.2	B	8	4.00
50																
計	範囲内	個体数	104	84	110	90	96	104	388	97.00	65.58	4.85			200	100.00
	種 数	種 数	23	28	26	25	19	15	37						24	
	全 種 数	全 種 数	23	28	26	25	21	15	37						25	

調 査 地 の 概 況

市町村名	東吾妻町（旧吾妻町）	地形図名	浅間隠山a	調 査 者	瀧川 二士男
調査範囲	4 k m（調査距離）×50 m（幅）＝20ha			調査地の標高	740 ～ 900 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	甘酒原から林道を南に向かい、薬師温泉と倉渕を結ぶ林道の合流点から東に向かうコース。甘酒原ではアカマツ林が伐採され、太陽光発電のパネルが設置された。南に向かう林道沿いには耕作放棄された畑、スギ、ヒノキの植林地があり、東に向かう林道沿いはカラマツ林や広葉樹の林が見られ、途中には砂防ダムや水量の少ない沢がある。
—	針葉樹林（自然林）	
○	植林地（人工林）	
○	草地・草原・ヨシ原	
—	農耕地（田・畑・果樹園）	
—	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
—	河川湖沼・河川敷	

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じ。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

浅間隠山a

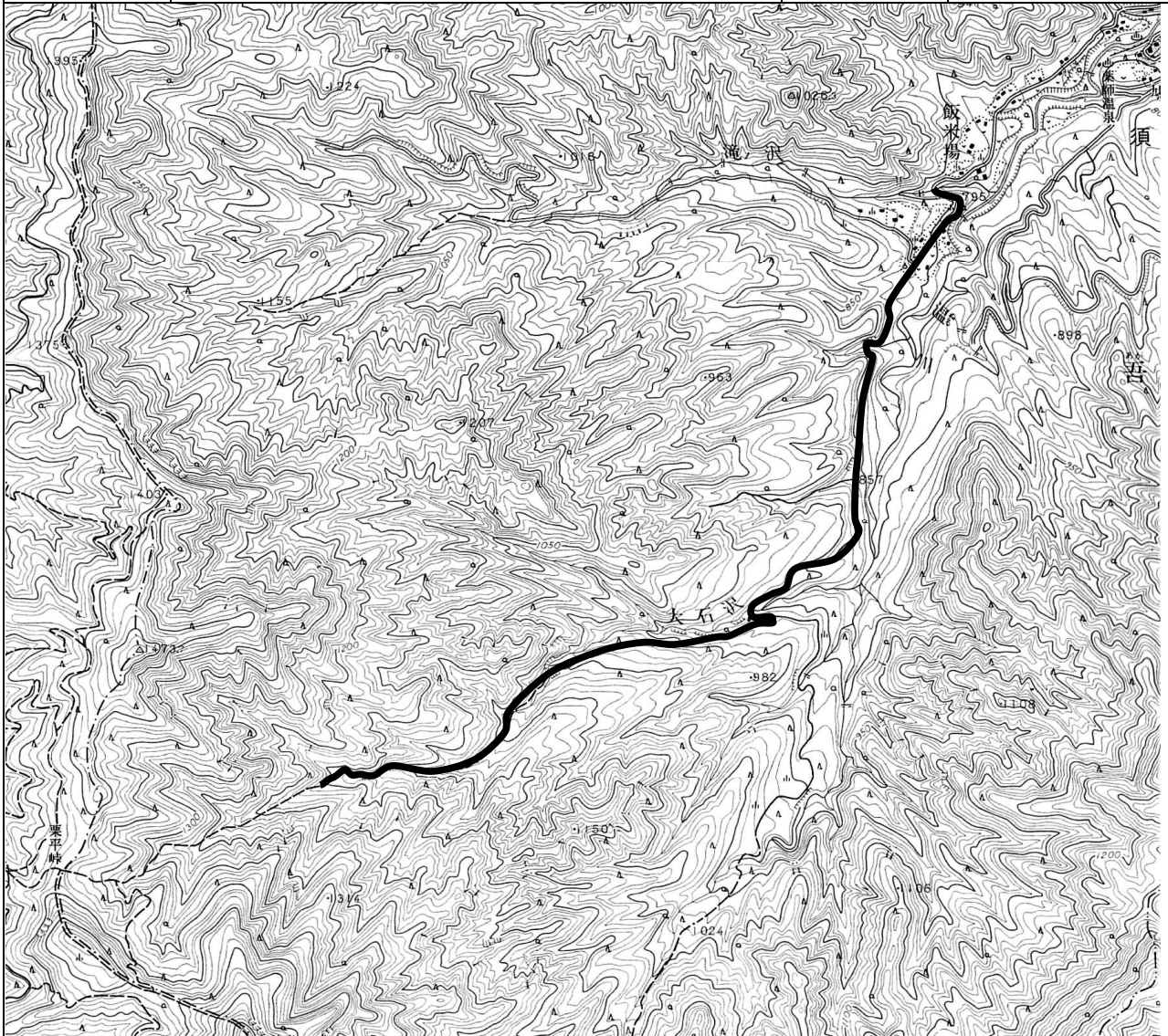
調査者

瀧川 二士男

調 査 年 月 日		R6. 5. 21	R6. 5. 21	R6. 6. 6	R6. 6. 6	R6. 12. 8	R6. 12. 8	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間		5 : 10 〃 6 : 40 (90分)	6 : 50 〃 8 : 20 (90分)	5 : 05 〃 6 : 40 (95分)	6 : 45 〃 8 : 15 (90分)	8 : 00 〃 9 : 30 (90分)	9 : 40 〃 11 : 10 (90分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候		晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り		(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧ / 2
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数			1h当り	1ha当り					
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧	
5	ヤマドリ				1			1	0.25	0.16	0.01	0.6	5.3			
	キジ		○	○				○						B		
	キジバト	1	2	2	3			8	2.00	1.32	0.10	4.7	42.1	B		
	アオバト	○	○	○	○			○						B		
	ホトトギス	○	○	○	○			○						B		
	ツツドリ	○	○		○			○						B		
	ハチクマ			○				○								
10	トビ				○			○								
	ノスリ	1						1	0.25	0.16	0.01	0.6	5.3			
	コゲラ	1	2	2	○	2	2	5	1.25	0.82	0.06	2.9	26.3		4	2.00
	アオゲラ		○		○			○								
	サンショウクイ	1	2	3	3			9	2.25	1.48	0.11	5.3	47.4			
	カケス	1	2	2	5			10	2.50	1.64	0.13	5.8	52.6			
	ハシブトガラス	2				○		2	0.50	0.33	0.03	1.2	10.5		○	
15	コガラ	2		2		6	5	4	1.00	0.66	0.05	2.3	21.1	B	11	5.50
	ヤマガラ	1	1	○	1			3	0.75	0.49	0.04	1.8	15.8	B		
	ヒガラ	2	1	2	1			6	1.50	0.99	0.08	3.5	31.6	B		
	シジュウカラ	○	1	2	4	1		7	1.75	1.15	0.09	4.1	36.8	B	1	0.50
	ヒヨドリ	3	4	5	7		3	19	4.75	3.12	0.24	11.1	100.0		3	1.50
	ウグイス	3	5	3	5			16	4.00	2.63	0.20	9.4	84.2	B		
	ヤブサメ		1	1	1			3	0.75	0.49	0.04	1.8	15.8	B		
20	エナガ	4	2	13		4	7	19	4.75	3.12	0.24	11.1	100.0	B	11	5.50
	センダイムシクイ	1	1					2	0.50	0.33	0.03	1.2	10.5			
	メジロ		3	2	○			5	1.25	0.82	0.06	2.9	26.3	B		
	ゴジュウカラ	○					1	○							1	0.50
	ミソサザイ	1	○	○			1	1	0.25	0.16	0.01	0.6	5.3	B	1	0.50
	クロツグミ	○	1	2	1			4	1.00	0.66	0.05	2.3	21.1	B		
	コルリ	1	2	○	○			3	0.75	0.49	0.04	1.8	15.8	B		
30	ルリビタキ						1								1	0.50
	ジョウビタキ					1	1								2	1.00
	コサメビタキ	1	1					2	0.50	0.33	0.03	1.2	10.5			
	キビタキ	5	4	5	4			18	4.50	2.96	0.23	10.5	94.7	B		
	オオルリ	○	○	1	2			3	0.75	0.49	0.04	1.8	15.8	B		
	カワラヒワ	1						1	0.25	0.16	0.01	0.6	5.3			
	ウソ						1								1	0.50
35	イカル	1	2	1	2			6	1.50	0.99	0.08	3.5	31.6	B		
	ホオジロ	2	4	3	2		2	11	2.75	1.81	0.14	6.4	57.9	B	2	1.00
	ノジコ	1						1	0.25	0.16	0.01	0.6	5.3			
	ガビチョウ	1		○				1	0.25	0.16	0.01	0.6	5.3	B		
40																
45																
50																
計	範囲内	個体数	37	41	51	42	14	24	171	42.75	28.11	2.14			38	19.00
	種 数	種 数	22	19	17	15	5	10	28						11	
	全 種 数	全 種 数	29	26	25	23	6	10	36						12	

調 査 地 の 概 況

市町村名	東吾妻町（旧吾妻町）	地形図名	浅間隠山c	調 査 者	黒澤 正明
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝ 20 ha			調査地の標高	790 ～ 1100 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

☐	広葉樹林（自然林・雑木林）	調査コースは温川と支流の大石沢に沿った林道である。薬師温泉奥にある飯米場の集落には民家と水田や畑があるが、その先の林道のゲートから先に民家はない。コース周辺はスギやヒノキ、カラマツの植林地が主で、壮齢林のため林床には下草が少ない。温川沿いや大石沢上流部には、落葉広葉樹林が広がっている。大石沢出合付近は植林地が皆伐され、草地となっている。河川は水量が豊富で、冬季にも涸れない。
—	針葉樹林（自然林）	
◎	植林地（人工林）	
☐	草地・草原・ヨシ原	
☐	農耕地（田・畑・果樹園）	
☐	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
☐	河川湖沼・河川敷	← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じ。繁殖期2日目は雨天の調査となってしまったため、傘の雨音で鳥の声を聞きづらかった。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

浅間隠山c

調査者

黒澤 正明

調 査 年 月 日		R6. 6. 13	R6. 6. 13	R6. 7. 16	R6. 7. 16	R6. 12. 12	R6. 12. 12	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間		7:00 〆 9:05 (125分)	9:30 〆 11:25 (115分)	7:30 〆 9:30 (120分)	9:55 〆 12:00 (125分)	7:00 〆 9:05 (125分)	9:20 〆 11:10 (110分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候		晴	晴	雨	雨	晴	晴	Σ①~④	⑦/4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧/2
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
5	キジバト	○	1		1			2	0.50	0.25	0.03	3.6	14.3			
	アオバト	○						○								
	コゲラ	○						○								
	カケス	○		1		2		1	0.25	0.12	0.01	1.8	7.1		2	1.00
	ハシブトガラス	1	2	○	1	○		4	1.00	0.49	0.05	7.3	28.6		○	
10	コガラ				1			1	0.25	0.12	0.01	1.8	7.1			
	シジュウカラ	1	1		1			3	0.75	0.37	0.04	5.5	21.4			
	ヒヨドリ	3	2	4	5			14	3.50	1.73	0.18	25.5	100.0			
	ウグイス	2	2	3	2			9	2.25	1.11	0.11	16.4	64.3	B		
	エナガ		2					2	0.50	0.25	0.03	3.6	14.3			
15	ミソサザイ	3	3	1				7	1.75	0.87	0.09	12.7	50.0	B		
	カワガラス	1			1	1	1	2	0.50	0.25	0.03	3.6	14.3		2	1.00
	ジョウビタキ						1								1	0.50
	キビタキ	1	2					3	0.75	0.37	0.04	5.5	21.4			
	キセキレイ		1					1	0.25	0.12	0.01	1.8	7.1			
20	ホオジロ		4		1			5	1.25	0.62	0.06	9.1	35.7	B		
	カシラダカ						8								8	4.00
	ガビチョウ	1						1	0.25	0.12	0.01	1.8	7.1			
25																
30																
35																
40																
45																
50																
計	範囲内	個体数	13	20	9	13	3	10	55	13.75	6.80	0.69			13	6.50
		種 数	8	10	4	8	2	3	14						4	
		全 種 数	12	10	5	8	3	3	16						5	

調 査 地 の 概 況

市町村名	東吾妻町（旧吾妻町）	地形図名	榛名湖c	調 査 者	小林 廣喜
調査範囲	4 k m（調査距離）×50 m（幅）=20ha			調査地の標高	625 ～ 790 m

調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
○ 広葉樹林（自然林・雑木林）	榛名山西麓の農耕地と民家が点在する緩斜面を通るコースで、全線舗装されている。周辺にはスギやヒノキの植林地もあるが、コースに面した部分には広葉樹の雑木林も多い。小さいが数本の沢もある。前回と比較して環境に大きな変化はない。 今回の調査では、巣に出入りするツバメが記録され、繁殖が確認された。	
○ 針葉樹林（自然林）		
○ 植林地（人工林）		
— 草地・草原・ヨシ原		
○ 農耕地（田・畑・果樹園）		
◎ 里山・疎らな民家		
— 市街地・工業団地		
— 河川湖沼・河川敷		
← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。		
<備考> 調査コースは前回と同じ。		

生 息 調 査 集 計 表

地形図名	榛名湖c	調査者	小林 廣喜
------	------	-----	-------

調 査 年 月 日							R6. 5. 29	R6. 5. 29	R6. 6. 12	R6. 6. 12	R6. 12. 5	R6. 12. 5	繁殖期						越冬期	
調 査 時 間		6：30 ＼	8：30 ＼	6：00 ＼	8：00 ＼	7：15 ＼	9：20 ＼	合 計	平 均 (114分)	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (113分)				
		8：25 (115分)	10：30 (120分)	7：50 (110分)	9：50 (110分)	9：10 (115分)	11：10 (110分)													
天 候		晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／ 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)	ラン ク	Σ⑤～⑥	⑧／ 2				
種 類 ／ 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数													
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧					
5	キジ	4	○	1	1			6	1.50	0.79	0.08	2.7	12.2	B						
	キジバト	3	2	3	2	1		10	2.50	1.32	0.13	4.5	20.4		1	0.50				
	アオバト				○			○												
	ホトトギス	2	○	1	1			4	1.00	0.53	0.05	1.8	8.2	B						
	トビ			○	○		○	○							○					
10	ノスリ		○		1			1	0.25	0.13	0.01	0.5	2.0							
	コゲラ				2	3		2	0.50	0.26	0.03	0.9	4.1		3	1.50				
	アカゲラ				1			1	0.25	0.13	0.01	0.5	2.0							
	アオゲラ		1	1				2	0.50	0.26	0.03	0.9	4.1							
	チョウゲンボウ						1								1	0.50				
15	サンショウクイ	2	4	3	○			9	2.25	1.19	0.11	4.1	18.4	B						
	モズ	○			1			1	0.25	0.13	0.01	0.5	2.0							
	カケス					2	2								4	2.00				
	ハシボソガラス	1						1	0.25	0.13	0.01	0.5	2.0							
	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	3	○							3	1.50				
20	ヤマガラ			1		1		1	0.25	0.13	0.01	0.5	2.0		1	0.50				
	シジュウカラ	2	5	4	2	7	3	13	3.25	1.71	0.16	5.9	26.5	B	10	5.00				
	ツバメ	3	2	2				7	1.75	0.92	0.09	3.2	14.3	A						
	ヒヨドリ	6	10	8	3	11	4	27	6.75	3.56	0.34	12.2	55.1		15	7.50				
	ウグイス	4	6	8	9	1	1	27	6.75	3.56	0.34	12.2	55.1	B	2	1.00				
25	エナガ						3								3	1.50				
	メジロ			2	5			7	1.75	0.92	0.09	3.2	14.3							
	ツグミ					1	1								2	1.00				
	ジョウビタキ					2	1								3	1.50				
	キビタキ	○		1	1			2	0.50	0.26	0.03	0.9	4.1	B						
30	スズメ	15	17	5	12	4		49	12.25	6.46	0.61	22.2	100.0	B	4	2.00				
	キセキレイ			1	1			2	0.50	0.26	0.03	0.9	4.1							
	ハクセキレイ	1		1				2	0.50	0.26	0.03	0.9	4.1							
	カワラヒワ	7	3	1	2	18	2	13	3.25	1.71	0.16	5.9	26.5	B	20	10.00				
	イカル				1			1	0.25	0.13	0.01	0.5	2.0							
35	ホオジロ	8	5	6	6			25	6.25	3.30	0.31	11.3	51.0	B						
	カシラダカ					9	12								21	10.50				
	アオジ					3									3	1.50				
	ガビチョウ	3	3	2	○	6	3	8	2.00	1.05	0.10	3.6	16.3	B	9	4.50				
	カオジロガビチョウ				○			○												
40	ソウシチョウ					2									2	1.00				
45																				
50																				
計	範囲内	個体数	61	58	51	51	71	36	221	55.25	29.14	2.76				107	53.50			
		種 数	14	11	18	17	15	12	24							18				
		全 種 数	17	15	20	23	16	13	28							19				

長野原町鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

長野原町に含まれる調査地は下表の4メッシュである。大前a・bは山地帯下部に、北軽井沢a・bは山地帯上部に属する。大前a・bと北軽井沢aは森林が主要な環境要素であり、さらに大前bはキャベツ畑、北軽井沢aは別荘地を含んでいる。北軽井沢bは広大な牧場の中を通るコースで、草原が主要な環境要素となっている県内では数少ないコースである。

北軽井沢bは、コースの一部が早朝から交通量の多い国道で危険であったため、その区間を国道と並走する西側の町道に移動したが、移動したコースの距離も短く、環境もほぼ変わらないため、調査結果への影響はほとんどないと考えられる。その他のメッシュは前回と同じコースで実施した。今回の調査では、ニホンジカとカモシカが観察された。

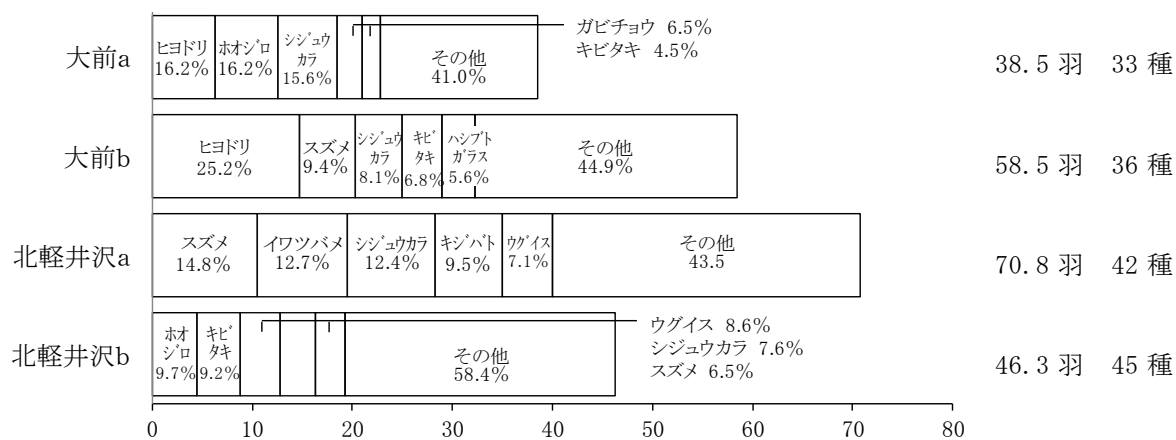
調査メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
大前a	760 ～ 880	◎	—	◎	○	○	○	—	—	前回と同じ
大前b	800 ～ 935	◎	—	○	—	◎	○	—	○	前回と同じ
北軽井沢a	1000 ～ 1100	◎	○	—	—	◎	○	—	○	前回と同じ
北軽井沢b	1170 ～ 1335	○	○	○	◎	—	○	—	—	前回とほぼ同じ

2. 調査結果と考察

今回の調査では、長野原町全体で繁殖期に61種、越冬期に46種、年間では74種が記録された。なお、前々回（平成26年度実施）は繁殖期55種、越冬期42種、年間68種が、前回（令和元年度実施）は繁殖期59種、越冬期39種、年間71種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図および各メッシュの調査票のとおりである。各メッシュとも広葉樹の雑木林などの環境要素が多いため、ヒヨドリ、キビタキ、シジュウカラなど森林性の種と、人里や農耕地などに生息するスズメやホオジロなどが優占した。今回の調査地域全体と比較すると、北軽井沢a・bの種数が多く、大前aの個体数がやや少なかったが、他は平



繁殖期の平均個体数(羽/20ha) と種優占度(%)

均的な値であった。群馬県の絶滅のおそれのある野生生物（以下、群馬県版 RDB 掲載種と表記）は、アオバト、ゴイサギ、ササゴイ、ジュウイチ、ツツドリ、カッコウ、ヨタカ、フクロウ、サンショウクイ、サンコウチョウ、アカハラ、ノビタキ、コサメビタキ、ニュウナイスズメ、ビンズイの 15 種が記録された。このうち、ヨタカは県内では個体数が減少し、貴重な記録である。一方、特定外来生物（以下、外来種と表記）のガビチョウが 2 メッシュで記録された。

今回の調査で繁殖に関係する行動が観察され、繁殖可能性が A ランクとなったのは、シジュウカラ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、スズメの 5 種であった。

(2) 越冬期

越冬期の優占種は下表のとおりであった。繁殖期と同様に、シジュウカラやスズメ、ヒヨドリ、ホオジロなどのほか、カワラヒワや冬鳥として群れで渡来するカシラダカが上位に入った。周辺のメッシュとの比較では、北軽井沢 b の個体数がやや少なかったが、他は平均的な値であった。群馬県版 RDB 掲載種はハイタカ、オオアカゲラ、ビンズイ、カシラダカの 4 種が記録された。外来種は記録されなかった。

調査メッシュ	優占種(上位5種*)					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
大前a	カシラダカ	エナガ	シジュウカラ	ホオジロ	コガラ	45.0	25
大前b	ハシブトガラス	カシラダカ	カワラヒワ	ヒヨドリ	シジュウカラ	77.0	20
北軽井沢a	スズメ	シジュウカラ	ヒヨドリ	カケス	キジバト	58.5	25
北軽井沢b	カワラヒワ	シジュウカラ	ホオジロ	エナガ	コガラ	37.0	20

*同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3) 過去の調査結果との比較

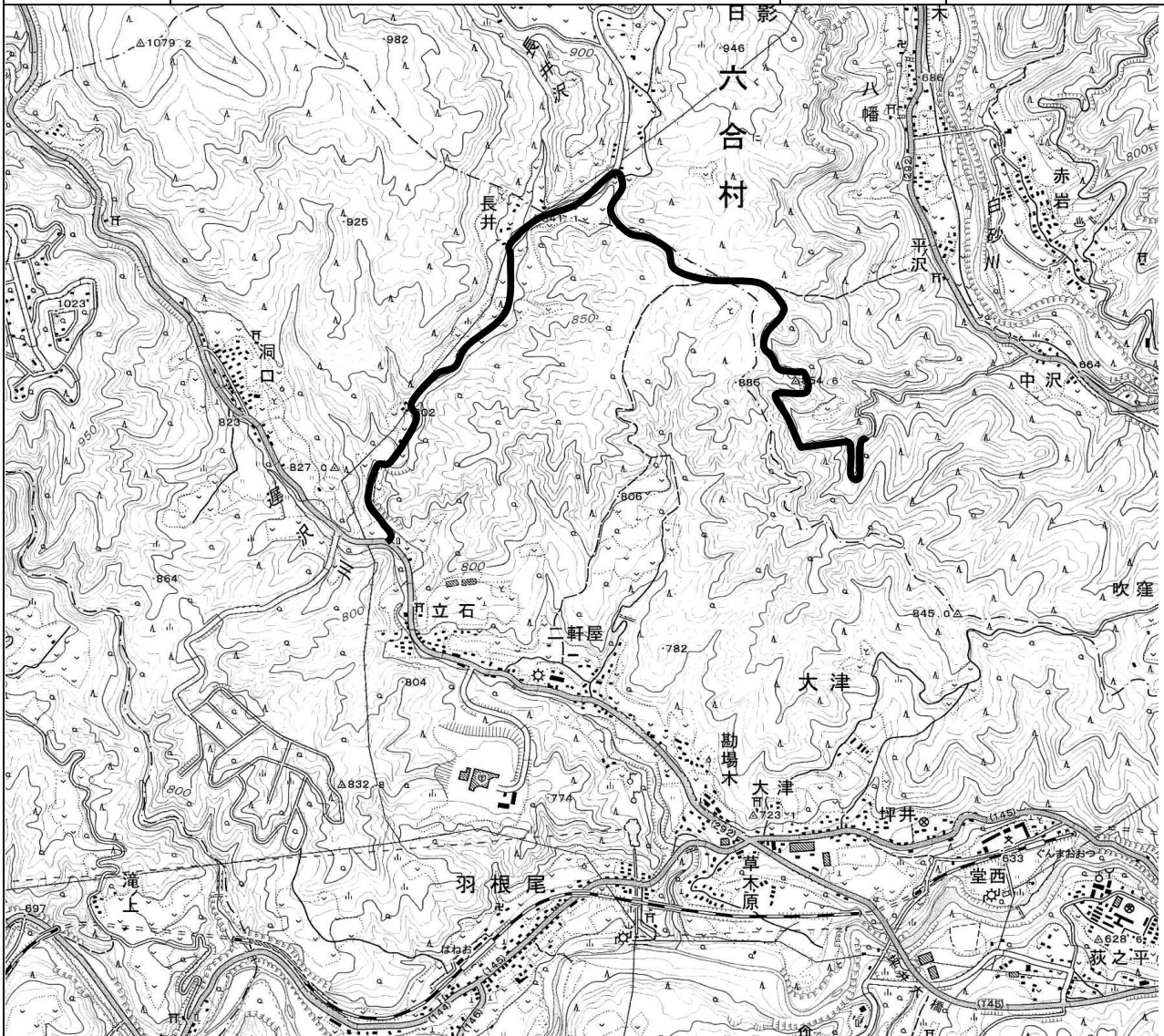
過去 3 回分の調査結果は下表のとおりである。過去 3 回の比較では、大前 b の繁殖期の個体数に減少傾向がみられたが、全体としては種数・個体数ともに大きな変化はなかった。

前回、前々回に記録が無く今回新たに記録された種は、ゴイサギ、ササゴイ、ジュウイチ、エゾムシクイ、シロハラ、コジュケイの 6 種であった。また、冬鳥であるジョウビタキが繁殖期に 2 メッシュで記録された。本種は近年、国内での繁殖が記録されており、今後の動向に注目したい。一方、過去 2 回とも記録されていたのに今回記録されなかった種は、ヤマドリ、アトリ、ノジコ、クロジの 4 種であった。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H26	R1	R6	H26	R1	R6	H26	R1	R6	H26	R1	R6
大前a	29	36	33	46.5	46.3	38.5	31	29	25	110.0	129.5	45.0
大前b	41	34	36	108.0	83.8	58.5	20	24	20	36.5	153.0	77.0
北軽井沢a	35	42	42	116.3	64.8	70.8	18	23	25	37.0	64.0	58.5
北軽井沢b	37	43	45	75.5	45.5	46.3	23	21	20	104.5	49.0	37.0

調 査 地 の 概 況

市町村名	長野原町	地形図名	大前a	調 査 者	勅使河原 洋
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20ha			調査地の標高	760 ~ 880 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	西半分は町道「大津湯久保線」、東半分は林道「中沢線」を通る、全線舗装されたコース。西半分の町道沿いには民家が点在し、耕作地や草地、耕作放棄地があり、食餌植物がみられる。林道「中沢線」の周囲はアカマツ、カラマツ、スギなどの植林地があるが、林道沿いは広葉樹の雑木林が主である。長井沢は水量が豊富で冬も涸れない。 雛に餌を運んでいると思われるシジュウカラとヒヨドリが記録された。周辺で繁殖したものと考えられる。
—	針葉樹林（自然林）	
◎	植林地（人工林）	
○	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
—	河川湖沼・河川敷	

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じ。越冬期の往路は逆光で観察しづかった。繁殖期2日目にシカとカモシカを観察した。8時過ぎにはハルゼミが鳴き始めた。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

大前a

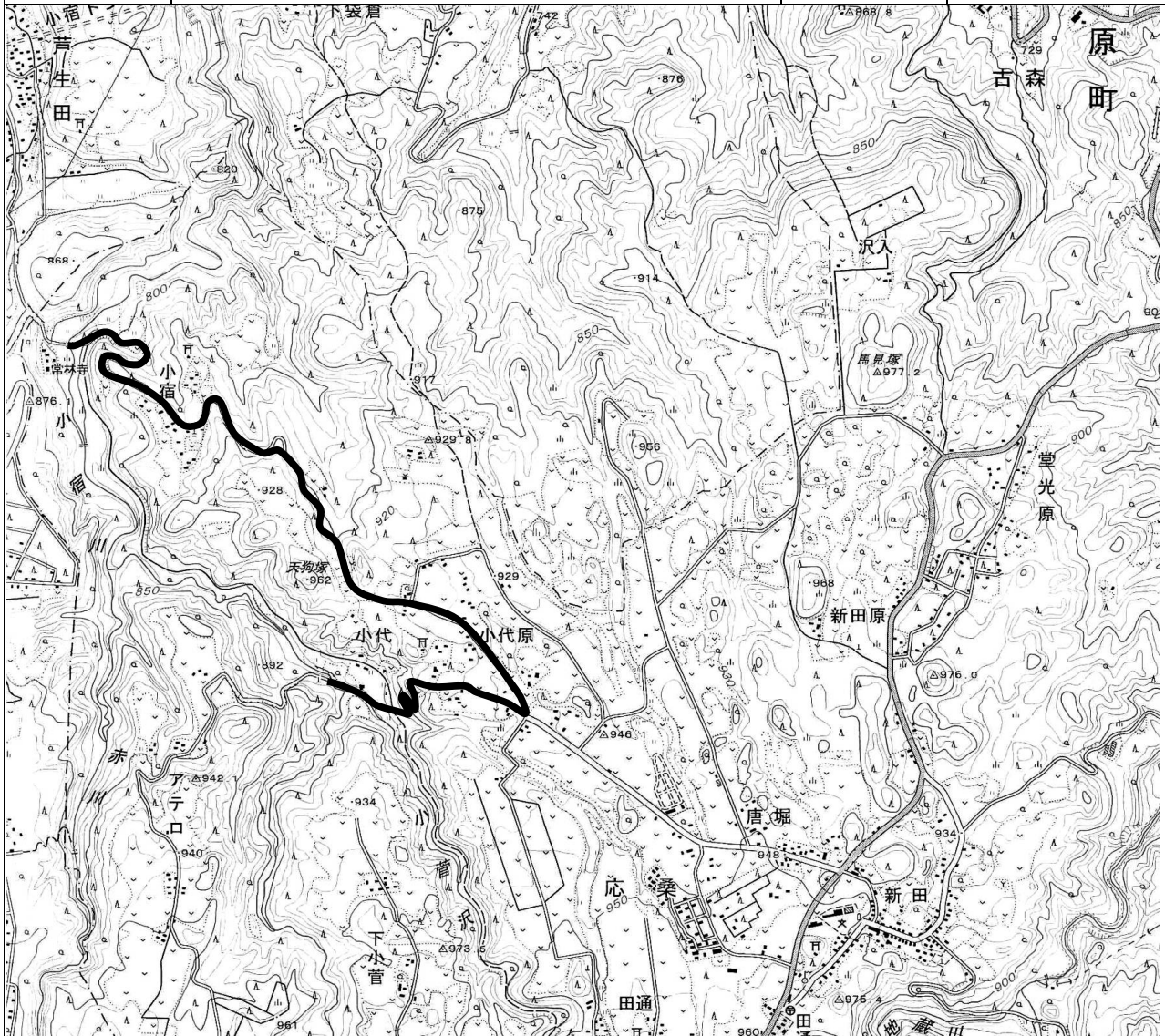
調査者

勅使河原 洋

調 査 年 月 日			R6. 5. 22	R6. 5. 22	R6. 6. 12	R6. 6. 12	R6. 12. 6	R6. 12. 6	繁殖期							越冬期		
調 査 時 間			5 : 50 ＼ 8 : 05 (135分)	8 : 40 ＼ 10 : 40 (120分)	5 : 25 ＼ 7 : 35 (130分)	8 : 05 ＼ 10 : 05 (120分)	7 : 00 ＼ 9 : 00 (120分)	9 : 35 ＼ 11 : 40 (125分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均	
天 候			曇	曇	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／ 4 (126分)	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2 (123分)	
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数										
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦				(%)	(%)		⑧		
5	キジ			○	○	○		○	○						B	○		
	キジバト			2	○	2	○	1	4	1.00	0.48	0.05	2.6	16.0	B	1	0.50	
	アオバト					○	○		○									
	アオサギ					○		1	○							1	0.50	
	ホトトギス			○	○	○	○		○						B			
10	ツツドリ				○	○	○		○						B			
	カッコウ				○				○									
	トビ				○		1	○	1	0.25	0.12	0.01	0.6	4.0		○		
	ハイタカ							1								1	0.50	
	コゲラ				○	3	1	1	4	1.00	0.48	0.05	2.6	16.0		2	1.00	
15	オオアカゲラ							1								1	0.50	
	アカゲラ			1	○	3	2	○	6	1.50	0.71	0.08	3.9	24.0		○		
	サンショウクイ			○	○	○	2		2	0.50	0.24	0.03	1.3	8.0				
	モズ			1	○	○			1	0.25	0.12	0.01	0.6	4.0				
	カケス			○			○	2	2	○						4	2.00	
20	ハシボソガラス			1	1	2	2	○	○	6	1.50	0.71	0.08	3.9	24.0		○	
	ハシブトガラス			1		1	○		2	0.50	0.24	0.03	1.3	8.0				
	コガラ			1	1		○	5	2	0.50	0.24	0.03	1.3	8.0		5	2.50	
	ヤマガラ			1	4				5	1.25	0.59	0.06	3.2	20.0				
	ヒガラ			○	○	○	1		1	0.25	0.12	0.01	0.6	4.0	B			
25	シジュウカラ			7	2	9	6	2	5	24	6.00	2.85	0.30	15.6	96.0	A	7	3.50
	ヒヨドリ			2	3	12	8	○	2	25	6.25	2.97	0.31	16.2	100.0	A	2	1.00
	ウグイス			2	1	1	1	1	1	5	1.25	0.59	0.06	3.2	20.0	B	2	1.00
	ヤブサメ			1	1	1	1			4	1.00	0.48	0.05	2.6	16.0	B		
	エナガ							10	○							10	5.00	
30	エゾムシクイ			○						○								
	センダイムシクイ			○	1	1	○			2	0.50	0.24	0.03	1.3	8.0	B		
	メジロ			1	○	3	2			6	1.50	0.71	0.08	3.9	24.0	B		
	ジョウビタキ								○							○		
	キビタキ			○	1	5	1			7	1.75	0.83	0.09	4.5	28.0	B		
35	オオルリ			○	○	2	1			3	0.75	0.36	0.04	1.9	12.0	B		
	カヤクグリ							1								1	0.50	
	スズメ			1			3			4	1.00	0.48	0.05	2.6	16.0			
	キセキレイ			2	1			○		3	0.75	0.36	0.04	1.9	12.0		○	
	ビンズイ							3									3	1.50
40	カワラヒワ			○	2					2	0.50	0.24	0.03	1.3	8.0			
	ベニマシコ							2								2	1.00	
	イカル						○	1	○							1	0.50	
	ホオジロ			2	2	10	11	1	4	25	6.25	2.97	0.31	16.2	100.0	B	5	2.50
	カシラダカ							25	16								41	20.50
45	アオジ							1								1	0.50	
	コジュケイ								○							○		
	ガビチョウ			1	1	4	4			10	2.50	1.19	0.13	6.5	40.0	B		
50																		
計	範 囲 内	個体数	27	21	59	47	55	35	154	38.50	18.30	1.93				90	45.00	
		種 数	16	13	15	16	13	11	24							18		
		全 種 数	26	26	23	25	18	16	33							25		

調 査 地 の 概 況

市町村名	長野原町	地形図名	大前b	調 査 者	大島 孝之
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20ha			調査地の標高	800 ~ 935 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	小宿川に架かる小宿橋から小代橋までの、全線舗装されたコース。ヒノキやカラマツの植林地もあるが、広葉樹の雑木林が主である。小代原はキャベツ畑が広がっている。小宿川は水量も豊富で、また、農業用水路もあり水場は多い。 今回の調査では、電柱の金具にシジュウカラとスズメが、水道施設の建物の巢にはツバメが出入りしており、繁殖が確認された。繁殖期3回目の調査時に、道路上で採餌しているジョウビタキを観察した。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
—	針葉樹林（自然林）	
○	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
◎	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	

<備考>

調査コースは前回と同じ。繁殖期4回目はハルゼミの声がうるさく、鳥の声を聞きづらかった。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

大前b

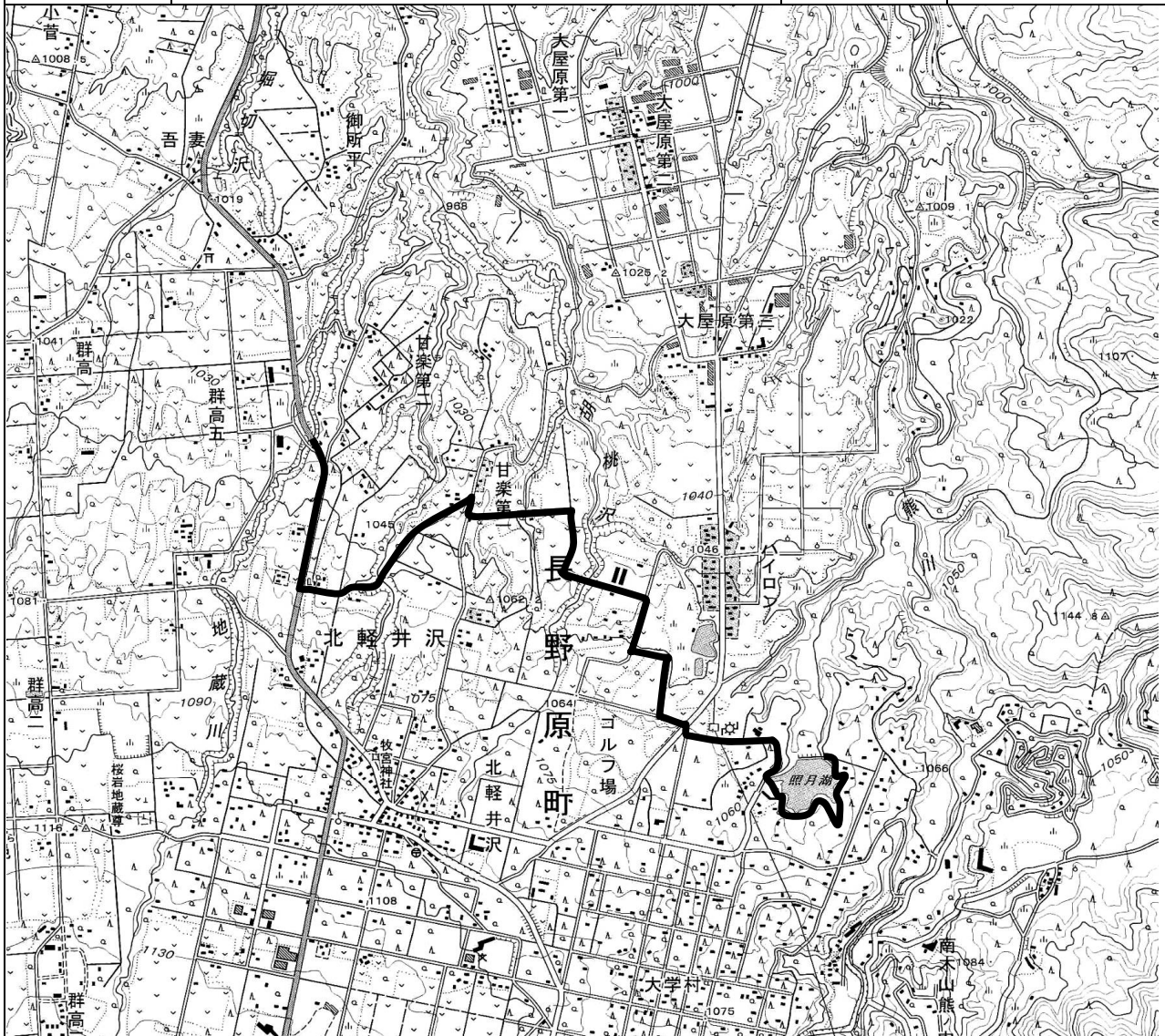
調査者

大島 孝之

調 査 年 月 日			R6. 5. 27	R6. 5. 27	R6. 6. 16	R6. 6. 16	R6. 12. 16	R6. 12. 16	繁殖期								越冬期	
調 査 時 間			5 : 10 ＼ 6 : 50 (100分)	7 : 00 ＼ 8 : 30 (90分)	4 : 50 ＼ 6 : 40 (110分)	6 : 50 ＼ 8 : 35 (105分)	7 : 00 ＼ 8 : 55 (115分)	9 : 05 ＼ 10 : 45 (100分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均	
天 候			曇	曇	曇	晴	晴	0	Σ①～④	⑦／ 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／ 2	
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数			⑧							
5				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦								
	キジ			○	○	○	○			○								
	キジバト			6	4	1	○			11	2.75	1.63	0.14	4.7	18.6	B		
	アオバト					○				○								
	アオサギ					○				○								
	ホトトギス			1	○	1	1			3	0.75	0.44	0.04	1.3	5.1	B		
	ツツドリ			○	○					○								
	カッコウ			○	○	○	○			○					B			
	コゲラ			3		1	1	2	1	5	1.25	0.74	0.06	2.1	8.5		3	1.50
	アカゲラ			2		1		1		3	0.75	0.44	0.04	1.3	5.1		1	0.50
10	アオゲラ					1	2	2		3	0.75	0.44	0.04	1.3	5.1		2	1.00
	サンショウクイ			2	2	1	1			6	1.50	0.89	0.08	2.6	10.2			
	サンコウチョウ					○				○								
	モズ						1			1	0.25	0.15	0.01	0.4	1.7			
	カケス							5	○								5	2.50
	ハシボソガラス			○		1	2	○	1	3	0.75	0.44	0.04	1.3	5.1		1	0.50
	ハシブトガラス			2	4	3	4	34	17	13	3.25	1.93	0.16	5.6	22.0		51	25.50
	ヤマガラ			2				3		2	0.50	0.30	0.03	0.9	3.4		3	1.50
	ヒガラ					○		7		○							7	3.50
	シジュウカラ			2	5	7	5	10	2	19	4.75	2.81	0.24	8.1	32.2	A	12	6.00
20	ツバメ			1	2		1			4	1.00	0.59	0.05	1.7	6.8	A		
	ヒヨドリ			15	16	15	13	6	8	59	14.75	8.74	0.74	25.2	100.0	B	14	7.00
	ウグイス			2	5	4	2			13	3.25	1.93	0.16	5.6	22.0	B		
	エナガ					6		3		6	1.50	0.89	0.08	2.6	10.2		3	1.50
	センダイムシクイ				○					○								
	メジロ			3	4	1	2			10	2.50	1.48	0.13	4.3	16.9	B		
	ゴジュウカラ							1	2								3	1.50
	カワガラス					1		1		1	0.25	0.15	0.01	0.4	1.7		1	0.50
	クロツグミ				○	○				○						B		
	ツグミ							2	○								2	1.00
30	ジョウビタキ					1				1	0.25	0.15	0.01	0.4	1.7			
	キビタキ			5	3	5	3			16	4.00	2.37	0.20	6.8	27.1	B		
	オオルリ						1			1	0.25	0.15	0.01	0.4	1.7			
	スズメ			6	8	6	2	2		22	5.50	3.26	0.28	9.4	37.3	A	2	1.00
	キセキレイ			2		2	2			6	1.50	0.89	0.08	2.6	10.2	B		
	ハクセキレイ					1	1			2	0.50	0.30	0.03	0.9	3.4			
	セグロセキレイ								1								1	0.50
	カワラヒワ			1	3	8	○	16		12	3.00	1.78	0.15	5.1	20.3	B	16	8.00
	シメ							1									1	0.50
	イカル			○	○					○								
40	ホオジロ			4	1	3	2	2	2	10	2.50	1.48	0.13	4.3	16.9	B	4	2.00
	カシラダカ								22								22	11.00
	ガビチョウ			○	1	1	○			2	0.50	0.30	0.03	0.9	3.4	B		
45																		
50																		
計	範 囲 内	個体数	59	58	71	46	98	56	234	58.50	34.67	2.93				154	77.00	
		種 数	17	13	22	18	17	9	26							20		
		全 種 数	23	20	29	23	18	11	36							20		

調 査 地 の 概 況

市町村名	長野原町	地形図名	北軽井沢a	調 査 者	卯木 達朗
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20ha			調査地の標高	1000 ~ 1100 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

◎ 広葉樹林（自然林・雑木林）

○ 針葉樹林（自然林）

— 植林地（人工林）

— 草地・草原・ヨシ原

◎ 農耕地（田・畑・果樹園）

○ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

○ 河川湖沼・河川敷

照月湖から北軽井沢の国道までの、全線舗装されたコース。別荘地と畑地が主であり、静かな環境である。耕作地の間にミズナラ、モミ、クヌギ、アカマツ等の林があり、環境は良い。親鳥が巣に出入りしているイワツバメと、雛の糞を処理していると思われるシジュウカラが観察された。繁殖したものと考えられる。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じ。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

北軽井沢a

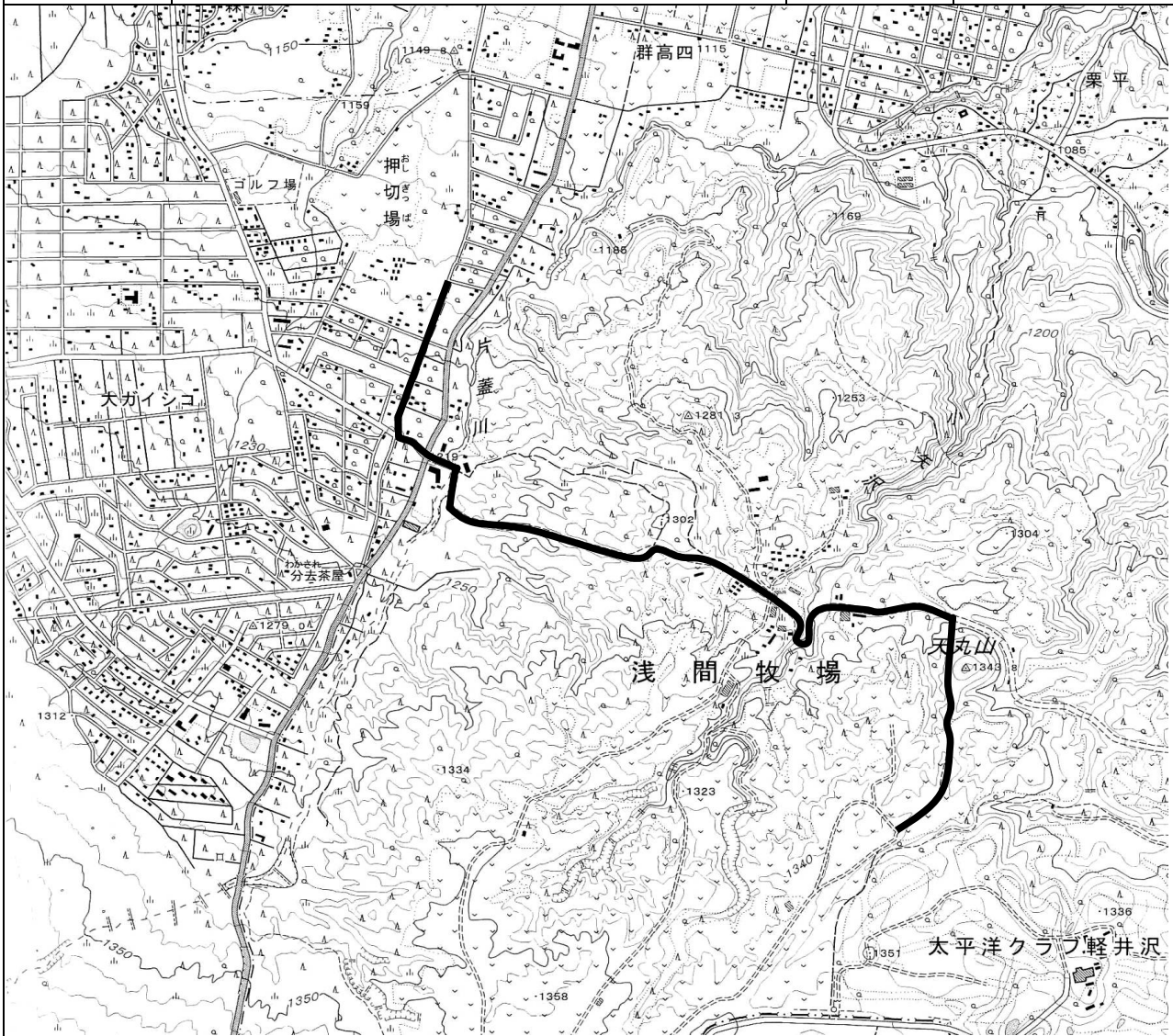
調査者

卯木 達朗

調 査 年 月 日		R6. 5. 25	R6. 5. 25	R6. 6. 16	R6. 6. 16	R6. 12. 1	R6. 12. 1	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間		3 : 45 〃 6 : 00 (135分)	6 : 30 〃 8 : 35 (125分)	4 : 00 〃 6 : 05 (125分)	6 : 30 〃 8 : 35 (125分)	7 : 00 〃 9 : 00 (120分)	9 : 30 〃 11 : 40 (130分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
								Σ①～④	⑦ / 4 (128分)	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧ / 2 (125分)
天 候	種 類 / 結 果	晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤～⑥	⑧ / 2
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧	
	キジ				○			○								
	キジバト	8	7	4	8	3	3	27	6.75	3.18	0.34	9.5	64.3	B	6	3.00
	ゴイサギ	1						1	0.25	0.12	0.01	0.4	2.4			
	ササゴイ			○				○								
5	アオサギ		1		2	1		3	0.75	0.35	0.04	1.1	7.1		1	0.50
	ジュウイチ			○				○								
	ホトトギス	○	○	○	○			○						B		
	ツツドリ		○					○								
	カッコウ	○	○	○	○			○						B		
10	ヨタカ	1						1	0.25	0.12	0.01	0.4	2.4			
	ノスリ			○	○		○	○							○	
	フクロウ	○						○								
	コゲラ	1	1	3	1	1	1	6	1.50	0.71	0.08	2.1	14.3		2	1.00
	アカゲラ			2		2		2	0.50	0.24	0.03	0.7	4.8		2	1.00
15	サンショウクイ	2		2				4	1.00	0.47	0.05	1.4	9.5			
	モズ		1	○	1	1		2	0.50	0.24	0.03	0.7	4.8		1	0.50
	カケス	2				4	3	2	0.50	0.24	0.03	0.7	4.8		7	3.50
	ハシボソガラス	○		○		○	○	○							○	
	ハシブトガラス	2	○	○	○			2	0.50	0.24	0.03	0.7	4.8			
20	キクイタダキ	1						1	0.25	0.12	0.01	0.4	2.4			
	コガラ	1				1		1	0.25	0.12	0.01	0.4	2.4		1	0.50
	ヒガラ	3		3				6	1.50	0.71	0.08	2.1	14.3			
	シジュウカラ	12	9	6	8	6	8	35	8.75	4.12	0.44	12.4	83.3	A	14	7.00
	ツバメ	3		7	4			14	3.50	1.65	0.18	4.9	33.3	B		
25	イワツバメ	11	11	8	6			36	9.00	4.24	0.45	12.7	85.7	A		
	ヒヨドリ	3	2	3	3	4	3	11	2.75	1.29	0.14	3.9	26.2		7	3.50
	ウグイス	8	4	4	4	1	1	20	5.00	2.35	0.25	7.1	47.6	B	2	1.00
	センダイムシクイ	1		1				2	0.50	0.24	0.03	0.7	4.8	B		
	メジロ				1			1	0.25	0.12	0.01	0.4	2.4			
30	ミソサザイ	2	1	2	1	2		6	1.50	0.71	0.08	2.1	14.3	B	2	1.00
	コムクドリ	3	2		2			7	1.75	0.82	0.09	2.5	16.7			
	クロツグミ	1						1	0.25	0.12	0.01	0.4	2.4			
	シロハラ						1								1	0.50
	アカハラ	2	1	2	1			6	1.50	0.71	0.08	2.1	14.3			
35	ツグミ					3	2								5	2.50
	コルリ	4	3	3	3			13	3.25	1.53	0.16	4.6	31.0	B		
	ルリビタキ					1	1								2	1.00
	ジョウビタキ					1	1								2	1.00
	ノビタキ			2	○			2	0.50	0.24	0.03	0.7	4.8			
40	コサメビタキ		1					1	0.25	0.12	0.01	0.4	2.4			
	キビタキ	3	3	3	4			13	3.25	1.53	0.16	4.6	31.0	B		
	カヤクグリ					1									1	0.50
	ニュウナイスズメ		3					3	0.75	0.35	0.04	1.1	7.1			
	スズメ	7	14	12	9	17	19	42	10.50	4.94	0.53	14.8	100.0	B	36	18.00
45	キセキレイ	2	2		1	2	2	5	1.25	0.59	0.06	1.8	11.9		4	2.00
	ビンズイ			1				1	0.25	0.12	0.01	0.4	2.4			
	ベニマシコ					2	1								3	1.50
	ウソ					2									2	1.00
	ホオジロ	2	2		2	2	3	6	1.50	0.71	0.08	2.1	14.3		5	2.50
50	カシラダカ					3	3								6	3.00
	アオジ					3	2								5	2.50
計	個体数	86	68	68	61	63	54	283	70.75	33.29	3.54				117	58.50
	種 数	25	18	18	18	22	16	33							23	
	全 種 数	29	22	26	24	23	18	42							25	

調 査 地 の 概 況

市町村名	長野原町	地形図名	北軽井沢b	調 査 者	清水 伸彦
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20 ha			調査地の標高	1170 ~ 1335 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

☐	広葉樹林（自然林・雑木林）	浅間牧場は広大な牧草地と放牧地で、沢沿いには保安林や広葉樹林が残っている。また、アカマツ林、カラマツ林もある。コースの西端側は別荘地で針葉樹が多い。前回の調査では、草原性のノビタキ、ホオアカ、オオジシギが見られたが、今回はノビタキ1羽が観察されただけであった。ただし、ホオアカやオオジシギが生息しなくなったわけではなく、牧場内の繁殖に適した場所にいる可能性はある。また、今回は冬鳥のツグミ、カシラダカ、シメなどが観察されなかった。今冬は全般的に暖かったせいかもしれない。 今回の調査では、巢に出入りするスズメとその雛の声が記録された。また、繁殖期2回目の調査時に、電線で轉るジョウビタキが記録された。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
☐	針葉樹林（自然林）	
☐	植林地（人工林）	
◎	草地・草原・ヨシ原	
—	農耕地（田・畑・果樹園）	
☐	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
—	河川湖沼・河川敷	

<備考>

調査コースは前回とほぼ同じ。北西端近くの国道は、早朝から交通量が多くて危険であるため、国道の1本西側にコースを移した。移動したコースの距離も短く、環境も変わらないため、調査結果への影響はほとんどない。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

北軽井沢b

調査者

清水 伸彦

調 査 年 月 日			R6. 5. 24	R6. 5. 24	R6. 6. 19	R6. 6. 19	R6. 12. 6	R6. 12. 6	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間			4 : 30 ＼	6 : 45 ＼	4 : 30 ＼	6 : 45 ＼	7 : 00 ＼	9 : 10 ＼	合 計	平 均 (120分)	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (120分)
			6 : 30 (120分)	8 : 45 (120分)	6 : 30 (120分)	8 : 45 (120分)	9 : 00 (120分)	11 : 10 (120分)									
天 候			晴	晴	晴	晴	晴	晴					(%)	(%)			
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数									
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧	
5	キジ		1	○	○	○		2	1	0.25	0.13	0.01	0.5	5.6		2	1.00
	キジバト		2		1	5			8	2.00	1.00	0.10	4.3	44.4			
	アオバト		○			○			○						B		
	ジュウイチ				1				1	0.25	0.13	0.01	0.5	5.6			
	ホトトギス		1	○	○				1	0.25	0.13	0.01	0.5	5.6	B		
10	ツツドリ		1	○					1	0.25	0.13	0.01	0.5	5.6			
	カッコウ		○	2	○	○			2	0.50	0.25	0.03	1.1	11.1	B		
	トビ							1								1	0.50
	ノスリ			1					1	0.25	0.13	0.01	0.5	5.6			
	コゲラ		2		3	2	1		7	1.75	0.88	0.09	3.8	38.9		1	0.50
15	アカゲラ					1	2	1	1	0.25	0.13	0.01	0.5	5.6		3	1.50
	アオゲラ		○						○								
	サンショウクイ		1	1	3	○			5	1.25	0.63	0.06	2.7	27.8			
	モズ		○	1	1	1			3	0.75	0.38	0.04	1.6	16.7			
	ハシブトガラス		○	3	○	2	2	2	5	1.25	0.63	0.06	2.7	27.8		4	2.00
20	キクイタダキ						1									1	0.50
	コガラ		1	○			6	○	1	0.25	0.13	0.01	0.5	5.6		6	3.00
	ヤマガラ		3	2		1			6	1.50	0.75	0.08	3.2	33.3	B		
	ヒガラ		○	2	○	○	4		2	0.50	0.25	0.03	1.1	11.1		4	2.00
	シジュウカラ		6	2	3	3	6	2	14	3.50	1.75	0.18	7.6	77.8	B	8	4.00
25	ヒバリ		○	○	1	○			1	0.25	0.13	0.01	0.5	5.6			
	ツバメ			2	4	3			9	2.25	1.13	0.11	4.9	50.0			
	イワツバメ			3					3	0.75	0.38	0.04	1.6	16.7			
	ヒヨドリ		2	1	1	2	2	1	6	1.50	0.75	0.08	3.2	33.3		3	1.50
	ウグイス		4	4	4	4			16	4.00	2.00	0.20	8.6	88.9	B		
30	エナガ		○	2			6		2	0.50	0.25	0.03	1.1	11.1		6	3.00
	エゾムシクイ		1	1					2	0.50	0.25	0.03	1.1	11.1			
	センダイムシクイ		2		1	1			4	1.00	0.50	0.05	2.2	22.2	B		
	メジロ		1	1		2	2		4	1.00	0.50	0.05	2.2	22.2	B	2	1.00
	ミソサザイ		1						1	0.25	0.13	0.01	0.5	5.6			
35	コムクドリ		2	1		1			4	1.00	0.50	0.05	2.2	22.2	B		
	クロツグミ		○	○					○								
	シロハラ						○									○	
	コルリ		○						○								
	ジョウビタキ			1			○		1	0.25	0.13	0.01	0.5	5.6		○	
40	ノビタキ				○	○			○								
	コサメビタキ			1					1	0.25	0.13	0.01	0.5	5.6			
	キビタキ		4	4	5	4			17	4.25	2.13	0.21	9.2	94.4	B		
	オオルリ		1						1	0.25	0.13	0.01	0.5	5.6			
	スズメ		4	3	2	3	○	2	12	3.00	1.50	0.15	6.5	66.7	A	2	1.00
45	キセキレイ		2	○	1	1			4	1.00	0.50	0.05	2.2	22.2			
	ハクセキレイ		1				1		1	0.25	0.13	0.01	0.5	5.6		1	0.50
	カワラヒワ		2	○	3	4	13	6	9	2.25	1.13	0.11	4.9	50.0		19	9.50
	ベニマシコ						○	1								1	0.50
	イカル		○		○				○								
50	ホオジロ		4	4	7	3	3	4	18	4.50	2.25	0.23	9.7	100.0	B	7	3.50
	アオジ		○	○	2	1			3	0.75	0.38	0.04	1.6	16.7	B		
	コジュケイ		○						○								
	カワラバト (ドバト)		2		5			3	7	1.75	0.88	0.09	3.8	38.9		3	1.50
計	範 囲 内	個体数	51	42	48	44	49	25	185	46.25	23.13	2.31				74	37.00
		種 数	24	21	18	19	13	11	38							18	
		全 種 数	37	30	25	26	17	12	45							20	

婦恋村鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

嬭恋村に含まれる調査地は下表の 10 メッシュである。大前 c・d は山地帯下部に、それ以外の 8 メッシュは山地帯上部に属する。高原キャベツの産地であり、また別荘地として開発された場所もあるため、それらを環境要素に含むメッシュもあるが、多くは広葉樹の雑木林と、スギやヒノキ、カラマツなどの植林地などの森林が主要な環境要素となっている。田代湖とバラギ湖の湖畔や農耕地周辺には草地環境があり、山間部の河川などの水辺環境を含むメッシュも多い。

北軽井沢 d は、別荘地内のコースの一部が廃道となり、またコース南端付近で工事で通行止めの区間があったため、コースを一部変更したが、移動したコースの距離も短く、環境もほぼ変わらないため、調査結果への影響はほとんどないと考えられる。その他のメッシュは前回と同じコースで実施した。なお、積雪や凍結による道路封鎖や調査コースの歩行不能などに備え、嬭恋田代 d では 11 月 1 日に越冬期の調査を実施した。このため、嬭恋田代 d の記録種は渡り途中の通過個体を含んでいる可能性がある。今回の調査では、ニホンリス、キツネ、ニホンジカ、カモシカが観察された。

調査 メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広 葉 樹 林	針 葉 樹 林	植 林 地	草 地 草 原	農 耕 地	里 山 集 落	市 街 地	河 川 湖 沼	
四阿山a	1230 ～ 1410	○	○	○	○	◎	—	—	○	前回と同じ
四阿山b	1085 ～ 1285	◎	—	◎	○	○	○	—	○	前回と同じ
大前c	860 ～ 1070	◎	○	—	—	○	○	—	○	前回と同じ
大前d	765 ～ 895	◎	—	○	—	○	○	—	○	前回と同じ
嬭恋田代a	1110 ～ 1170	○	○	◎	○	○	—	—	○	前回と同じ
嬭恋田代b	1345 ～ 1580	◎	○	○	—	○	—	—	○	前回と同じ
嬭恋田代c	1260 ～ 1430	○	○	◎	—	○	—	—	○	前回と同じ
嬭恋田代d	1410 ～ 1730	○	—	◎	○	—	○	—	○	前回と同じ
北軽井沢c	1095 ～ 1135	◎	○	—	—	○	○	—	—	前回と同じ
北軽井沢d	1230 ～ 1500	○	○	◎	—	—	○	—	—	一部変更

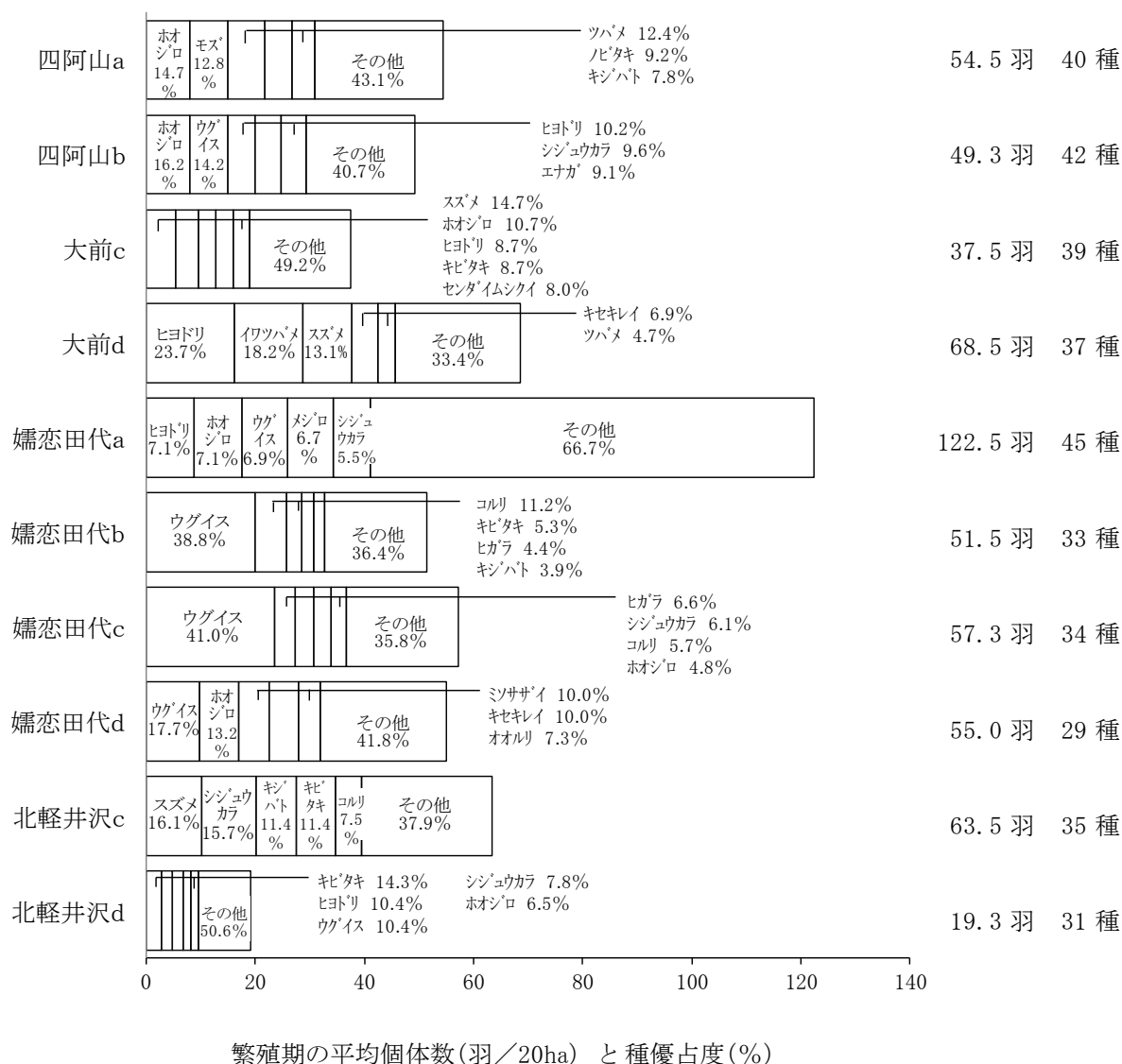
2. 調査結果と考察

今回の調査では、嬭恋村全体で繁殖期に 70 種、越冬期に 49 種、年間では 84 種が記録された。なお、前々回（平成 26 年度実施）は繁殖期 72 種、越冬期 40 種、年間 84 種が、前回（令和元年度実施）は繁殖期 80 種、越冬期 56 種、年間 96 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は次ページの図および各メッシュの調査票のとおりである。どのメッシュも森林を主な環境要素に含むため、主に森林や林縁部に生息するヒヨドリ、キビタキ、ウグイス、ホオジロなどが優占した。また、草原の環境要素を含む四阿山 a では、高原の草原で繁殖するノビタキが上位に入ったことが特徴的である。今回の調査地域全体と比較すると、四阿山 a・b、大前 c で種数がやや多く、嬭恋田代 a は種数・個体数ともに多かった。

が、大前 c と北軽井沢 d は個体数がやや少なかった。嬬恋村全体では、個体数は平均的であったが、種数がやや多かった。この傾向は前回と同様である。



群馬県の絶滅のおそれのある野生生物（以下、群馬県版 RDB 掲載種と表記）は、アオバト、ジュウイチ、ツツドリ、カッコウ、オオタカ、フクロウ、オオアカゲラ、サンショウクイ、オナガ、アカハラ、ノビタキ、コサメビタキ、ビンズイ、ホオアカ、クロジの 15 種が記録された。このうち、猛禽類はオオタカとフクロウが記録されたが、猛禽類は生態系の最上位に位置するため、良好な環境の指標として重要である。また、県内では減少傾向にある托卵鳥のジュウイチ、ツツドリ、カッコウが記録された。托卵鳥は、宿主となる鳥類が豊富に生息することが示唆されるため、注目に値する。高原の草地で繁殖が局地的となってきたノビタキとホオアカが記録されたことから、この地域の自然の豊かさが示唆される。一方、特定外来生物（以下、外来種と表記）のガビチョウが 3 メッシュで記録された。県内の他地域と同様に、標高が高いこの地域でもガビチョウが増加傾向にあるため、今後の動向に注目

したい。

今回の調査で繁殖に関係する行動が観察され、繁殖可能性が A ランクとなったのは、キジバト、モズ、ヒガラ、シジュウカラ、エナガ、コムクドリ、クロツグミ、ジョウビタキ、オオルリ、スズメ、キセキレイ、ホオジロの 12 種であった。

(2) 越冬期

越冬期の優占種は次の表のとおりであった。繁殖期と同様に、シジュウカラやコガラ、ホオジロ、カワラヒワなどの森林や林縁部に生息する種のほか、冬鳥として群れで渡来するカシラダカやツグミ、マヒワなどが上位に入った。今回の調査地域全体と比較すると、大前 c の種数、嬭恋田代 b・c と北軽井沢 d で種数・個体数ともにやや少なく、嬭恋田代 a で個体数がやや多かった。嬭恋村全体では種数がやや少なかったが、個体数は平均的な値であった。例年、越冬期は積雪などの影響で種数や個体数が減少する傾向がみられることが一因と考えられる。

群馬県版 RDB 掲載種はイワヒバリとカシラダカが記録された。このうち、イワヒバリは高山帯で繁殖し、冬季はやや標高が低い地域へ移動する。かつては裏妙義などの岩場に群れで飛来していたが、現在はほとんど観察されなくなった。また、カシラダカは全国的に個体数の減少が著しい種である。今回は大前 d で 54 羽、四阿山 a で 32 羽が記録された。今季は他の市町村でも記録された個体数がやや多かったもので、県内への渡来数が多かったものと考えられる。今回は調査時に田代湖が凍結していたため、水辺の鳥は記録されなかった。外来種では、今回も大前 d でガビチョウが越冬期にも記録された。地上採食性のため、積雪が多い地域での越冬記録は多くないが、当地では周年生息しているものと考えられる。

調査メッシュ	優占種(上位5種*)					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
四阿山a	カシラダカ	ホオジロ	ヒヨドリ	コガラ	ベニマシコ	70.5	21
四阿山b	コガラ	エナガ	ホオジロ	ツグミ	シジュウカラ	47.5	19
大前c	ハシボソガラス	ホオジロ	エナガ	カシラダカ	シジュウカラ	65.5	15
大前d	カシラダカ	スズメ	カケス	エナガ	シジュウカラ	92.0	19
嬭恋田代a	エナガ	ホオジロ	カケス	ツグミ	ベニマシコ	118.0	24
嬭恋田代b	ツグミ	アトリ	ホオジロ	カケス	エナガ	26.5	13
嬭恋田代c	エナガ	コガラ	ヒガラ	シジュウカラ	ツグミ	36.0	9
嬭恋田代d	ツグミ	マヒワ	アトリ	ホオジロ	コゲラ	84.0	17
北軽井沢c	マヒワ	シジュウカラ	キジバト	カケス	ツグミ	41.0	26
北軽井沢d	エナガ	シジュウカラ	ヤマガラ	ホシガラス	アカゲラ	24.0	12

*同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3) 過去の調査結果との比較

過去 3 回分の調査結果は次ページの表のとおりである。過去 3 回の比較では、嬭恋田代 b の越冬期の個体数を除くと、繁殖期と越冬期、種数と個体数ともに、各メッシュとも変動があるが大きな増減の傾向は認められなかった。嬭恋田代 b の越冬期の個体数は、前々回の調査と比較すると前回、今回の記録数が著しく少ない。これは、前々回の調査ではツグミ、

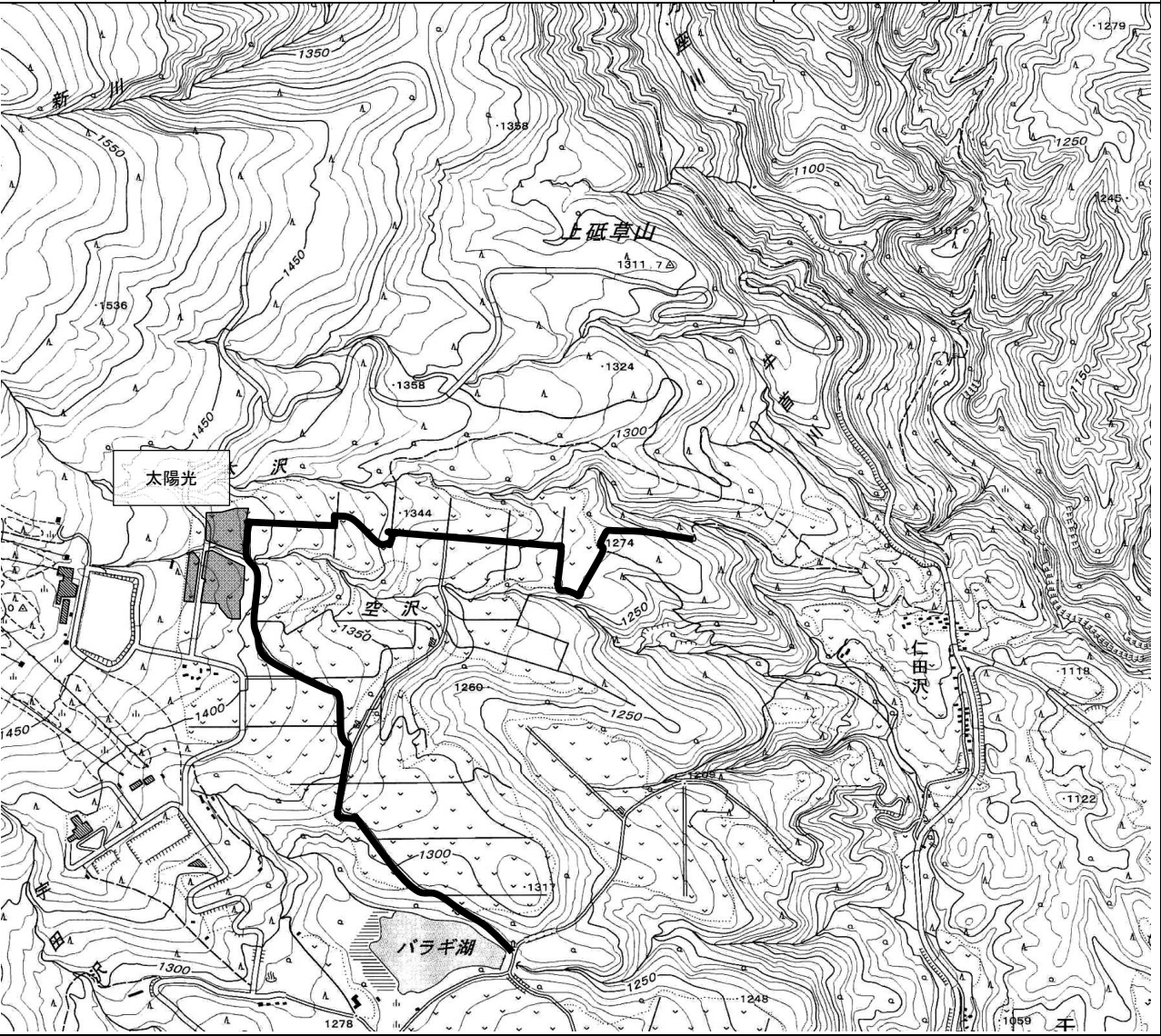
アトリ、マヒワ、カシラダカの記録数が多かったのに対し、前回と今回の調査ではこれらの冬鳥が僅かしか記録されなかったことが主な要因である。この 4 種は、渡来数が年によって著しく増減し、もともと変動が大きい種類である。特にツグミは、今冬も県内では渡来数が少なかったため、婦恋村でも記録されなかったものと考えられる。

前回、前々回に記録がなく、今回記録された種は、ダイサギ、オオアカゲラ、イワヒバリ の 3 種である。また、冬鳥であるジョウビタキが繁殖期に 4 メッシュで記録された。特に四阿山 b と大前 c では、雛に餌を運んでいると考えられる成鳥が記録されたことから、繁殖したものと考えられる。本種は近年、国内での繁殖が記録され、繁殖分布と個体数が増加している。県内でも北部や西部で繁殖が確認されており、今後は草津町でも増加していく可能性がある。今後の動向に注目したい。一方、前回、前々回とも記録されていたのに今回記録されなかった種は、カイツブリ、オオジシギ、ハチクマ、ハイタカ、ハヤブサ、サンコウチョウ、エゾムシクイ、トラツグミの 8 種である。また、前回記録が途絶えたノジコが今回も記録されなかった。本種は、現在の方法で調査が実施されるようになった 1984 年から 5 年ごとの調査でほぼ毎回記録されてきた種である。県内では繁殖は局地的でやや個体数も減少傾向にあるため、今後の動向に注目したい。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H26	R1	R6	H26	R1	R6	H26	R1	R6	H26	R1	R6
四阿山a	28	43	40	46.8	63.0	54.5	6	23	21	9.0	59.5	70.5
四阿山b	39	44	42	40.8	62.8	49.3	12	26	19	16.0	66.0	47.5
大前c	35	41	39	72.0	39.0	37.5	15	20	15	30.5	70.0	65.5
大前d	39	45	37	78.0	64.8	68.5	19	22	19	33.5	98.0	92.0
婦恋田代a	44	54	45	122.0	114.5	122.5	16	35	24	42.0	80.0	118.0
婦恋田代b	30	33	33	55.0	48.3	51.5	20	13	13	163.0	26.5	26.5
婦恋田代c	30	30	34	75.5	62.0	57.3	11	11	9	42.0	70.5	36.0
婦恋田代d	29	35	29	63.3	65.3	55.0	14	25	17	40.0	76.0	84.0
北軽井沢c	37	38	35	81.0	102.3	63.5	20	20	26	43.0	32.0	41.0
北軽井沢d	23	17	31	32.3	17.8	19.3	10	7	12	16.0	46.5	24.0

調 査 地 の 概 況

市町村名	孺恋村	地形図名	四阿山a	調 査 者	阪本 俊英
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20 ha			調査地の標高	1230 ~ 1410 m



調査地の環境 (調査コースの植生、地形など)		調査コース
○ 広葉樹林 (自然林・雑木林)	なだらかに西から東へと下がる斜面に、キャベツを中心とした畑地と、草地となっている休耕地が広がる。沢沿いには広葉樹を中心とした林があり、所々にカラマツの人工林がある。以前は草地でオオジシギが観察されたが、草丈が高くなり、ヤナギ類など樹木が大きくなったことで、今回は観察されなかった。冬期は積雪が多く、寒冷。パラギ湖は凍結する。 今回の調査では、巣に出入りするモズと、雛に餌を運んでいると思われるヒガラが観察された。周辺で繁殖したものと考えられる。	
○ 針葉樹林 (自然林)		
○ 植林地 (人工林)		
○ 草地・草原・ヨシ原		
◎ 農耕地 (田・畑・果樹園)		
— 里山・疎らな民家		
— 市街地・工業団地		
○ 河川湖沼・河川敷	← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。	

<備考>

調査コースは前回と同じ。キャベツ畑の周囲を、電気柵で囲う畑が多く見られた。調査コースの北西端付近の太陽光発電のパネルが、前回より増設されている。調査コース上でカモシカの足跡を観察した。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

四阿山a

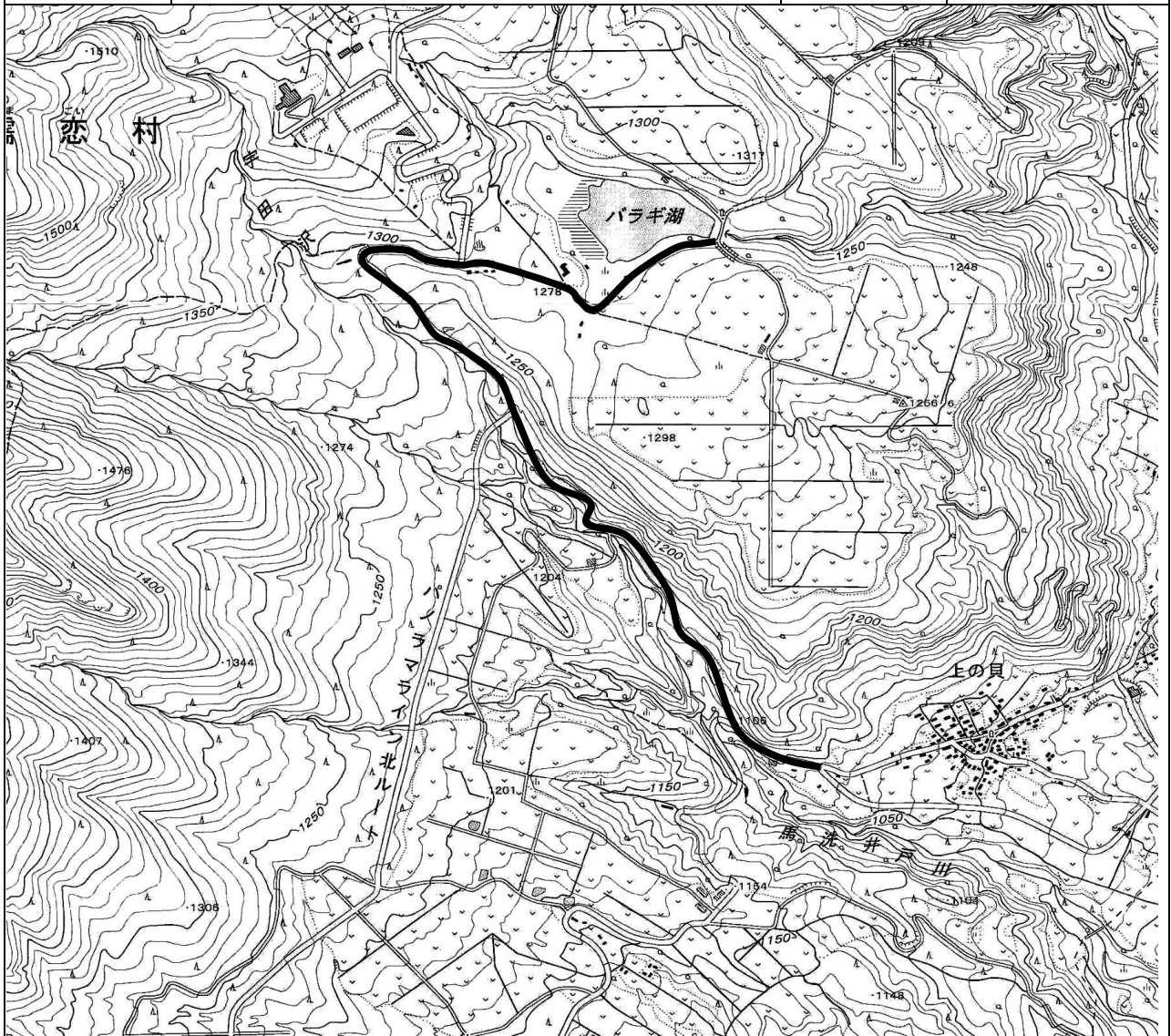
調査者

阪本 俊英

調 査 年 月 日		R6. 5. 25	R6. 5. 25	R6. 6. 22	R6. 6. 22	R6. 11. 17	R6. 11. 17	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間		8：05 〃 10：05 (120分)	10：10 〃 12：10 (120分)	6：00 〃 8：00 (120分)	8：10 〃 10：00 (110分)	9：00 〃 11：00 (120分)	11：10 〃 13：10 (120分)	合 計	平 均	密 度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候		霧	曇	晴	曇	曇	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数			⑦						
5	キジ	1	2	○	○	1	○	3	0.75	0.38	0.04	1.4	9.4	B	1	0.50
	カルガモ						○								○	
	キジバト	7	4	2	4			17	4.25	2.17	0.21	7.8	53.1	B		
	アオバト			○				○								
	カワウ			○				○								
10	ホトトギス	○	1	○	○			1	0.25	0.13	0.01	0.5	3.1	B		
	ツツドリ	○		○				○						B		
	カッコウ	4	○	2	1			7	1.75	0.89	0.09	3.2	21.9	B		
	トビ	○	○			3	1	○							4	2.00
	コゲラ		1	1	○	1	2	2	0.50	0.26	0.03	0.9	6.3		3	1.50
15	アカゲラ					1									1	0.50
	アオゲラ	○	1		○			1	0.25	0.13	0.01	0.5	3.1			
	サンショウクイ				1			1	0.25	0.13	0.01	0.5	3.1			
	モズ	6	1	12	9	1		28	7.00	3.57	0.35	12.8	87.5	A	1	0.50
	カケス	○	1	○		○		1	0.25	0.13	0.01	0.5	3.1		○	
20	ハシボソガラス				1			1	0.25	0.13	0.01	0.5	3.1			
	ハシブトガラス	1	2	○	○	○	○	3	0.75	0.38	0.04	1.4	9.4		○	
	コガラ					7	5								12	6.00
	ヤマガラ					○									○	
	ヒガラ		2					2	0.50	0.26	0.03	0.9	6.3	A		
25	シジュウカラ	○	○	○	○	3	1	○						B	4	2.00
	ヒバリ	1	○	1	○			2	0.50	0.26	0.03	0.9	6.3	B		
	ツバメ	2	3	1	21			27	6.75	3.45	0.34	12.4	84.4			
	イワツバメ	6	6	2				14	3.50	1.79	0.18	6.4	43.8			
	ヒヨドリ	1		○	3	25	○	4	1.00	0.51	0.05	1.8	12.5		25	12.50
30	ウグイス	○	3	3	3			9	2.25	1.15	0.11	4.1	28.1	B		
	エナガ				2	5		2	0.50	0.26	0.03	0.9	6.3		5	2.50
	メジロ			1				1	0.25	0.13	0.01	0.5	3.1			
	ミソサザイ			○				○								
	コムクドリ		○		6			6	1.50	0.77	0.08	2.8	18.8			
35	カワガラス					1									1	0.50
	アカハラ	○	1	○	○			1	0.25	0.13	0.01	0.5	3.1	B		
	ツグミ					1	○								1	0.50
	コルリ			○	○			○								
	ジョウビタキ					1									1	0.50
40	ノビタキ	7	4	5	4			20	5.00	2.55	0.25	9.2	62.5	B		
	キビタキ	1	1	○	○			2	0.50	0.26	0.03	0.9	6.3	B		
	オオルリ		○					○								
	キセキレイ		1	2				3	0.75	0.38	0.04	1.4	9.4			
	ハクセキレイ		○		3			3	0.75	0.38	0.04	1.4	9.4			
45	セグロセキレイ	1						1	0.25	0.13	0.01	0.5	3.1			
	カワラヒワ	2	4	○	1		4	7	1.75	0.89	0.09	3.2	21.9	B	4	2.00
	マヒワ					4									4	2.00
	ベニマシコ					6	2								8	4.00
	シメ	2						2	0.50	0.26	0.03	0.9	6.3			
50	イカル	2	1		○			3	0.75	0.38	0.04	1.4	9.4			
	ホオジロ	10	8	9	5	14	17	32	8.00	4.09	0.40	14.7	100.0	B	31	15.50
	ホオアカ	4	3	1	1			9	2.25	1.15	0.11	4.1	28.1	B		
	カシラダカ					32	3								35	17.50
	アオジ	1	○	○	2			3	0.75	0.38	0.04	1.4	9.4	B		
計	範囲内 個体数 種 数 全 種 数	59	50	42	67	106	35	218	54.50	27.83	2.73				141	70.50
		18	20	13	16	16	8	32							17	
		26	28	28	27	19	13	40							21	

調 査 地 の 概 況

市町村名	孺恋村	地形図名	四阿山b	調 査 者	阪本 俊英
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20ha			調査地の標高	1085 ～ 1285 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	四阿山の斜面を流れる宇田沢に沿った広葉樹林やカラマツを中心とした人工林の林地を中心とし、バラギ湖畔ではキャンプ場となっている草地がある。林地の林床にはササの茂る部分もある。冬期は積雪が多く、寒冷。バラギ湖は凍結する。 今回の調査では、巣立ち間もないと思われるエナガの雛と、雛に餌を運んでいると思われるジョウビタキとホオジロが観察された。周辺で繁殖したものと考えられる。
—	針葉樹林（自然林）	
◎	植林地（人工林）	
○	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じ。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

四阿山b

調査者

阪本 俊英

調 査 年 月 日			R6. 5. 22	R6. 5. 22	R6. 6. 16	R6. 6. 16	R6. 11. 17	R6. 11. 17	繁殖期							越冬期		
調 査 時 間			6 : 20 〃 8 : 05 (105分)	12 : 10 〃 14 : (110分)	7 : 00 〃 8 : 50 (110分)	9 : 00 〃 10 : 50 (110分)	7 : 30 〃 9 : 00 (90分)	13 : 10 〃 14 : 40 (90分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均	
天 候			霧	曇	曇	晴	曇	曇	Σ①～④	⑦／ 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2	
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数										
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧		
5	カルガモ			○					○							○		
	ハジロカイツブリ								○							○		
	キジバト			1		○	1		2	0.50	0.28	0.03	1.0	6.3	B			
	アオバト					○			○									
	ダイサギ								○							○		
10	ジュウイチ				○				○									
	ホトトギス			○	○	○	1		1	0.25	0.14	0.01	0.5	3.1	B			
	ツツドリ			○	○	○			○						B			
	カッコウ			1	○	○	○		1	0.25	0.14	0.01	0.5	3.1	B			
	トビ			○		○	○		○									
15	ノスリ						1		1	0.25	0.14	0.01	0.5	3.1				
	コゲラ			○	○	1	3	○	1	4	1.00	0.55	0.05	2.0	12.5	1	0.50	
	アカゲラ					1		○	1	0.25	0.14	0.01	0.5	3.1	○			
	サンショウクイ			○		○	1		1	0.25	0.14	0.01	0.5	3.1				
	モズ					1	2		3	0.75	0.41	0.04	1.5	9.4				
20	カケス			○		○			○									
	ハシボソガラス			○				○	○							○		
	ハシブトガラス				○	2	1		3	0.75	0.41	0.04	1.5	9.4				
	コガラ				2		○	16	6	2	0.50	0.28	0.03	1.0	6.3	22	11.00	
	ヤマガラ				○			4		○						4	2.00	
25	ヒガラ					5	1	1	6	1.50	0.83	0.08	3.0	18.8		1	0.50	
	シジュウカラ			4	4	6	5	2	3	19	4.75	2.62	0.24	9.6	59.4	B	5	2.50
	ヒバリ			○	○	○	○		○							B		
	ツバメ						1		1	0.25	0.14	0.01	0.5	3.1				
	ヒヨドリ			4	3	9	4	1	20	5.00	2.76	0.25	10.2	62.5		1	0.50	
30	ウグイス			8	5	6	9		28	7.00	3.86	0.35	14.2	87.5	B			
	ヤブサメ			1	1	3	2		7	1.75	0.97	0.09	3.6	21.9	B			
	エナガ			3	○	7	8	20	1	18	4.50	2.48	0.23	9.1	56.3	A	21	10.50
	センダイムシクイ			1	1				2	0.50	0.28	0.03	1.0	6.3				
	メジロ			1		3	2		6	1.50	0.83	0.08	3.0	18.8	B			
35	ミソサザイ			1					1	0.25	0.14	0.01	0.5	3.1				
	コムクドリ				○		1		1	0.25	0.14	0.01	0.5	3.1				
	クロツグミ			1		1			2	0.50	0.28	0.03	1.0	6.3	B			
	アカハラ			1					1	0.25	0.14	0.01	0.5	3.1				
	ツグミ							16									16	8.00
40	コルリ			3	○	1	3		7	1.75	0.97	0.09	3.6	21.9	B			
	ジョウビタキ			1				1	1	0.25	0.14	0.01	0.5	3.1	A	1	0.50	
	キビタキ			2	2	2	1		7	1.75	0.97	0.09	3.6	21.9	B			
	オオルリ			○	○	1	1		2	0.50	0.28	0.03	1.0	6.3	B			
	キセキレイ			1	○	2	○	2	3	0.75	0.41	0.04	1.5	9.4	B	2	1.00	
45	カワラヒワ			1		1		1	2	0.50	0.28	0.03	1.0	6.3		1	0.50	
	ベニマシコ								2							2	1.00	
	イカル			○		○			○							○		
	ホオジロ			3	3	14	12	11	7	32	8.00	4.41	0.40	16.2	100.0	A	18	9.00
	アオジ			1	○	8	2			11	2.75	1.52	0.14	5.6	34.4	B		
50	クロジ			1	○				1	0.25	0.14	0.01	0.5	3.1				
計	範囲内	個体数	40	21	74	62	75	20	197	49.25	27.17	2.46				95	47.50	
		種 数	20	8	19	21	11	6	32							13		
		全 種 数	31	23	29	26	14	10	42							19		

調 査 地 の 概 況

市町村名	孺恋村	地形図名	大前c	調 査 者	五十嵐 寛
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20ha			調査地の標高	860 ~ 1070 m

調査地の環境 (調査コースの植生、地形など)		調査コース
◎ 広葉樹林 (自然林・雑木林)	沢地形の東向き斜面を通る林道のコース。調査コースの南側を中心に、全体の4分の3程度は広葉樹の雑木林が広がっている。小さな沢もあり、環境は良い。林道は舗装されているが、木々が迫り、上空の見通しがきかない。コースの北端周辺には広い農耕地があり、民家が点在している。 今回の調査では、雛に餌を運んでいると思われるシジュウカラ、クロツグミ、ジョウビタキ、キセキレイが観察された。周辺で繁殖したものと考えられる。	
○ 針葉樹林 (自然林)		
— 植林地 (人工林)		
— 草地・草原・ヨシ原		
○ 農耕地 (田・畑・果樹園)		
○ 里山・疎らな民家		
— 市街地・工業団地		
○ 河川湖沼・河川敷		
← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。		
<備考> 調査コースは前回と同じ。繁殖期の調査では8:30頃からハルゼミが鳴き始めたが、調査への支障はあまりなかった。カモシカを2頭、別の場所で観察した。		

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

大前c

調査者

五十嵐 寛

調 査 年 月 日			R6. 5. 24	R6. 5. 24	R6. 6. 5	R6. 6. 5	R6. 12. 11	R6. 12. 11	繁殖期							越冬期		
調 査 時 間			5 : 10 ＼ 6 : 55 (105分)	7 : 05 ＼ 8 : 55 (110分)	5 : 20 ＼ 7 : 15 (115分)	7 : 25 ＼ 9 : 10 (105分)	8 : 15 ＼ 10 : 00 (105分)	10 : 10 ＼ 12 : 00 (110分)	合 計	平 均	密 度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均	
天 候			晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／ 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／ 2	
種 類 　／　 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数			⑧							
5				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦								
	ヤマドリ					2			2	0.50	0.28	0.03	1.3	9.1				
	キジ			○	○	○	○		○						B			
	キジバト			3	○	2	○		5	1.25	0.69	0.06	3.3	22.7				
	アオバト			○		○			○						B			
10	ホトトギス			○	○				○									
	ツツドリ			○	○	○	○		○						B			
	カッコウ			○	○	○	1		1	0.25	0.14	0.01	0.7	4.5	B			
	トビ						○		○									
	コゲラ			1	1	1		1	4	3	0.75	0.41	0.04	2.0	13.6		5	2.50
15	オオアカゲラ					1			1	0.25	0.14	0.01	0.7	4.5				
	アカゲラ			○				1		○						1	0.50	
	アオゲラ			1	○		1		2	0.50	0.28	0.03	1.3	9.1	B			
	サンショウクイ					○			○									
	モズ					1			1	0.25	0.14	0.01	0.7	4.5				
20	カケス							4	○							4	2.00	
	オナガ						○		○									
	ハシボソガラス			○				50	○	○						50	25.00	
	ハシブトガラス			1	○	2	○	○		3	0.75	0.41	0.04	2.0	13.6	○		
	キクイタダキ								1							1	0.50	
25	コガラ					1		3	5	1	0.25	0.14	0.01	0.7	4.5		8	4.00
	ヤマガラ			○	1	1	1	2	6	3	0.75	0.41	0.04	2.0	13.6	B	8	4.00
	ヒガラ			○	○	2	○		5	2	0.50	0.28	0.03	1.3	9.1	B	5	2.50
	シジュウカラ			1	1	3	2	2	6	7	1.75	0.97	0.09	4.7	31.8	A	8	4.00
	ヒバリ			○	○		○			○						B		
30	ツバメ					1				1	0.25	0.14	0.01	0.7	4.5			
	ヒヨドリ			○	7	3	3	1		13	3.25	1.79	0.16	8.7	59.1		1	0.50
	ウグイス			○	○	1	1			2	0.50	0.28	0.03	1.3	9.1	B		
	ヤブサメ			○	1	2	2			5	1.25	0.69	0.06	3.3	22.7	B		
	エナガ					1		1	10	1	0.25	0.14	0.01	0.7	4.5		11	5.50
35	センダイムシクイ			2	3	2	5			12	3.00	1.66	0.15	8.0	54.5	B		
	メジロ			1		2	○		1	3	0.75	0.41	0.04	2.0	13.6		1	0.50
	クロツグミ			3	1	2	2			8	2.00	1.10	0.10	5.3	36.4	A		
	ジョウビタキ			4	1	1	2			8	2.00	1.10	0.10	5.3	36.4	A		
	キビタキ			4	2	3	4			13	3.25	1.79	0.16	8.7	59.1	B		
40	オオルリ					2				2	0.50	0.28	0.03	1.3	9.1			
	カヤクグリ			1						1	0.25	0.14	0.01	0.7	4.5			
	スズメ			3	2	10	7			22	5.50	3.03	0.28	14.7	100.0			
	キセキレイ			3	2	2	2			9	2.25	1.24	0.11	6.0	40.9	A		
	カワラヒワ				2		○			2	0.50	0.28	0.03	1.3	9.1			
45	ホオジロ			4	3	5	4	14	4	16	4.00	2.21	0.20	10.7	72.7	B	18	9.00
	カシラダカ								10								10	5.00
	ガビチョウ			1	○					1	0.25	0.14	0.01	0.7	4.5			
50																		
計	範 囲 内	個 体 数	33	27	53	37	79	52	150	37.50	20.69	1.88				131	65.50	
		種 数	15	13	24	14	10	10	29							14		
		全 種 数	28	24	29	24	11	12	39							15		

調査地の概況

市町村名	嬭恋村	地形図名	大前d	調査者	大島 孝之
調査範囲	4 km (調査距離) × 50m (幅) = 20ha			調査地の標高	765 ~ 895 m

調査地の環境 (調査コースの植生、地形など)		調査コース
◎ 広葉樹林 (自然林・雑木林)	吾妻川とその支流万座川に沿ったコース。県立嬭恋高校グラウンド西側の天神沢から門貝農村公園入口まで進む。三原の市街地は家屋が多く、スズメやツバメが多い。そこ以外は広葉樹の雑木林が主である。河岸段丘の一部はメガソーラー発電所となっていて、樹木が刈られている。 今回の調査では、巣に出入りするスズメと、雛に餌を運んでいると思われるホオジロが記録された。周辺で繁殖したものと考えられる。また、繁殖期に電線などで囀るジョウビタキが記録された。	
— 針葉樹林 (自然林)		
○ 植林地 (人工林)		
— 草地・草原・ヨシ原		
○ 農耕地 (田・畑・果樹園)		
○ 里山・疎らな民家		
— 市街地・工業団地		
○ 河川湖沼・河川敷		
← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。		
<備考> 調査コースは前回と同じ。繁殖期4回目の調査時は、ハルゼミの声がうるさく、鳥の声を確認しづらかった。		

生 息 調 査 集 計 表

地形図名	大前d	調査者	大島 孝之
------	-----	-----	-------

調 査 年 月 日			R6. 5. 29	R6. 5. 29	R6. 6. 17	R6. 6. 17	R6. 12. 20	R6. 12. 20	繁殖期								越冬期	
調 査 時 間			5：00 ＼ 6：50 (110分)	7：00 ＼ 8：40 (100分)	4：50 ＼ 6：35 (105分)	6：45 ＼ 8：30 (105分)	7：20 ＼ 9：10 (110分)	9：20 ＼ 11：00 (100分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均	
天 候			晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2	
種 類 　／　 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数			⑧							
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦									
5	カルガモ					2		○	2	0.50	0.29	0.03	0.7	3.1		○		
	キジバト			2	2	1	○		5	1.25	0.71	0.06	1.8	7.7	B			
	アオバト			○	4				4	1.00	0.57	0.05	1.5	6.2				
	カワウ				○				○									
	トビ			1					1	0.25	0.14	0.01	0.4	1.5				
10	オオタカ				○				○									
	ノスリ							1								1	0.50	
	コゲラ					1		1	1	0.25	0.14	0.01	0.4	1.5		1	0.50	
	アカゲラ					1		1	1	0.25	0.14	0.01	0.4	1.5		1	0.50	
	アオゲラ			○	○	○			○									
15	サンショウクイ				1				1	0.25	0.14	0.01	0.4	1.5				
	モズ			1					1	0.25	0.14	0.01	0.4	1.5				
	カケス			2		2	1	17	2	5	1.25	0.71	0.06	1.8	7.7	19	9.50	
	ハシブトガラス			2	2	3	1	3	1	8	2.00	1.14	0.10	2.9	12.3	4	2.00	
	コガラ					4			4	1.00	0.57	0.05	1.5	6.2				
20	ヤマガラ					1	2	2	3	0.75	0.43	0.04	1.1	4.6		2	1.00	
	ヒガラ				2	1			3	0.75	0.43	0.04	1.1	4.6				
	シジュウカラ				2	1	3	5	4	6	1.50	0.86	0.08	2.2	9.2	B	9	4.50
	ツバメ			2	4	5	2		13	3.25	1.86	0.16	4.7	20.0				
	イワツバメ			12	4	13	21		50	12.50	7.14	0.63	18.2	76.9				
25	ヒヨドリ			13	18	22	12	2	5	65	16.25	9.29	0.81	23.7	100.0	7	3.50	
	ウグイス			1	○	4	2	1		7	1.75	1.00	0.09	2.6	10.8	B	1	0.50
	エナガ								14							14	7.00	
	センダイムシクイ			1						1	0.25	0.14	0.01	0.4	1.5			
	メジロ					1	4			5	1.25	0.71	0.06	1.8	7.7			
30	ムクドリ			1	1					2	0.50	0.29	0.03	0.7	3.1			
	カワガラス			○						○								
	クロツグミ			○		1	○			1	0.25	0.14	0.01	0.4	1.5	B		
	ジョウビタキ			1	1	○			2	2	0.50	0.29	0.03	0.7	3.1	B	2	1.00
	キビタキ			1		1				2	0.50	0.29	0.03	0.7	3.1	B		
35	オオルリ			○	1	2	2			5	1.25	0.71	0.06	1.8	7.7	B		
	スズメ			12	10	8	6	24	8	36	9.00	5.14	0.45	13.1	55.4	A	32	16.00
	キセキレイ			5	4	4	6			19	4.75	2.71	0.24	6.9	29.2	B		
	ハクセキレイ				○					○								
	カワラヒワ			1	2	1		3	1	4	1.00	0.57	0.05	1.5	6.2	B	4	2.00
40	ベニマシコ							1									1	0.50
	ウソ							1									1	0.50
	イカル					○	1			1	0.25	0.14	0.01	0.4	1.5			
	ホオジロ			5	2	5	1	4	1	13	3.25	1.86	0.16	4.7	20.0	A	5	2.50
	カシラダカ							54	18								72	36.00
45	アオジ			2						2	0.50	0.29	0.03	0.7	3.1			
	ガビチョウ			○	○	○	1	2	6	1	0.25	0.14	0.01	0.4	1.5	B	8	4.00
50																		
計	範 囲 内	個体数	65	60	84	65	121	63	274	68.50	39.14	3.43				184	92.00	
		種 数	18	16	22	15	15	12	32							18		
		全 種 数	24	22	26	17	15	13	37							19		

調 査 地 の 概 況

市町村名	孺恋村	地形図名	孺恋田代a	調 査 者	飯塚 浩
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20ha			調査地の標高	1110 ~ 1170 m

調査地の環境 (調査コースの植生、地形など)		調査コース
○ 広葉樹林 (自然林・雑木林)	田代湖と周辺の農耕地を通るコース。樹木はカラマツが多い。冬季は田代湖が凍結するが、コース沿いに小さな沢が3本あり、冬季でも涸れない。農耕地の周りのあぜ道には鳥がいる。越冬期の調査が12月下旬であったため、田代湖はほぼ凍結しており、小数のマガモとオオバン、アオサギがいる程度であった。 今回の調査では、雛に餌を運んでいると思われるコムドリが観察された。周辺で繁殖したものと考えられる。また、繁殖期3回目の調査時に複数のジョウビタキが記録された。	← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
○ 針葉樹林 (自然林)		
◎ 植林地 (人工林)		
○ 草地・草原・ヨシ原		
○ 農耕地 (田・畑・果樹園)		
— 里山・疎らな民家		
— 市街地・工業団地		
○ 河川湖沼・河川敷		
<備考> 調査コースは前回と同じ。繁殖期の調査時にはシカとカモシカ、越冬期の調査時にはキツネとリスを確認した。		

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

孺恋田代a

調査者

飯塚 浩

調 査 年 月 日			R6. 6. 1	R6. 6. 1	R6. 7. 6	R6. 7. 6	R6. 12. 28	R6. 12. 28	繁殖期								越冬期	
調 査 時 間			5 : 20 ＼ 8 : 00 (160分)	8 : 20 ＼ 10 : 40 (140分)	5 : 45 ＼ 8 : 10 (145分)	8 : 25 ＼ 10 : 30 (125分)	7 : 00 ＼ 9 : 00 (120分)	9 : 15 ＼ 11 : 05 (110分)	合 計	平 均 (143分)	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計 Σ⑤～⑥	平 均 (115分) ⑧／2	
天 候			晴	晴	曇	曇	晴	晴			1h当り	1ha当り						
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	Σ①～④	⑦／4								
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧		
5	キジ		5	5	1	2		1	13	3.25	1.37	0.16	2.7	37.1	B	1	0.50	
	マガモ						○	○								○		
	キジバト		4		5	5			14	3.50	1.47	0.18	2.9	40.0				
	アオバト		○		2				2	0.50	0.21	0.03	0.4	5.7				
	カワウ		○			○			○									
10	アオサギ		2	○	4	○	○	2	6	1.50	0.63	0.08	1.2	17.1		2	1.00	
	ダイサギ			○					○									
	オオバン						○	○								○		
	ホトトギス		2	○	○	1			3	0.75	0.32	0.04	0.6	8.6	B			
	カッコウ		4	2	3	1			10	2.50	1.05	0.13	2.0	28.6	B			
15	アマツバメ		○						○									
	トビ		1	1	1	1			4	1.00	0.42	0.05	0.8	11.4				
	ノスリ			○		○			○									
	コゲラ		2			1	6	6	3	0.75	0.32	0.04	0.6	8.6		12	6.00	
	アカゲラ		5	1	3		1		9	2.25	0.95	0.11	1.8	25.7		1	0.50	
20	アオゲラ						1									1	0.50	
	サンショウクイ		2	2	6	5			15	3.75	1.58	0.19	3.1	42.9	B			
	モズ		7	1	6	1			15	3.75	1.58	0.19	3.1	42.9	B			
	カケス						16	1								17	8.50	
	ハシボソガラス				1	4			5	1.25	0.53	0.06	1.0	14.3				
25	ハシブトガラス		5	5			3		10	2.50	1.05	0.13	2.0	28.6		3	1.50	
	コガラ				4	8	8	7	12	3.00	1.26	0.15	2.4	34.3		15	7.50	
	ヤマガラ				2	2	8	4	4	1.00	0.42	0.05	0.8	11.4		12	6.00	
	ヒガラ		6	7			11	3	13	3.25	1.37	0.16	2.7	37.1		14	7.00	
	シジュウカラ		7	7	6	7	9	2	27	6.75	2.84	0.34	5.5	77.1	B	11	5.50	
30	ツバメ		○	5	2	8			15	3.75	1.58	0.19	3.1	42.9	B			
	イワツバメ			1	5				6	1.50	0.63	0.08	1.2	17.1				
	ヒヨドリ		7	6	11	11	5	6	35	8.75	3.68	0.44	7.1	100.0		11	5.50	
	ウグイス		10	9	8	7			34	8.50	3.58	0.43	6.9	97.1	B			
	ヤブサメ				2				2	0.50	0.21	0.03	0.4	5.7				
35	エナガ		1	4	15	6	32	21	26	6.50	2.74	0.33	5.3	74.3		53	26.50	
	センダイムシクイ		5	5	1				11	2.75	1.16	0.14	2.2	31.4	B			
	メジロ		2	11	8	12			33	8.25	3.47	0.41	6.7	94.3				
	オオヨシキリ		5	1	2	2			10	2.50	1.05	0.13	2.0	28.6	B			
	ゴジュウカラ					1	1	3	1	0.25	0.11	0.01	0.2	2.9		4	2.00	
40	コムクドリ		8		13				21	5.25	2.21	0.26	4.3	60.0	A			
	クロツグミ		1	○	8	2			11	2.75	1.16	0.14	2.2	31.4	B			
	アカハラ		1	2					3	0.75	0.32	0.04	0.6	8.6				
	ツグミ						3	14								17	8.50	
	ジョウビタキ				3			1	3	0.75	0.32	0.04	0.6	8.6		1	0.50	
45	コサメビタキ		3	1	5				9	2.25	0.95	0.11	1.8	25.7				
	キビタキ		5	6	3	7			21	5.25	2.21	0.26	4.3	60.0	B			
	スズメ				1	2			3	0.75	0.32	0.04	0.6	8.6				
	キセキレイ			2		1			3	0.75	0.32	0.04	0.6	8.6				
	カワラヒワ		8	6	2	2			18	4.50	1.89	0.23	3.7	51.4				
50	マヒワ						7									7	3.50	
	ベニマシコ						6	10								16	8.00	
	シメ		1		2	1	2		4	1.00	0.42	0.05	0.8	11.4		2	1.00	
	イカル		1			2		5	3	0.75	0.32	0.04	0.6	8.6		5	2.50	
	ホオジロ		9	9	13	4	10	20	35	8.75	3.68	0.44	7.1	100.0	B	30	15.00	
55	カシラダカ						1									1	0.50	
	アオジ		4	5	3	6			18	4.50	1.89	0.23	3.7	51.4	B			
	ガビチョウ			○					○									
計	範 囲 内	個体数	123	104	151	112	130	106	490	122.50	51.58	6.13				236	118.00	
		種 数	29	24	32	28	18	16	40							22		
		全 種 数	33	30	33	31	21	18	45							24		

調 査 地 の 概 況

市町村名	嬭恋村	地形図名	嬭恋田代b	調 査 者	山田 典彦
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20 ha			調査地の標高	1345 ～ 1580 m

調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
☒ 広葉樹林（自然林・雑木林） ☐ 針葉樹林（自然林） ☐ 植林地（人工林） ☐ 草地・草原・ヨシ原 ☐ 農耕地（田・畑・果樹園） ☐ 里山・疎らな民家 ☐ 市街地・工業団地 ☐ 河川湖沼・河川敷	コースの北端周辺はキャベツ畑が広がるが、その他はシラカバ、ハンノキ、ミズナラの林となる。標高1500m付近からはカラマツ林が見られる。林床はササで被われている。一部で大沢川が近くを流れる。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。	

<備考>
調査コースは前回と同じ。

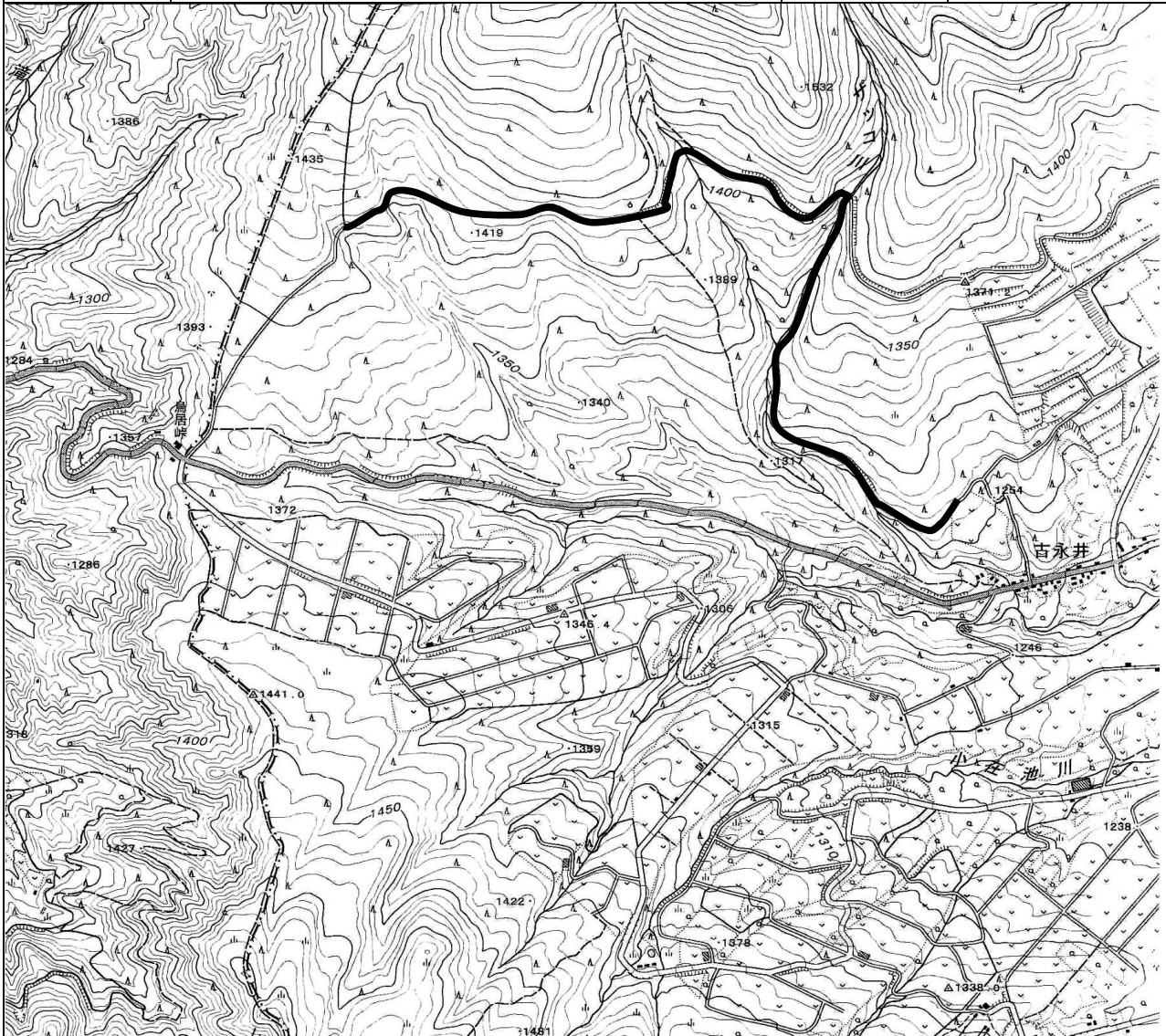
生 息 調 査 集 計 表

地形図名	孺恋田代b	調査者	山田 典彦
------	-------	-----	-------

調 査 年 月 日			R6. 5. 21	R6. 5. 21	R6. 6. 6	R6. 6. 6	R6. 12. 10	R6. 12. 10	繁殖期								越冬期	
調 査 時 間			5 : 00 ＼	7 : 30 ＼	4 : 50 ＼	7 : 10 ＼	8 : 00 ＼	10 : 10 ＼	合 計	平 均 (128分)	密 度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁殖可能性 ラン ク	合 計	平 均 (115分)	
			7 : 20 (140分)	9 : 30 (120分)	7 : 00 (130分)	9 : 10 (120分)	10 : 00 (120分)	12 : 00 (110分)										Σ①～④
天 候			晴	晴	晴	晴	晴	晴					(%)	(%)				
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数										
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧		
5	キジ			○	2	○			2	0.50	0.24	0.03	1.0	2.5	B			
	キジバト			3		4	1		8	2.00	0.94	0.10	3.9	10.0	B			
	アオバト			○					○									
	ホトトギス			1	○	○	○		1	0.25	0.12	0.01	0.5	1.3	B			
	ツツドリ			○	○	○			○						B			
10	カッコウ			○	○	○	○		○						B			
	トビ						1		1	0.25	0.12	0.01	0.5	1.3				
	ノスリ					1	1	○	2	0.50	0.24	0.03	1.0	2.5		○		
	コゲラ			1				2	1	1	0.25	0.12	0.01	0.5	1.3	3	1.50	
	アカゲラ						1	2	1	1	0.25	0.12	0.01	0.5	1.3	3	1.50	
	モズ			1	1	2			4	1.00	0.47	0.05	1.9	5.0				
	カケス					2		5	2	0.50	0.24	0.03	1.0	2.5		5	2.50	
	ハシブトガラス				1			○	1	0.25	0.12	0.01	0.5	1.3		○		
	コガラ			1				3	1	0.25	0.12	0.01	0.5	1.3		3	1.50	
	ヒガラ			3	2		4		9	2.25	1.06	0.11	4.4	11.3	B			
20	シジュウカラ			3		2	1	2	6	1.50	0.71	0.08	2.9	7.5	B	2	1.00	
	ヒヨドリ			3	1				4	1.00	0.47	0.05	1.9	5.0				
	ウグイス			21	22	19	18		80	20.00	9.41	1.00	38.8	100.0	B			
	エナガ			2					5	2	0.50	0.24	0.03	1.0	2.5	5	2.50	
	センダイムシクイ			2		3			5	1.25	0.59	0.06	2.4	6.3	B			
	ゴジュウカラ					1			○	1	0.25	0.12	0.01	0.5	1.3	○		
	ミソサザイ			2			1		3	0.75	0.35	0.04	1.5	3.8	B			
	アカハラ			4		2	○		6	1.50	0.71	0.08	2.9	7.5	B			
	ツグミ							7	5							12	6.00	
	コルリ			9	4	5	5		23	5.75	2.71	0.29	11.2	28.8	B			
30	ノビタキ				1				1	0.25	0.12	0.01	0.5	1.3				
	コサメビタキ				1				1	0.25	0.12	0.01	0.5	1.3				
	キビタキ			3	3	2	3		11	2.75	1.29	0.14	5.3	13.8	B			
	オオルリ					1	1		2	0.50	0.24	0.03	1.0	2.5				
	ビンズイ			2	2	2	1		7	1.75	0.82	0.09	3.4	8.8	B			
	アトリ							10								10	5.00	
	カワラヒワ					5			5	1.25	0.59	0.06	2.4	6.3				
	イカル			2		2			4	1.00	0.47	0.05	1.9	5.0	B			
	ホオジロ			4	1	○		4	2	5	1.25	0.59	0.06	2.4	6.3	B	6	3.00
	カシラダカ							2	2							4	2.00	
40	クロジ			1	1	1	4		7	1.75	0.82	0.09	3.4	8.8	B			
45																		
50																		
計	範囲内	個体数	68	42	54	42	37	16	206	51.50	24.24	2.58				53	26.50	
		種 数	19	13	16	13	9	6	30							10		
		全 種 数	23	16	21	16	11	7	33							13		

調 査 地 の 概 況

市町村名	孺恋村	地形図名	孺恋田代c	調 査 者	飯塚 博文
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20 ha			調査地の標高	1260 ~ 1430 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○ 広葉樹林（自然林・雑木林）

○ 針葉樹林（自然林）

◎ 植林地（人工林）

— 草地・草原・ヨシ原

○ 農耕地（田・畑・果樹園）

— 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

○ 河川湖沼・河川敷

調査コースは、大久保林道を起点として、仁田沢林道經由鳥居峠林道迄のコースで、始点、終点双方にゲートがある。大半が手入れの行き届いたカラマツの植林地である。下草は背丈の高いササ藪で覆われる。始点付近はミズナラやサワグルミなどの落葉広葉樹の大木が目立ち、広い畑地もある。コース半ばまではザッコ川の流れがあり、コース後半も小さな流れや湿地もあり水場も多い。繁殖期は食餌植物や昆虫も多く、鳥類の生息環境として良好である。一方、冬期はササ藪や下草が深い雪に覆われ、鳥類の餌が極端に少なくなる。前回の調査時に行われていた、大規模の間伐が終了し、明るく開けた林となっている。前回伐採時に少なくなったササ藪も復活し、ウグイスやコルリなどが増え、記録鳥種にも変化が見られた。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じ。繁殖期2日目はハルゼミが一斉に鳴きだし、小型の鳥種の囀りがほとんど聞こえなかった。コース全域に広がる下草のササ藪の背丈が高く、鳥の姿を確認しづらい。冬期、コース中程からの仁田沢林道は全面1~2cmの積雪があった。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

孺恋田代c

調査者

飯塚 博文

調 査 年 月 日	R6. 5. 24	R6. 5. 24	R6. 6. 12	R6. 6. 12	R6. 12. 1	R6. 12. 1	繁殖期							越冬期	
	7:20 5 9:20 (120分)	9:40 5 11:40 (120分)	7:30 5 9:20 (110分)	9:30 5 11:30 (120分)	8:00 5 9:50 (110分)	10:10 5 12:00 (110分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候	晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①~④	⑦/4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧/2
種 類 / 結 果	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
キジ	○		○				○								
キジバト		○	2	○			2	0.50	0.26	0.03	0.9	2.1	B		
ホトトギス	2	○	○	○			2	0.50	0.26	0.03	0.9	2.1	B		
ツツドリ	○		○				○								
5 カッコウ	○	○	2	○			2	0.50	0.26	0.03	0.9	2.1	B		
コゲラ		1				3	1	0.25	0.13	0.01	0.4	1.1		3	1.50
アカゲラ		1					1	0.25	0.13	0.01	0.4	1.1			
アオゲラ	1	2					3	0.75	0.38	0.04	1.3	3.2			
モズ		3	2	1			6	1.50	0.77	0.08	2.6	6.4	B		
10 カケス		1					1	0.25	0.13	0.01	0.4	1.1			
ハシボソガラス				1			1	0.25	0.13	0.01	0.4	1.1			
ハシブトガラス	○				○	○	○							○	
コガラ	2	1		2	1	23	5	1.25	0.64	0.06	2.2	5.3	B	24	12.00
ヤマガラ	1						1	0.25	0.13	0.01	0.4	1.1			
15 ヒガラ	4	8	1	2		8	15	3.75	1.91	0.19	6.6	16.0	B	8	4.00
シジュウカラ	5	3	3	3	2	3	14	3.50	1.79	0.18	6.1	14.9	B	5	2.50
ヒヨドリ		2	1				3	0.75	0.38	0.04	1.3	3.2			
ウグイス	33	32	17	12			94	23.50	12.00	1.18	41.0	100.0	B		
ヤブサメ			1				1	0.25	0.13	0.01	0.4	1.1			
20 エナガ		2				25	2	0.50	0.26	0.03	0.9	2.1		25	12.50
センダイムシクイ	1						1	0.25	0.13	0.01	0.4	1.1			
メジロ	1	1	6	1			9	2.25	1.15	0.11	3.9	9.6	B		
ゴジュウカラ	2						2	0.50	0.26	0.03	0.9	2.1			
クロツグミ	4	1	1				6	1.50	0.77	0.08	2.6	6.4	B		
25 アカハラ	2	3	2	1			8	2.00	1.02	0.10	3.5	8.5	B		
ツグミ					4									4	2.00
コルリ	7	4	1	1			13	3.25	1.66	0.16	5.7	13.8	B		
ジョウビタキ						1								1	0.50
コサメビタキ	1	2	2	1			6	1.50	0.77	0.08	2.6	6.4	B		
30 キビタキ		2					2	0.50	0.26	0.03	0.9	2.1			
オオルリ	1		1				2	0.50	0.26	0.03	0.9	2.1	B		
キセキレイ	1						1	0.25	0.13	0.01	0.4	1.1			
ビンズイ	1						1	0.25	0.13	0.01	0.4	1.1			
カワラヒワ						2								2	1.00
35 ホオジロ	7	3	1				11	2.75	1.40	0.14	4.8	11.7	B		
アオジ	3	1	2	1			7	1.75	0.89	0.09	3.1	7.4	B		
クロジ	2	3		1			6	1.50	0.77	0.08	2.6	6.4	B		
40															
45															
50															
計	範囲内	個体数	81	76	45	27	7	65	229	57.25	29.23	2.86		72	36.00
		種 数	20	20	16	12	3	7	31					8	
		全 種 数	24	23	19	15	4	8	34					9	

調 査 地 の 概 況

市町村名	嬭恋村	地形図名	嬭恋田代d	調 査 者	清水 英明
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20 ha			調査地の標高	1410 ~ 1730 m

調査地の環境 (調査コースの植生、地形など)		調査コース
○ 広葉樹林 (自然林・雑木林)	調査コースは湯尻川最上流部の沢に沿った県道で全線舗装されている。周囲の植生は主にカマツ林で、ミズナラやシラカバ、ダケカンバ、サワグルミなどの広葉樹が混在する。林床には灌木やササが生えている場所が多い。地蔵峠と鹿沢温泉には人家があり、牧草地もある。 繁殖期に、複数のジョウビタキが記録された。	← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
— 針葉樹林 (自然林)		
◎ 植林地 (人工林)		
○ 草地・草原・ヨシ原		
— 農耕地 (田・畑・果樹園)		
○ 里山・疎らな民家		
— 市街地・工業団地		
○ 河川湖沼・河川敷		
<備考> 調査コースは前回と同じ。		

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

孺恋田代d

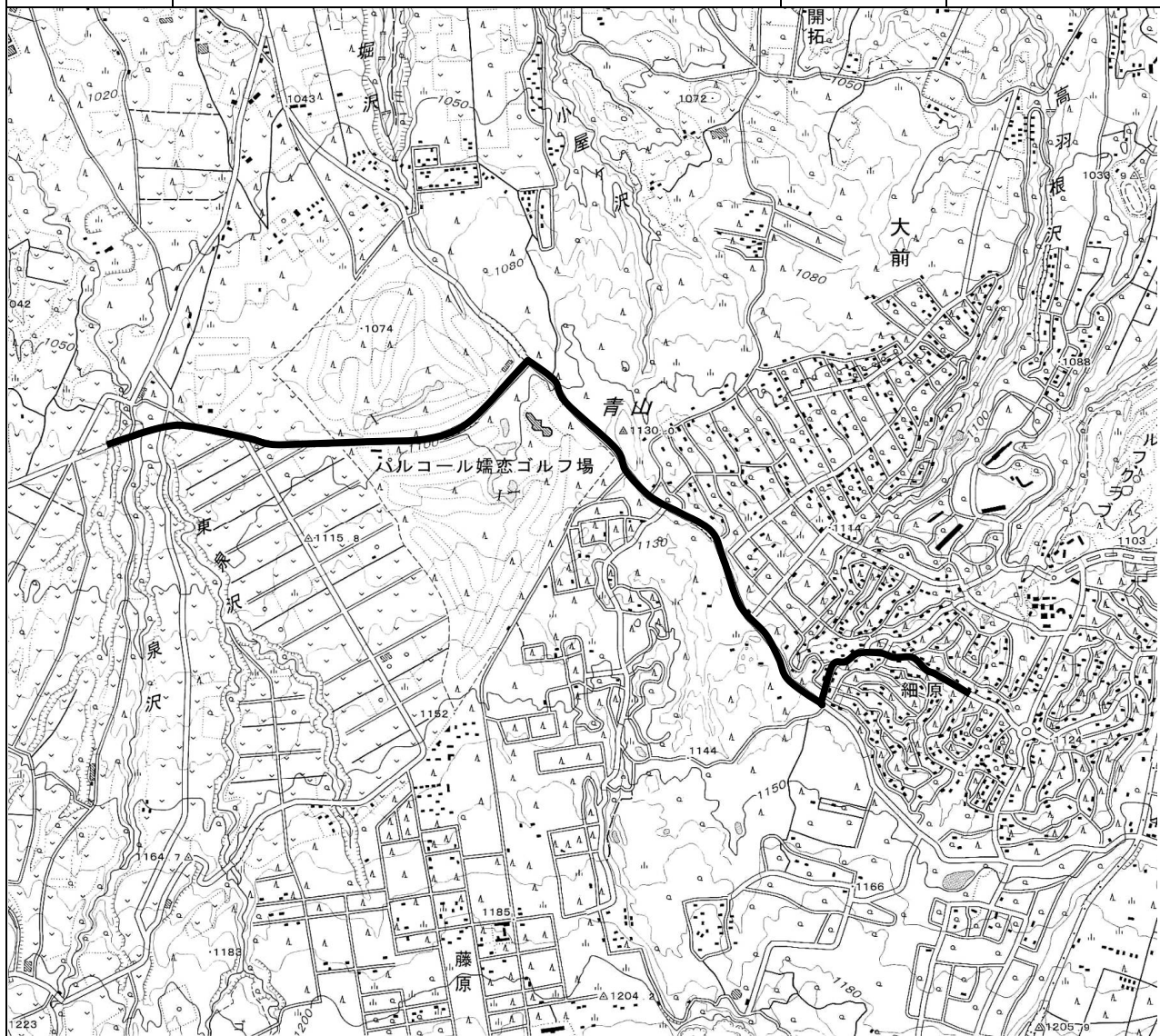
調査者

清水 英明

調 査 年 月 日			R6. 6. 9	R6. 6. 9	R6. 7. 10	R6. 7. 10	R6. 11. 1	R6. 11. 1	繁殖期							越冬期		
調 査 時 間			5 : 55 ＼ 7 : 55 (120分)	8 : 25 ＼ 10 : 25 (120分)	5 : 35 ＼ 7 : 35 (120分)	7 : 40 ＼ 9 : 50 (130分)	6 : 30 ＼ 8 : 30 (120分)	9 : 00 ＼ 11 : 00 (120分)	合 計	平 均 (123分)	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (120分)	
天 候			曇	曇	曇	曇	晴	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2	
種 類 ／ 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数			①～④	⑦				⑧	⑨	
5				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦								
	キジ			1	○	1	○			2	0.50	0.24	0.03	0.9	5.1	B		
	キジバト					1				1	0.25	0.12	0.01	0.5	2.6			
	ホトトギス				3	1				4	1.00	0.49	0.05	1.8	10.3	B		
	カッコウ			1	1	2	1			5	1.25	0.61	0.06	2.3	12.8	B		
	コゲラ					2	1	2	4	3	0.75	0.37	0.04	1.4	7.7		6	3.00
	アカゲラ			1	1					2	0.50	0.24	0.03	0.9	5.1			
	モズ			1	1	2	1			5	1.25	0.61	0.06	2.3	12.8			
	カケス			1		1		1	1	2	0.50	0.24	0.03	0.9	5.1		2	1.00
	ハシブトガラス			2	1	3	1	1	4	7	1.75	0.86	0.09	3.2	17.9		5	2.50
10	キクイタダキ								2								2	1.00
	コガラ			1	2	2		2		5	1.25	0.61	0.06	2.3	12.8	B	2	1.00
	ヤマガラ				1					1	0.25	0.12	0.01	0.5	2.6			
	ヒガラ			3	4					7	1.75	0.86	0.09	3.2	17.9			
	シジュウカラ			2	3					5	1.25	0.61	0.06	2.3	12.8			
	ヒヨドリ			1	1	2	2			6	1.50	0.73	0.08	2.7	15.4			
	ウグイス			10	11	8	10		1	39	9.75	4.78	0.49	17.7	100.0	B	1	0.50
	ヤブサメ			1		1				2	0.50	0.24	0.03	0.9	5.1	B		
	エナガ						2		3	2	0.50	0.24	0.03	0.9	5.1		3	1.50
	メボソムシクイ			2	1					3	0.75	0.37	0.04	1.4	7.7			
20	センダイムシクイ			2	5	1	1			9	2.25	1.10	0.11	4.1	23.1	B		
	ミソサザイ			4	9	4	5			22	5.50	2.69	0.28	10.0	56.4	B		
	カワガラス			1	1	1	1	1	2	4	1.00	0.49	0.05	1.8	10.3		3	1.50
	アカハラ			1	2					3	0.75	0.37	0.04	1.4	7.7			
	ツグミ							8	53							61	30.50	
	コルリ			1						1	0.25	0.12	0.01	0.5	2.6			
	ジョウビタキ				4		2	1		6	1.50	0.73	0.08	2.7	15.4	B	1	0.50
	キビタキ			2	2		2			6	1.50	0.73	0.08	2.7	15.4	B		
	オオルリ			5	5	3	3			16	4.00	1.96	0.20	7.3	41.0	B		
	キセキレイ			4	7	8	3			22	5.50	2.69	0.28	10.0	56.4	B		
30	アトリ							13	8								21	10.50
	マヒワ							26	12								38	19.00
	ベニマシコ							1									1	0.50
	シメ								1								1	0.50
	イカル			1				2		1	0.25	0.12	0.01	0.5	2.6		2	1.00
	ホオジロ			8	7	6	8	10	8	29	7.25	3.55	0.36	13.2	74.4	B	18	9.00
	アオジ								1								1	0.50
40																		
45																		
50																		
計	範 囲 内	個 体 数	56	72	49	43	68	100	220	55.00	26.94	2.75				168	84.00	
		種 数	23	21	18	15	12	13	29							17		
		全 種 数	23	22	18	16	12	13	29							17		

調 査 地 の 概 況

市町村名	孺恋村	地形図名	北軽井沢c	調 査 者	卯木 達朗
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20 ha			調査地の標高	1095 ～ 1135 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	コースの東半分は別荘地として開発されているが、林が残されている。中ほどのゴルフ場でも、コースの仕切りとして樹木が残されている。樹種はアカマツ、モミ、カラマツ等の針葉樹が主だが、ミズナラ、クヌギ、トチ等の広葉樹も多く混在している。西端周辺はキャベツ畑である。小さな沢水もあり、林縁や林床に食餌植物も多い。 巣で抱卵中のキジバトと、雛の声がする巣が観察されたオオルリとスズメが記録された。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
○	針葉樹林（自然林）	
—	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
—	河川湖沼・河川敷	

<備考>

調査コースは前回と同じ。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

北軽井沢c

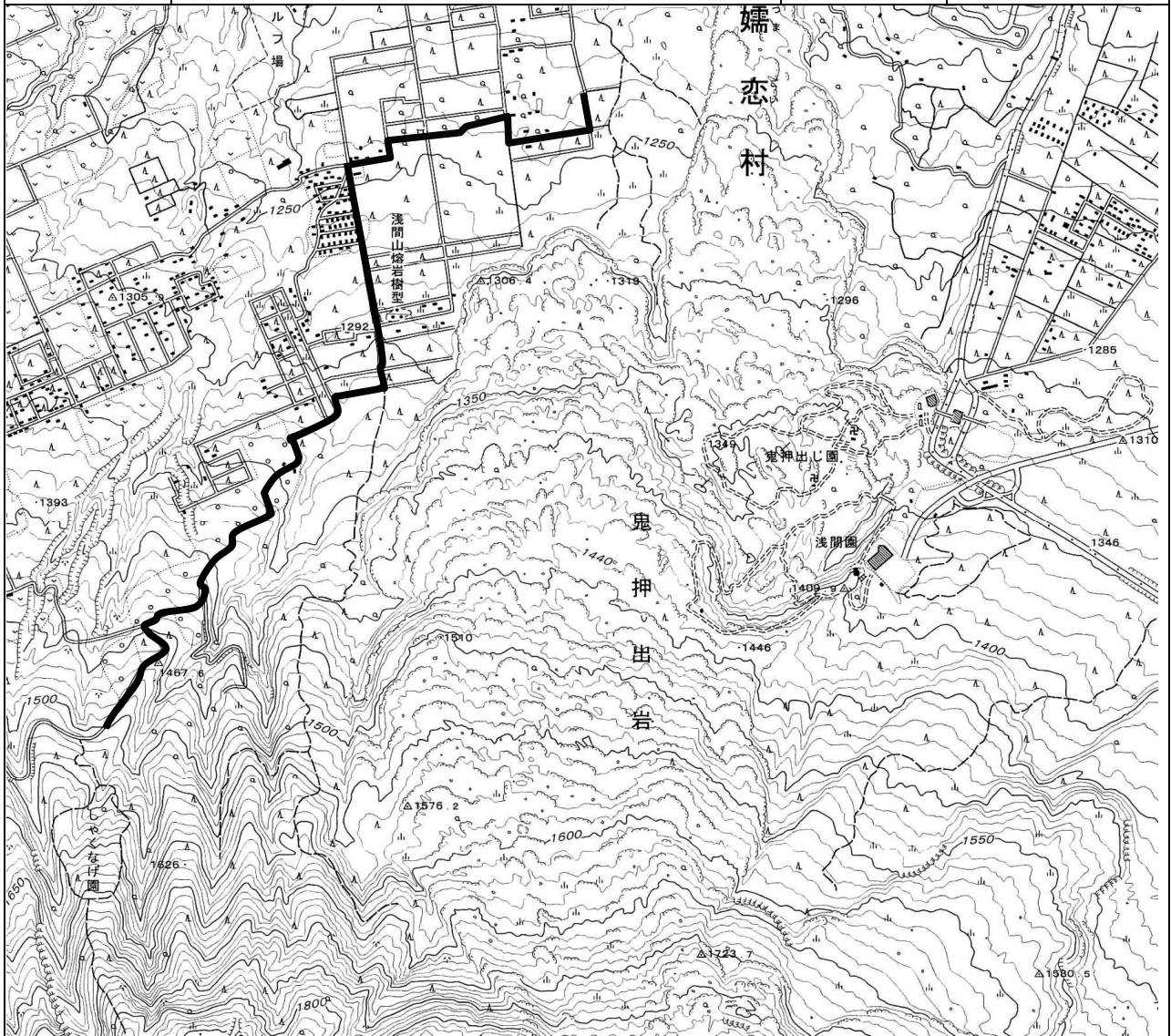
調査者

卯木 達朗

調 査 年 月 日			R6. 5. 30	R6. 5. 30	R6. 6. 22	R6. 6. 22	R6. 12. 12	R6. 12. 12	繁殖期								越冬期	
調 査 時 間			4 : 00 ＼ 6 : 00 (120分)	6 : 30 ＼ 8 : 30 (120分)	4 : 00 ＼ 6 : 05 (125分)	6 : 30 ＼ 8 : 40 (130分)	7 : 00 ＼ 9 : 10 (130分)	9 : 30 ＼ 11 : 35 (125分)	合 計	平 均 (124分)	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計 Σ⑤～⑥	平 均 (128分) ⑧／2	
天 候			晴	晴	晴	晴	晴	晴			1h当り	1ha当り						Σ①～④
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数										
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦									
5	ヤマドリ				1	○			1	0.25	0.12	0.01	0.4	2.4				
	キジ		3	○	2	○		1	5	1.25	0.61	0.06	2.0	12.2	B	1	0.50	
	キジバト		9	4	12	4	6	3	29	7.25	3.52	0.36	11.4	70.7	A	9	4.50	
	アオサギ							1								1	0.50	
	ジュウイチ				○	○			○									
10	ホトトギス		○	○	○	○			○						B			
	ツツドリ		○	○	○				○						B			
	カッコウ		○	○	○	○			○						B			
	トビ		○	○				○	○							○		
	ノスリ					○	○		○							○		
15	フクロウ		○						○									
	コゲラ		1				1		1	0.25	0.12	0.01	0.4	2.4		1	0.50	
	アカゲラ		2	1	2			1	5	1.25	0.61	0.06	2.0	12.2	B	1	0.50	
	アオゲラ					○			○									
	モズ			1	2	1	1	1	4	1.00	0.48	0.05	1.6	9.8		2	1.00	
20	カケス						3	3								6	3.00	
	ハシボソガラス					○			○									
	ハシブトガラス		○		○	○	○	○	○							○		
	コガラ					1	2		1	0.25	0.12	0.01	0.4	2.4		2	1.00	
	ヒガラ		4	2	3	2		3	11	2.75	1.33	0.14	4.3	26.8		3	1.50	
25	シジュウカラ		12	7	9	12	3	6	40	10.00	4.85	0.50	15.7	97.6	B	9	4.50	
	ヒヨドリ		3	2	3	4	2	2	12	3.00	1.45	0.15	4.7	29.3		4	2.00	
	ウグイス		4	3	4		1	1	11	2.75	1.33	0.14	4.3	26.8	B	2	1.00	
	ヤブサメ					1			1	0.25	0.12	0.01	0.4	2.4				
	センダイムシクイ		2	1	1				4	1.00	0.48	0.05	1.6	9.8	B			
30	ゴジュウカラ					○			○									
	ミソサザイ		2	1	2	2	1	1	7	1.75	0.85	0.09	2.8	17.1	B	2	1.00	
	クロツグミ		1	1	2				4	1.00	0.48	0.05	1.6	9.8	B			
	アカハラ			○					○									
	ツグミ						2	4								6	3.00	
35	コルリ		6	6	7				19	4.75	2.30	0.24	7.5	46.3	B			
	ルリビタキ						1	1								2	1.00	
	ジョウビタキ						1									1	0.50	
	キビタキ		8	7	8	6			29	7.25	3.52	0.36	11.4	70.7	B			
	オオルリ			1		2			3	0.75	0.36	0.04	1.2	7.3	A			
40	イワヒバリ							3								3	1.50	
	カヤクグリ							1								1	0.50	
	スズメ		12	7	11	11			41	10.25	4.97	0.51	16.1	100.0	A			
	ビンズイ			1					1	0.25	0.12	0.01	0.4	2.4				
	マヒワ							14								14	7.00	
45	ベニマシコ						2	2								4	2.00	
	イカル		1		2				3	0.75	0.36	0.04	1.2	7.3				
	ホオジロ		2	3	2	3	3	2	10	2.50	1.21	0.13	3.9	24.4		5	2.50	
	カシラダカ							3								3	1.50	
	アオジ		2	2	6	2			12	3.00	1.45	0.15	4.7	29.3				
50	コジュケイ							○								○		
計	範囲内	個体数	74	50	79	51	29	53	254	63.50	30.79	3.18				82	41.00	
		種 数	17	17	18	13	14	19	23							22		
		全 種 数	23	23	23	23	16	22	35							26		

調 査 地 の 概 況

市町村名	嬬恋村	地形図名	北軽井沢d	調 査 者	善如寺 功
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20ha			調査地の標高	1230 ~ 1500 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○ 広葉樹林（自然林・雑木林）

○ 針葉樹林（自然林）

◎ 植林地（人工林）

— 草地・草原・ヨシ原

— 農耕地（田・畑・果樹園）

○ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

— 河川湖沼・河川敷

浅間山北斜面の鬼押出溶岩原の裾野に位置する別荘地と、その周辺のカラマツやアカマツなどの植林地を通る調査コースである。ツグミなどに好まれる実をつけるズミなどの灌木も多く、小さい水場が1カ所ある。

今回の調査では、繁殖を確認できた種はなかったが、巢立ち雛とその親鳥と思われるキビタキを観察した。また、ホシガラスが標高1400m以上のコース南端付近で観察された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

別荘地内のコースの一部が廃道となり通行困難な所を迂回した。また、コース南端付近が工事で通行止めのため、シャクナゲ園に向う道路に変更した。変更した距離は600m程度である。繁殖期4回目の調査時に、別荘地内の電線に寄りかかった倒木処理でチェーンソーの音がうるさい区間があった。繁殖期の調査時にリスとシカを観察した。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

北軽井沢d

調査者

善如寺 功

調 査 年 月 日			R6. 5. 23	R6. 5. 23	R6. 6. 19	R6. 6. 19	R6. 12. 4	R6. 12. 4	繁殖期								越冬期	
調 査 時 間			6 : 45 ㄱ	8 : 50 ㄱ	6 : 40 ㄱ	9 : 00 ㄱ	8 : 15 ㄱ	10 : 10 ㄱ	合 計	平 均 (116分)	密 度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (108分)	
			8 : 35 (110分)	10 : 50 (120分)	8 : 50 (130分)	10 : 45 (105分)	10 : 05 (110分)	11 : 55 (105分)			1h当り	1ha当り						Σ⑤~⑥
天 候			曇	曇	晴	晴	晴	晴	Σ①~④	⑦ / 4								
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数										
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧		
5	キジ				○				○									
	キジバト			2		○	2		4	1.00	0.52	0.05	5.2	36.4				
	ジュウイチ			○					○									
	ホトトギス			1	1	○	○		2	0.50	0.26	0.03	2.6	18.2	B			
	ツツドリ			○	○				○									
10	カッコウ			○	○	○	○		○						B			
	コゲラ			2		1		1	1	3	0.75	0.39	0.04	3.9	27.3		2	1.00
	アカゲラ			1	1			2	1	2	0.50	0.26	0.03	2.6	18.2		3	1.50
	カケス							2									2	1.00
	ホシガラス				3				3	0.75	0.39	0.04	3.9	27.3			3	1.50
15	ハシブトガラス			1	1	1	1		1	4	1.00	0.52	0.05	5.2	36.4		1	0.50
	コガラ							2									2	1.00
	ヤマガラ			1	1			3	4	2	0.50	0.26	0.03	2.6	18.2		7	3.50
	ヒガラ			1	2	1	○		1	4	1.00	0.52	0.05	5.2	36.4	B	1	0.50
	シジュウカラ			2	3	1	○	6	2	6	1.50	0.77	0.08	7.8	54.5	B	8	4.00
20	ヒヨドリ			2	1	4	1			8	2.00	1.03	0.10	10.4	72.7			
	ウグイス			1	2	3	2			8	2.00	1.03	0.10	10.4	72.7	B		
	ヤブサメ			○						○								
	エナガ				2			8	7	2	0.50	0.26	0.03	2.6	18.2		15	7.50
	メボソムシクイ						○			○								
25	センダイムシクイ				1					1	0.25	0.13	0.01	1.3	9.1			
	メジロ			2	2	○				4	1.00	0.52	0.05	5.2	36.4	B		
	ゴジュウカラ			1		○		3		1	0.25	0.13	0.01	1.3	9.1	B	3	1.50
	ミソサザイ								1								1	0.50
	アカハラ			○						○								
30	コサメビタキ			1						1	0.25	0.13	0.01	1.3	9.1			
	キビタキ			3	2	2	4			11	2.75	1.42	0.14	14.3	100.0	B		
	オオルリ			○						○								
	キセキレイ					○	1			1	0.25	0.13	0.01	1.3	9.1			
	ビンズイ					○	2			2	0.50	0.26	0.03	2.6	18.2			
35	カワラヒワ					1				1	0.25	0.13	0.01	1.3	9.1			
	シメ			1						1	0.25	0.13	0.01	1.3	9.1			
	イカル				1					1	0.25	0.13	0.01	1.3	9.1			
	ホオジロ			1		1	3			5	1.25	0.65	0.06	6.5	45.5	B		
40																		
45																		
50																		
計	範 囲 内	個 体 数	23	23	15	16	27	21	77	19.25	9.94	0.96				48	24.00	
		種 数	16	14	9	8	8	9	23							12		
		全 種 数	22	17	16	13	8	9	31							12		

草津町鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

草津町に含まれる調査地は下表の 2 メッシュである。標高からは、両メッシュとも山地帯の中央付近に位置し、カラマツなどの植林地と林縁部の広葉樹の雑木林などが主要な環境要素となっている。

両メッシュとも前回と同じコースで実施した。ただし、上野草津 a は閉鎖された林道を通る区間で落石や崖崩れの危険性があるため、次回の調査からはコースの移動を検討する必要がある。今回の調査では、タヌキ、キツネ、ニホンジカが観察された。

調査メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
上野草津a	1045 ～ 1160	○	○	◎	—	—	○	—	○	前回と同じ
上野草津b	900 ～ 1100	○	○	◎	○	○	—	—	—	前回と同じ

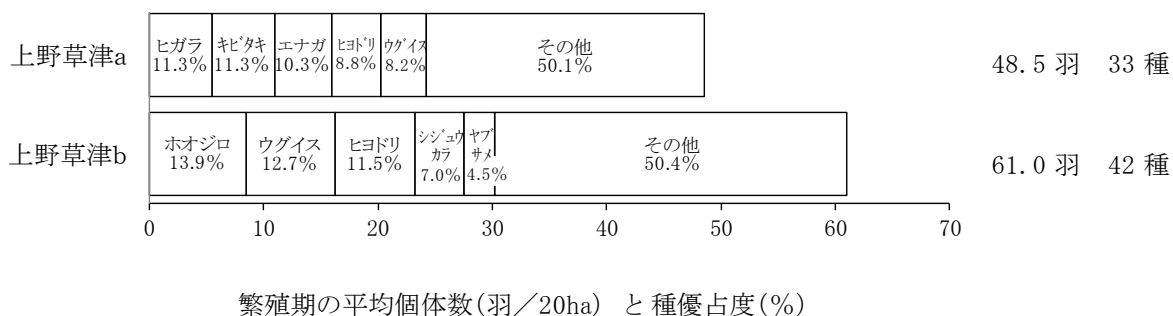
2. 調査結果と考察

今回の調査では、草津町全体で繁殖期に 49 種、越冬期に 23 種、年間では 57 種が記録された。なお、前々回（平成 26 年度実施）は繁殖期 39 種、越冬期 21 種、年間 46 種が、前回（令和元年度実施）は繁殖期 45 種、越冬期 26 種、年間 53 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図および各メッシュの調査票のとおりである。両メッシュとも植林地が主体であるため、森林性および林縁性のヒヨドリやキビタキ、ホオジロ、ウグイスなどが優占した。今回の調査地域全体と比較すると、上野草津 b の種数が多かったが、他は平均的な値であった。

群馬県の絶滅のおそれのある野生生物（以下、群馬県版 RDB 掲載種と表記）は、アオバト、ジュウイチ、ツツドリ、カッコウ、ハチクマ、ツミ、フクロウ、オオアカゲラ、サンショウクイ、アカハラ、コサメビタキの 11 種が記録された。このうち、県内では減少傾向にある托卵鳥のジュウイチ、ツツドリ、カッコウや猛禽類のハチクマ、ツミ、フクロウが記録されたことは、宿主および餌となる生物が豊富であることを示唆している。一方、特定外来生物（以下、外来種と表記）のガビチョウも記録された。標高が高いこの地域でも記録されていることは、県内における本種の分布拡大を端的に示すものである。今回の調査で繁殖に関係する行動が観察され、繁殖可能性が A ランクとなったのは、ハシブトガラスとエナガの 2 種であった。



(2) 越冬期

越冬期の優占種は下表のとおりであった。繁殖期と同様に、シジュウカラやホオジロなどが優占したほか、冬鳥として渡来するカシラダカが上位に入った。今回の調査地域全体と比較すると、上野草津 a は種数・個体数ともにやや少なかった。調査地の標高が高いため、越冬期には標高が低い地域へ移動する個体が多いことが一因と考えられる。

群馬県版 RDB 掲載種はオオアカゲラとカシラダカが記録された。繁殖期にも記録されたオオアカゲラは比較的自然度の高い林に生息するため、良好な環境の指標となる。前回は越冬期にも記録された外来種のガビチョウは、今回は越冬期には記録されなかった。ガビチョウ類は藪を好み、地上付近で採餌することが多いため、越冬期の生息は積雪の制限を受けると考えられている。

調査メッシュ	優占種(上位5種*)					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
上野草津a	エナガ	ホオジロ	シジュウカラ	ヒガラ	ウグイス	21.0	15
上野草津b	ホオジロ	カシラダカ	ヤマガラ	アトリ	エナガ	54.5	19

*同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

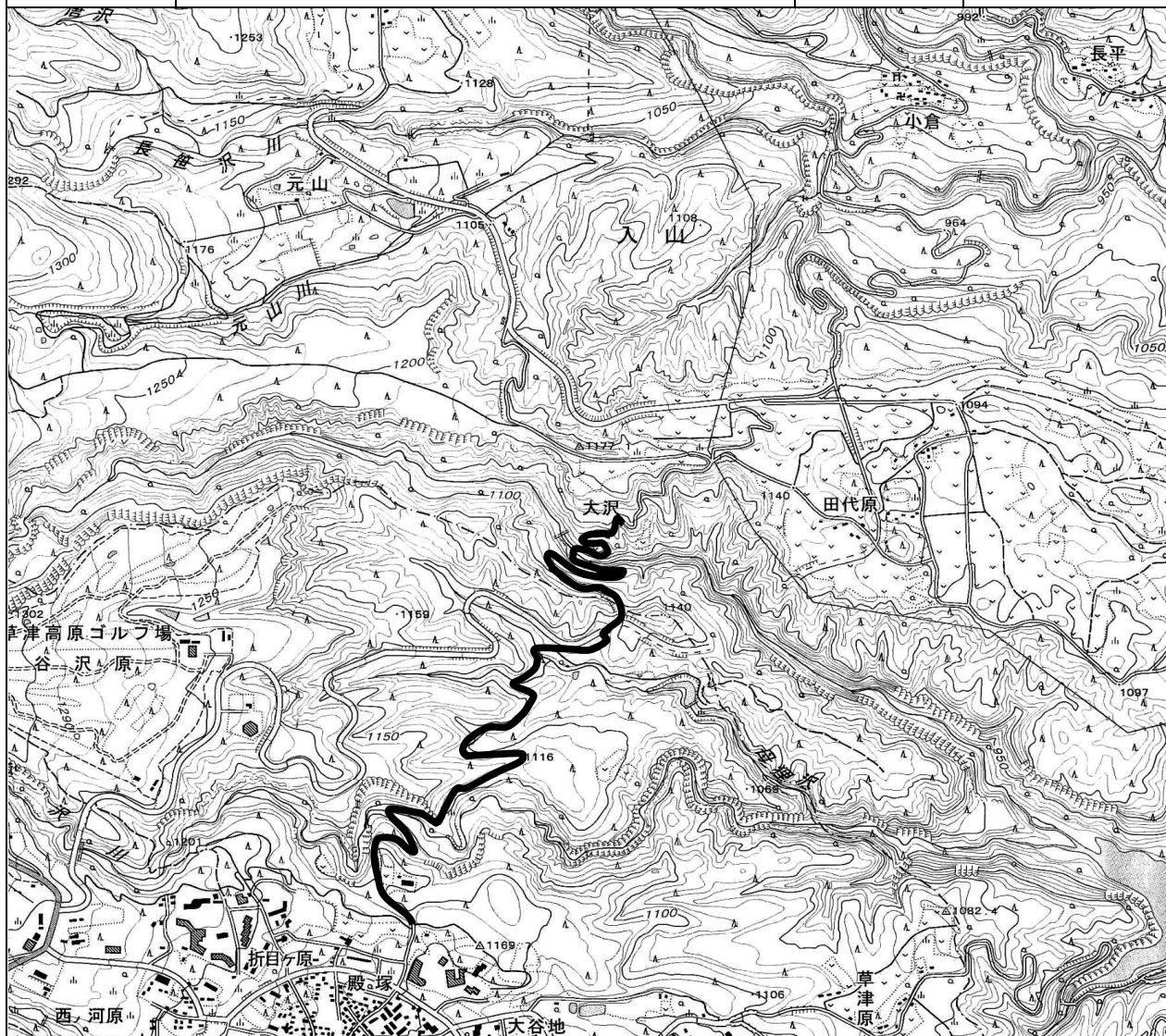
過去 3 回分の調査結果は下表のとおりである。過去 3 回の比較では、両メッシュとも、繁殖期と越冬期の種数や個体数に増減がみられるが、いずれも通常の変動の範囲内であると考えられ、草津町全体では大きな変化は認められなかった。

前回、前々回に記録が無く今回新たに記録された種は、ジュウイチ、フクロウ、トラツグミ、アカハラ、ジョウビタキ、コサメビタキ、ハクセキレイ、アトリの 8 種であった。また、冬鳥であるジョウビタキが上野草津 b で、繁殖期に複数個体が記録された。繁殖は確認されなかったものの、繁殖した可能性がある。本種は近年、国内での繁殖が記録され、繁殖分布と個体数が増加している。県内でも北部や西部で繁殖が確認されており、今後は草津町でも増加していく可能性がある。今後の動向に注目したい。一方、前回、前々回とも記録されていたのに今回記録されなかった種は、ツグミ、キセキレイ、ウソ、ノジコ、クロジの 5 種であった。このうち、ツグミは冬鳥として渡来するが、年によって個体数が大きく変化する種である。今冬はツグミの渡来数が全県的に少なかったため、草津町では記録されなかったものと考えられる。また、前回の調査で記録が途絶えたオオルリは、今回の調査では上野草津 a で記録された。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H26	R1	R6	H26	R1	R6	H26	R1	R6	H26	R1	R6
上野草津a	29	37	33	56.5	39.3	48.5	15	17	15	16.5	31.0	21.0
上野草津b	35	34	42	58.0	39.0	61.0	14	21	19	51.5	50.5	54.5

調 査 地 の 概 況

市町村名	草津町	地形図名	上野草津a	調 査 者	吉田 敏夫
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20ha			調査地の標高	1045 ~ 1160 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○ 広葉樹林（自然林・雑木林）

○ 針葉樹林（自然林）

◎ 植林地（人工林）

— 草地・草原・ヨシ原

— 農耕地（田・畑・果樹園）

○ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

○ 河川湖沼・河川敷

カラマツの植林地が多いが、広葉樹が混合する林や、広葉樹だけの雑木林、クマザサが生い茂り、野鳥の生息環境としては良好と思われる。建造物は草津温泉側の宿泊施設と、大沢地区の人家数件のみ。母狸沢の支流は、小さな湿地を形成しており、野鳥の水場として良好であるが、谷沢川・大沢川は中和用の石灰が流入していて濁っており鳥影は見られなかった。

今回の調査では、巣に出入りするエナガが観察された。繁殖していたものと考えられる。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じ。調査コースの南側半分は落石のため入山ゲートが閉鎖された林道である。冬調査の際は路面凍結箇所があった。林道の部分は落石や崖崩れの危険性があるため、次回はコース変更を検討する必要がある。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

上野草津a

調査者

吉田 敏夫

調 査 年 月 日	R6. 5. 25	R6. 5. 25	R6. 6. 30	R6. 6. 30	R6. 11. 30	R6. 11. 30	繁殖期							越冬期	
	5 : 45 〃 7 : 20 (95分)	7 : 25 〃 9 : 00 (95分)	5 : 45 〃 7 : 15 (90分)	7 : 20 〃 8 : 50 (90分)	8 : 00 〃 9 : 40 (100分)	9 : 50 〃 11 : 20 (90分)	合 計	平 均 (93分)	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (95分)
天 候	晴	晴	曇	曇	曇	晴	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤~⑥	⑧ / 2
種 類 / 結 果	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
キジ	○	1					1	0.25	0.16	0.01	0.5	4.5			
アオバト		○	1				1	0.25	0.16	0.01	0.5	4.5	B		
ジュウイチ			1				1	0.25	0.16	0.01	0.5	4.5			
ツツドリ	○						○								
5 カッコウ		○					○								
ノスリ			2	1			3	0.75	0.49	0.04	1.5	13.6			
コゲラ	1	1	2	1	1		5	1.25	0.81	0.06	2.6	22.7		1	0.50
オオアカゲラ						1								1	0.50
アカゲラ	1	1	1	1			4	1.00	0.65	0.05	2.1	18.2			
10 アオゲラ	2		3	3			8	2.00	1.30	0.10	4.1	36.4			
サンショウクイ	2	1	2	1			6	1.50	0.97	0.08	3.1	27.3			
カケス			4	3		1	7	1.75	1.14	0.09	3.6	31.8		1	0.50
ハシブトガラス	○			1		1	1	0.25	0.16	0.01	0.5	4.5		1	0.50
コガラ	2		2	2	1		6	1.50	0.97	0.08	3.1	27.3	B	1	0.50
15 ヤマガラ			2	1		2	3	0.75	0.49	0.04	1.5	13.6		2	1.00
ヒガラ	6	7	4	5	5		22	5.50	3.57	0.28	11.3	100.0	B	5	2.50
シジュウカラ	2	2	2	2	4	2	8	2.00	1.30	0.10	4.1	36.4	B	6	3.00
ヒヨドリ	3	3	7	4	3		17	4.25	2.76	0.21	8.8	77.3		3	1.50
ウグイス	4	3	6	3	2	2	16	4.00	2.59	0.20	8.2	72.7	B	4	2.00
20 ヤブサメ	4	3	3	3			13	3.25	2.11	0.16	6.7	59.1	B		
エナガ	9	3	5	3	6		20	5.00	3.24	0.25	10.3	90.9	A	6	3.00
センダイムシクイ	1			2			3	0.75	0.49	0.04	1.5	13.6			
メジロ			4	1			5	1.25	0.81	0.06	2.6	22.7			
ゴジュウカラ	1		○			1	1	0.25	0.16	0.01	0.5	4.5	B	1	0.50
25 ミソサザイ			1	1		1	2	0.50	0.32	0.03	1.0	9.1		1	0.50
アカハラ				2			2	0.50	0.32	0.03	1.0	9.1			
コサメビタキ	2						2	0.50	0.32	0.03	1.0	9.1			
キビタキ	7	4	6	5			22	5.50	3.57	0.28	11.3	100.0	B		
オオルリ		1					1	0.25	0.16	0.01	0.5	4.5			
30 カワラヒワ				1			1	0.25	0.16	0.01	0.5	4.5			
イカル			○	1			1	0.25	0.16	0.01	0.5	4.5			
ホオジロ	2		5	2	4	2	9	2.25	1.46	0.11	4.6	40.9	B	6	3.00
アオジ	1				2	1	1	0.25	0.16	0.01	0.5	4.5		3	1.50
ガビチョウ			1	1			2	0.50	0.32	0.03	1.0	9.1			
35															
40															
45															
50															
計	範囲内	個体数	50	30	64	50	28	14	194	48.50	31.46	2.43		42	21.00
		種 数	17	12	21	24	9	10	31					15	
		全 種 数	20	14	23	24	9	10	33					15	

調 査 地 の 概 況

市町村名	草津町	地形図名	上野草津b	調 査 者	深井 宣男
調査範囲	4 km (調査距離) × 50 m (幅) = 20ha			調査地の標高	900 ~ 1100 m

調査地の環境 (調査コースの植生、地形など)		調査コース
○	広葉樹林 (自然林・雑木林)	草津町と旧六合村を結ぶ林道を通るコース。コースの西側4分の1は集落と畑であり、他はカラマツなどの植林と広葉樹の雑木林となっている。コースの中間点あたりの伐採跡地は植生が回復してきている。コースの東端を除くと、調査コースは主に尾根筋を通るため水場は少ないが、沢は厳冬期の凍結時および積雪時以外は涸れないため、水場には困らない。雑木林には草本や低木も多く、道端も含めて食餌植物は少なくない。 今回の調査では、コース西端付近の高圧線鉄塔で営巢中のハシブトガラスが確認された。また、複数のジョウビタキが観察され、繁殖した可能性がある。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
○	針葉樹林 (自然林)	
◎	植林地 (人工林)	
○	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地 (田・畑・果樹園)	
—	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
—	河川湖沼・河川敷	

<備考>

調査コースは前回と同じ。越冬期の調査時は風が強く、観察された鳥が少なかった。繁殖期2日目にキツネ、タヌキ、シカを観察した。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

上野草津b

調査者

深井 宣男

調 査 年 月 日			R6. 5. 21	R6. 5. 21	R6. 6. 21	R6. 6. 21	R6. 12. 21	R6. 12. 21	繁殖期								越冬期	
調 査 時 間			4 : 15 〃 6 : 15 (120分)	6 : 20 〃 7 : 50 (90分)	4 : 00 〃 6 : 05 (125分)	6 : 10 〃 7 : 40 (90分)	8 : 30 〃 10 : 25 (115分)	10 : 30 〃 12 : 00 (90分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均	
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	Σ①～④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧ / 2	
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧		
5	ヤマドリ			1	1		1			3	0.75	0.42	0.04	1.2	8.8	B		
	キジ			1	○	○	○			1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.9	B		
	キジバト			4		3	1			8	2.00	1.13	0.10	3.3	23.5	B		
	アオバト			1	○	○	○			1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.9	B		
	ホトトギス			○	○	○				○						B		
10	ツツドリ				○		○			○						B		
	カッコウ			○	2	○	1			3	0.75	0.42	0.04	1.2	8.8	B		
	ハチクマ				1				2	1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.9		2	1.00
	トビ																	
	ツミ			○						○								
15	フクロウ			○						○								
	コゲラ			1	2	1	4	3		8	2.00	1.13	0.10	3.3	23.5	B	3	1.50
	オオアカゲラ					1		1		1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.9		1	0.50
	アカゲラ			○		○	○			○								
	アオゲラ			2	○		○			2	0.50	0.28	0.03	0.8	5.9			
20	サンショウクイ			1	○	1	1			3	0.75	0.42	0.04	1.2	8.8	B		
	モズ			1	2	2				5	1.25	0.71	0.06	2.0	14.7			
	カケス			○	1	○	2	2	2	3	0.75	0.42	0.04	1.2	8.8		4	2.00
	ホシガラス							○									○	
	ハシボソガラス						○			○								
25	ハシブトガラス			3	1	○	2	2	1	6	1.50	0.85	0.08	2.5	17.6	A	3	1.50
	コガラ			3	○	○				3	0.75	0.42	0.04	1.2	8.8	B		
	ヤマガラ						1	6	7	1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.9		13	6.50
	ヒガラ			1	○	1		1		2	0.50	0.28	0.03	0.8	5.9	B	1	0.50
	シジュウカラ			2	6	4	5	3	○	17	4.25	2.40	0.21	7.0	50.0	B	3	1.50
30	ツバメ					5	5			10	2.50	1.41	0.13	4.1	29.4			
	ヒヨドリ			6	5	8	9	3	1	28	7.00	3.95	0.35	11.5	82.4		4	2.00
	ウグイス			9	6	8	8			31	7.75	4.38	0.39	12.7	91.2	B		
	ヤブサメ			4	4	3				11	2.75	1.55	0.14	4.5	32.4	B		
	エナガ					10	○	7		10	2.50	1.41	0.13	4.1	29.4		7	3.50
35	センダイムシクイ				1	1				2	0.50	0.28	0.03	0.8	5.9	B		
	メジロ			1	2	2	2			7	1.75	0.99	0.09	2.9	20.6	B		
	ゴジュウカラ				○			1		○							1	0.50
	ムクドリ				1	1	2			4	1.00	0.56	0.05	1.6	11.8			
	トラツグミ					1				1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.9			
40	クロツグミ			2	1	1	2			6	1.50	0.85	0.08	2.5	17.6	B		
	ルリビタキ							1									1	0.50
	ジョウビタキ			1	1	2				4	1.00	0.56	0.05	1.6	11.8	B		
	キビタキ			2	1	3	2			8	2.00	1.13	0.10	3.3	23.5	B		
	カヤクグリ							3	2								5	2.50
45	スズメ			2	1	2	2	7		7	1.75	0.99	0.09	2.9	20.6		7	3.50
	ハクセキレイ					○	1			1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.9			
	アトリ							10									10	5.00
	カワラヒワ				2					2	0.50	0.28	0.03	0.8	5.9			
	ベニマシコ							2									2	1.00
50	イカル			1	○	○				1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.9	B		
	ホオジロ			10	8	9	7	21	6	34	8.50	4.80	0.43	13.9	100.0	B	27	13.50
	カシラダカ							10	5								15	7.50
	ガビチョウ			3	1	4	1			9	2.25	1.27	0.11	3.7	26.5	B		
計	範囲内	個体数	62	50	73	59	83	26	244	61.00	34.45	3.05					109	54.50
		種 数	23	21	22	20	17	8	35								18	
		全 種 数	29	31	32	27	18	9	42								19	

高山村鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

高山村に含まれる調査地は下表の 4 メッシュである。いずれも山地帯下部に属し、植林地と雑木林、農耕地を含む里山的環境を中心としたコースである。このうち上野中山 b は、3 つのゴルフ場と大規模太陽光発電施設に挟まれた地域を通るコースである。

全メッシュとも前回と同じコースで実施した。上野中山 d は植林の伐採が行われているが、皆伐地でも広葉樹による植生回復がある程度認められた。その他は前回と比較して大きな環境の変化はなかった。今回の調査では、カモシカとニホンジカが観察された。

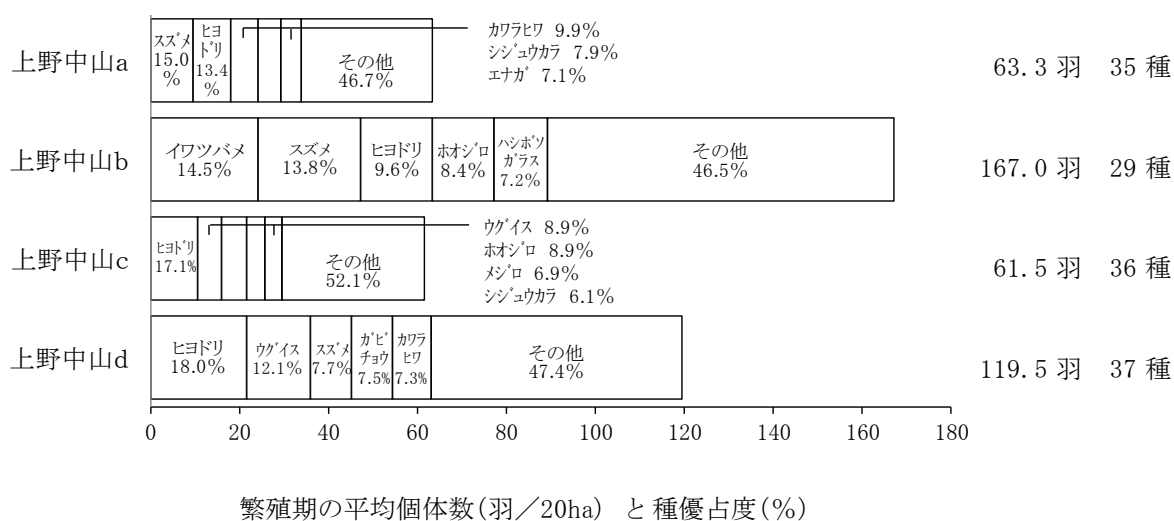
調査メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
上野中山a	570 ～ 810	○	—	◎	—	◎	○	—	○	前回と同じ
上野中山b	520 ～ 630	○	—	○	○	◎	○	—	○	前回と同じ
上野中山c	580 ～ 850	○	—	◎	○	○	◎	—	○	前回と同じ
上野中山d	460 ～ 595	○	○	◎	—	○	○	—	○	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今回の調査では、高山村全体で繁殖期に 53 種、越冬期に 41 種、年間では 66 種が記録された。なお、前々回（平成 26 年度実施）は繁殖期 52 種、越冬期 40 種、年間 63 種が、前回（令和元年度実施）は繁殖期 51 種、越冬期 46 種、年間 65 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図および各メッシュの調査票のとおりである。4 メッシュとも植林地と雑木林、農耕地、里山集落などを含む環境のため、このような地域に多い、スズメやヒヨドリが優占した。周辺の調査メッシュと比較して、上野中山 b・d の個体数がやや多かった。この傾向は前回と同様である。



群馬県の絶滅のおそれのある野生生物（以下、群馬県版 RDB 掲載種と表記）は、アオバ

ト、ツツドリ、オオタカ、サシバ、フクロウ、サンショウクイ、サンコウチョウ、コサメビタキの 8 種が記録された。一方、特定外来生物（以下、外来種と表記）のガビチョウとカオジロガビチョウが今回も記録された。今回の調査で繁殖に関係する行動が観察され、繁殖可能性が A ランクとなったのは、シジュウカラ、ツバメ、ムクドリ、スズメ、カワラヒワの 5 種であった。

(2) 越冬期

越冬期の優占種は次表のとおりであった。繁殖期と同様に、スズメやヒヨドリ、ホオジロといった人里の種が優占したほか、冬鳥として群れで渡来するカシラダカが上位に入った。今回の調査地域全体と比較すると、上野中山 a 以外では個体数がやや多かった。それほど標高が高くはなく、農耕地や里山的環境を多く有するため、鳥類の越冬環境として好適な地域であることが一因であると考えられる。

群馬県版 RDB 掲載種はクマタカ、カシラダカ、クロジが記録された。外来種はガビチョウが記録された。

調査メッシュ	優占種(上位5種*)					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
上野中山a	エナガ	シジュウカラ	ヒヨドリ	ホオジロ	ヤマガラ	68.0	22
上野中山b	カシラダカ	カワラヒワ	ヒヨドリ	ホオジロ	ハシボソガラス	191.5	19
上野中山c	カシラダカ	シジュウカラ	ヒヨドリ	カワラヒワ	スズメ	136.5	26
上野中山d	カシラダカ	スズメ	カケス	ヒヨドリ	カワラヒワ	141.0	26

*同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3) 過去の調査結果との比較

過去 3 回分の調査結果は下表のとおりである。各メッシュとも、繁殖期と越冬期、種数と個体数ともに変動があるが、特に目立った増減の傾向は認められなかった。

前回と前々回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、サシバ、ヒバリ、トラツグミ、シロハラ、コサメビタキ、アトリ、クロジの 7 種であった。一方、過去 2 回とも記録があるのに今回記録されなかった種は、ヤマドリ、カッコウ、ハイタカ、カワラバト（ドバト）の 4 種であった。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H26	R1	R6	H26	R1	R6	H26	R1	R6	H26	R1	R6
上野中山a	28	32	35	59.3	67.3	63.3	25	27	22	83.5	143.0	68.0
上野中山b	35	36	29	116.8	188.8	167.0	21	25	19	180.5	182.5	191.5
上野中山c	36	30	36	50.0	35.5	61.5	20	25	26	82.0	59.0	136.5
上野中山d	36	37	37	80.0	112.3	119.5	28	30	26	149.0	104.0	141.0

調 査 地 の 概 況

市町村名	高山村	地形図名	上野中山a	調 査 者	林 徳一
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20ha			調査地の標高	570 ~ 810 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○ 広葉樹林（自然林・雑木林）

— 針葉樹林（自然林）

◎ 植林地（人工林）

— 草地・草原・ヨシ原

◎ 農耕地（田・畑・果樹園）

○ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

○ 河川湖沼・河川敷

コースの南端周辺は水田と畑が広がる里山集落。西沢川沿いの県道36号線は交通量が多く、道路の両側はスギを中心とした針葉樹の人工林が多い。赤根トンネル手前からの赤根峠までの旧道は交通量はほとんどなく、クリ、コナラを中心とした広葉樹林に変わる。峠付近のスギ林の間伐により林床が明るくなった。カラマツ林伐採地は低木が繁茂が進んでいる。今冬も積雪が全くなかった。暖冬で集落周辺の耕作地の農作業が進み、雑穀はきれいに整理されていた。

今回の調査では、巣に出入りするスズメ、雛に餌を運んでいると思われるシジュウカラとムクドリが記録された。また、巣立ち雛と思われるカワラヒワが観察された。周辺で繁殖したものと考えられる。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じ。越冬期にカモシカを観察した。集落周辺の耕作地（田畑の畔など）を猫が徘徊していた。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

上野中山a

調査者

林 徳一

調 査 年 月 日			R6. 5. 26	R6. 5. 26	R6. 6. 15	R6. 6. 15	R6. 12. 15	R6. 12. 15	繁殖期								越冬期	
調 査 時 間			6 : 30 〃 8 : 40 (130分)	9 : 10 〃 11 : 10 (120分)	5 : 50 〃 8 : 00 (130分)	8 : 30 〃 10 : 40 (130分)	7 : 00 〃 9 : 10 (130分)	9 : 30 〃 11 : 30 (120分)	合 計	平 均 (128分)	密 度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (125分)	
天 候			曇	曇	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／ 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2	
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧		
5	キジ					1	1			2	0.50	0.24	0.03	0.8	5.3			
	カルガモ			2	○			○		2	0.50	0.24	0.03	0.8	5.3	○		
	キジバト			2	4	○	1	4	2	7	1.75	0.82	0.09	2.8	18.4	6	3.00	
	アオバト			○		○	○			○						B		
	アオサギ					1				1	0.25	0.12	0.01	0.4	2.6			
10	ホトトギス			○	○	1				1	0.25	0.12	0.01	0.4	2.6	B		
	ツツドリ					○				○								
	トビ				1	1	1	○	1	3	0.75	0.35	0.04	1.2	7.9	1	0.50	
	オオタカ				1					1	0.25	0.12	0.01	0.4	2.6			
	ノスリ							○								○		
15	コゲラ			1	○		1	1	1	2	0.50	0.24	0.03	0.8	5.3	2	1.00	
	アカゲラ			1						1	0.25	0.12	0.01	0.4	2.6			
	モズ					1		1	1	1	0.25	0.12	0.01	0.4	2.6	2	1.00	
	カケス				○	○		3	2	○						5	2.50	
	ハシボソガラス			2	2	3	2	1	2	9	2.25	1.06	0.11	3.6	23.7	3	1.50	
20	ハシブトガラス			1	3	1	1	2	3	6	1.50	0.71	0.08	2.4	15.8	5	2.50	
	ヤマガラ					2	3	3	8	5	1.25	0.59	0.06	2.0	13.2	11	5.50	
	ヒガラ			○	1		1		2	2	0.50	0.24	0.03	0.8	5.3	B	2	1.00
	シジュウカラ			4	4	8	4	10	8	20	5.00	2.35	0.25	7.9	52.6	A	18	9.00
	ヒバリ					1				1	0.25	0.12	0.01	0.4	2.6			
25	ツバメ			3	5	3	4			15	3.75	1.76	0.19	5.9	39.5			
	ヒヨドリ			9	9	10	6	7	9	34	8.50	4.00	0.43	13.4	89.5	16	8.00	
	ウグイス			4	3	4	5			16	4.00	1.88	0.20	6.3	42.1	B		
	ヤブサメ					1	1			2	0.50	0.24	0.03	0.8	5.3			
	エナガ					6	12	13	6	18	4.50	2.12	0.23	7.1	47.4	19	9.50	
30	ムクドリ			1	1					2	0.50	0.24	0.03	0.8	5.3	A		
	クロツグミ			1	1	1	1			4	1.00	0.47	0.05	1.6	10.5	B		
	ツグミ							2								2	1.00	
	ジョウビタキ							2	1							3	1.50	
	キビタキ			2	2	3	4			11	2.75	1.29	0.14	4.3	28.9	B		
35	スズメ			10	11	6	11	6	3	38	9.50	4.47	0.48	15.0	100.0	A	9	4.50
	キセキレイ			1		2	1			4	1.00	0.47	0.05	1.6	10.5			
	ハクセキレイ						1	○		1	0.25	0.12	0.01	0.4	2.6	○		
	セグロセキレイ				2					2	0.50	0.24	0.03	0.8	5.3			
	カワラヒワ			3	5	9	8	7	2	25	6.25	2.94	0.31	9.9	65.8	A	9	4.50
40	ホオジロ			3	4	4	3	6	9	14	3.50	1.65	0.18	5.5	36.8	B	15	7.50
	カシラダカ							3	3							6	3.00	
	コジュケイ				○					○								
	ガビチョウ			1	1	○	1	2	○	3	0.75	0.35	0.04	1.2	7.9	B	2	1.00
45																		
50																		
計	範 囲 内	個体数	51	60	69	73	73	63	253	63.25	29.76	3.16				136	68.00	
		種 数	18	18	21	22	17	17	31							19		
		全 種 数	21	23	26	23	21	18	35							22		

調 査 地 の 概 況

市町村名	高山村	地形図名	上野中山b	調 査 者	田口 雅之
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20 ha			調査地の標高	520 ~ 630 m

The map shows a topographic view of the study area. A thick black line indicates the investigation route, which starts near the '村' (village) label, passes through a '溝口' (gully mouth), and winds through a hilly area. Key features include the '高山ゴルフ倶楽部' (Takayama Golf Club), '上毛森林カントリー倶楽部' (Ushimori Forest Country Club), '太陽光発電施設' (Solar Power Facility), '上毛ゴルフ場' (Ushimori Golf Course), '群馬バス大学' (Gunma Bus University), '国民宿舎' (National Hostel), and '中山峰' (Nakayama Peak). The map also shows various contour lines and elevation points.

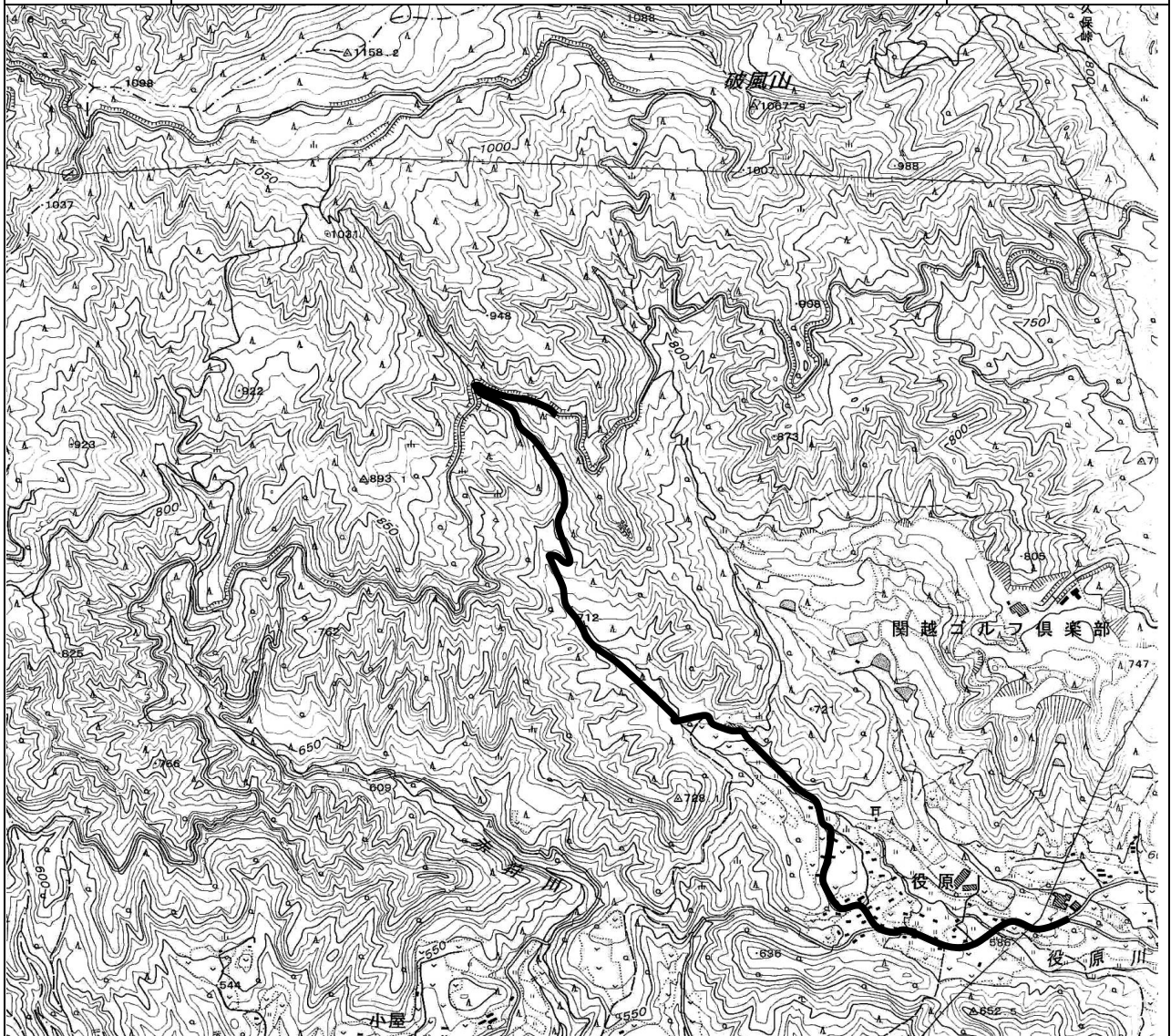
調査地の環境 (調査コースの植生、地形など)		調査コース
○	広葉樹林 (自然林・雑木林)	小野子山の山麓で、3つのゴルフ場と太陽光発電所に挟まれた開墾地を通るコース。標高の高い所はリンゴ畑になっている場所がある。平らなところは、畑と水田が広がり、川や水路に沿って落葉広葉樹の雑木林が残っている。北端付近は住宅地となっている。外来種ガビチョウ類がますます増えてきた。ゴルフ場の廃業による環境変化で、今後は鳥相が変わっていくかもしれない。 今回の調査では、巣に出入りするツバメが観察され、繁殖が確認された。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
—	針葉樹林 (自然林)	
○	植林地 (人工林)	
○	草地・草原・ヨシ原	
◎	農耕地 (田・畑・果樹園)	
○	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	
<備考> 調査コースは前回と同じ。		

用口 雅之

–125–

調 査 地 の 概 況

市町村名	高山村	地形図名	上野中山c	調 査 者	深井 宣男
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20ha			調査地の標高	580 ~ 850 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○ 広葉樹林（自然林・雑木林）

— 針葉樹林（自然林）

◎ 植林地（人工林）

○ 草地・草原・ヨシ原

○ 農耕地（田・畑・果樹園）

◎ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

○ 河川湖沼・河川敷

役原の集落付近では、水田や畑があり、ところどころに雑木林が広がっている。人家の周辺には竹林もあり、クリやカキもみられる。役原川に沿って登っていくとスギの植林地が主となるが、マツや広葉樹の雑木林も交じる。役原川は、集落付近では護岸されているが、上流部では護岸はなく、川沿いに落葉広葉樹もみられる。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じ。越冬期の調査時、往路は時折風が強くてうるさかった。復路は一部で逆光となり見づらかった。人家近くでシカを1頭観察したが、林床には低木もあり、シカは多くないのかもしれない。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

上野中山c

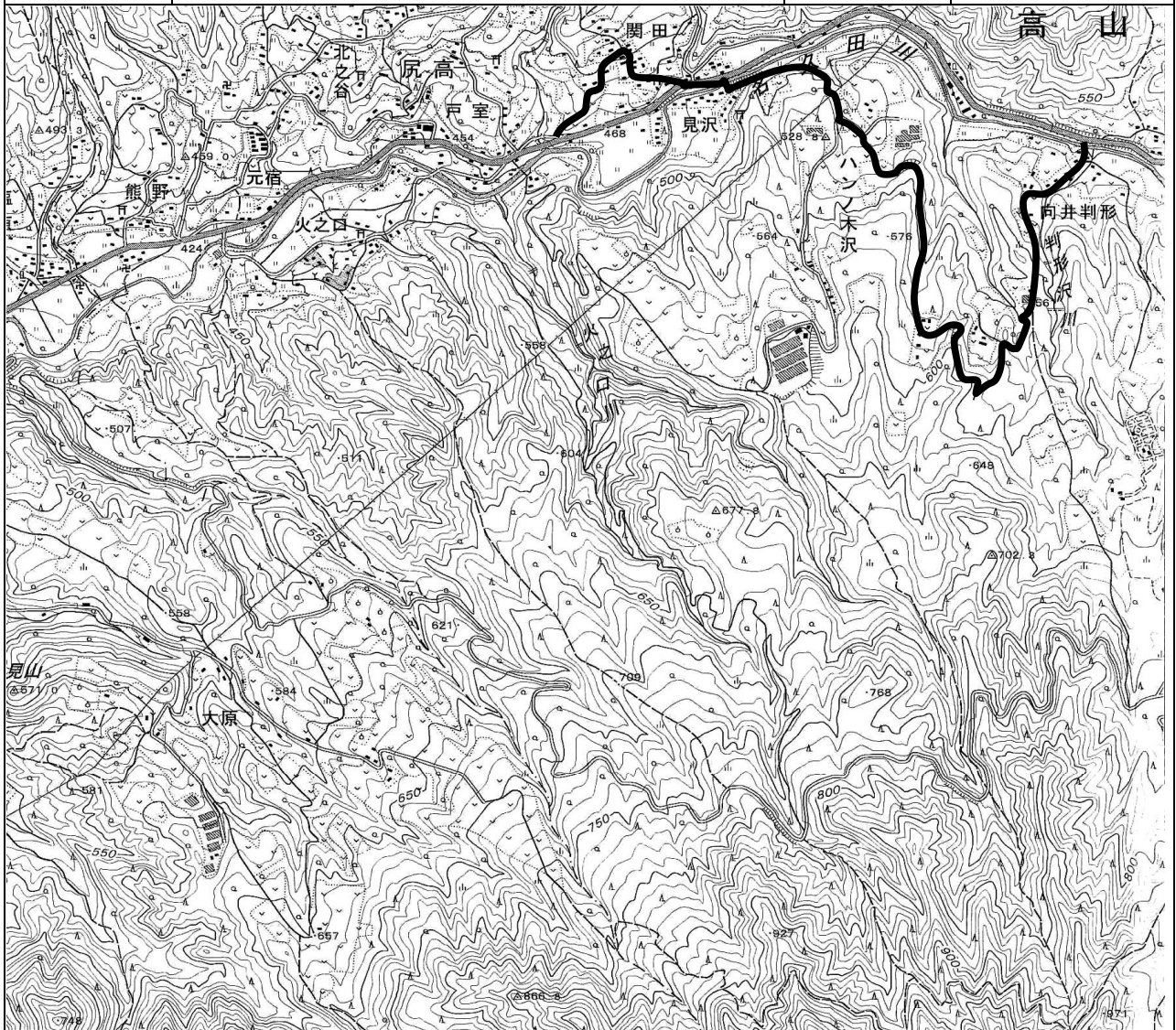
調査者

深井 宣男

調 査 年 月 日		R6. 6. 9	R6. 6. 9	R6. 6. 29	R6. 6. 29	R6. 12. 14	R6. 12. 14	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間		4 : 00 5 : 55 (115分)	6 : 05 7 : 45 (100分)	4 : 00 5 : 50 (110分)	6 : 00 7 : 40 (100分)	8 : 15 10 : 30 (135分)	10 : 35 12 : 05 (90分)	合 計	平 均 (106分)	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (113分)
天 候		曇	曇	曇	曇	晴	晴	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤~⑧	⑧ / 2
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦								
	キジ	○			○			○						B		
	キジバト	1	3	6	4	5		14	3.50	1.98	0.18	5.7	33.3	B	5	2.50
	アオバト	○	○	○				○						B		
	アオサギ	1						1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.4			
5	ホトトギス	○	1	2	○			3	0.75	0.42	0.04	1.2	7.1	B		
	サシバ	1						1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.4			
	クマタカ						3								3	1.50
	フクロウ				○			○								
	コゲラ		2	○	1			3	0.75	0.42	0.04	1.2	7.1			
10	アカゲラ	1	○	○				1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.4			
	サンコウチョウ			○	○			○								
	モズ				○			○								
	カケス	1	2	1	2	1		6	1.50	0.85	0.08	2.4	14.3		1	0.50
	ハシボソガラス	○	1	1	2	2	3	4	1.00	0.56	0.05	1.6	9.5		5	2.50
15	ハシブトガラス	2	3		2	3	1	7	1.75	0.99	0.09	2.8	16.7		4	2.00
	コガラ						3								3	1.50
	ヤマガラ	○	2		2	2	4	4	1.00	0.56	0.05	1.6	9.5	B	6	3.00
	ヒガラ	1		2	○	10	7	3	0.75	0.42	0.04	1.2	7.1	B	17	8.50
	シジュウカラ	2	2	3	8	15	18	15	3.75	2.12	0.19	6.1	35.7	B	33	16.50
20	ツバメ		1		2			3	0.75	0.42	0.04	1.2	7.1			
	ヒヨドリ	4	10	13	15	18	12	42	10.50	5.93	0.53	17.1	100.0		30	15.00
	ウグイス	8	2	6	6			22	5.50	3.11	0.28	8.9	52.4	B		
	ヤブサメ	1	○	1	1			3	0.75	0.42	0.04	1.2	7.1	B		
	メジロ	3	2	6	6	○		17	4.25	2.40	0.21	6.9	40.5	B	○	
25	ミソサザイ	1	3			1	1	4	1.00	0.56	0.05	1.6	9.5		2	1.00
	ムクドリ				3	3	1	3	0.75	0.42	0.04	1.2	7.1		4	2.00
	トラツグミ	1		○				1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.4	B		
	クロツグミ	1	1	1	2			5	1.25	0.71	0.06	2.0	11.9	B		
	シロハラ					1	1								2	1.00
30	ツグミ					5									5	2.50
	ルリビタキ					1									1	0.50
	ジョウビタキ					1	○								1	0.50
	コサメビタキ			2				2	0.50	0.28	0.03	0.8	4.8			
	キビタキ	3	1	2	2			8	2.00	1.13	0.10	3.3	19.0	B		
35	オオルリ	1	2	3	1			7	1.75	0.99	0.09	2.8	16.7	B		
	カヤクグリ					2	1								3	1.50
	スズメ		4	1	6	19	4	11	2.75	1.55	0.14	4.5	26.2		23	11.50
	キセキレイ	3	4	1	1			9	2.25	1.27	0.11	3.7	21.4	B		
	カワラヒワ	○	8	1	2	15	10	11	2.75	1.55	0.14	4.5	26.2	B	25	12.50
40	ベニマシコ					○	8								8	4.00
	シメ						1								1	0.50
	イカル			1				1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.4			
	ホオジロ	7	5	5	5	2	1	22	5.50	3.11	0.28	8.9	52.4	B	3	1.50
	カシラダカ					37	40								77	38.50
45	クロジ					10	1								11	5.50
	ガビチョウ	3	6	1	1	○		11	2.75	1.55	0.14	4.5	26.2	B	○	
	カオジロガビチョウ				2			2	0.50	0.28	0.03	0.8	4.8			
50																
計	範囲内	個体数	46	65	59	76	153	120	246	61.50	34.73	3.08			273	136.50
		種 数	20	21	20	22	20	19	31						24	
		全 種 数	26	24	25	28	23	20	36						26	

調 査 地 の 概 況

市町村名	高山村	地形図名	上野中山d	調 査 者	田澤 一郎
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20ha			調査地の標高	460 ~ 595 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○ 広葉樹林（自然林・雑木林）

○ 針葉樹林（自然林）

◎ 植林地（人工林）

— 草地・草原・ヨシ原

○ 農耕地（田・畑・果樹園）

○ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

○ 河川湖沼・河川敷

コースの東側3分の2は、スギ・ヒノキを中心とした人工林と広葉樹やアカマツ、カラムツが混在する林道を進み、西側3分の1は、田畑、人家（村落）の間を通るコースである。コース上には、名久田川本流のほか、判形沢川やハンノ木沢などの沢があり、水場には困らない。変化に富んだ環境があり、餌資源は少ないと思われる。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じ。植林の伐採が目立ち、鬱蒼とした針葉樹林帯の面積が減少した。皆伐地は広葉雑木樹の回復がある程度認められた。名久田川の関田橋上流部の道路と護岸も復旧していた。越冬期の調査時に、関田地区内で道路の舗装工事が行われていた。繁殖期の調査時に、ウスバシロチョウを観察した。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

上野中山d

調査者

田澤 一郎

調 査 年 月 日		R6. 5. 30	R6. 5. 30	R6. 6. 30	R6. 6. 30	R6. 12. 12	R6. 12. 12	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間		4 : 45 〃 6 : 35 (110分)	7 : 00 〃 9 : 00 (120分)	4 : 25 〃 6 : 15 (110分)	6 : 40 〃 8 : 45 (125分)	6 : 30 〃 8 : 30 (120分)	8 : 50 〃 11 : 00 (130分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候		晴	晴	曇	曇	晴	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤～⑥	⑧／2
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数									
		①	②	③	④	⑤	⑥									
5	キジ	○		○	○	4		○							4	2.00
	カルガモ	2	2		1			5	1.25	0.65	0.06	1.0	5.8			
	キジバト	6	1	3	4	2	6	14	3.50	1.81	0.18	2.9	16.3		8	4.00
	カワウ	4						4	1.00	0.52	0.05	0.8	4.7			
	アオサギ	1	○		○			1	0.25	0.13	0.01	0.2	1.2			
10	ホトトギス	1	2	1	2			6	1.50	0.77	0.08	1.3	7.0	B		
	トビ		1		1			2	0.50	0.26	0.03	0.4	2.3			
	ノスリ				1			1	0.25	0.13	0.01	0.2	1.2			
	コゲラ			1	2			3	0.75	0.39	0.04	0.6	3.5			
	アカゲラ	1				1		1	0.25	0.13	0.01	0.2	1.2		1	0.50
15	アオゲラ	○	1	1	2	1	1	4	1.00	0.52	0.05	0.8	4.7	B	2	1.00
	サンショウクイ	7	5	3				15	3.75	1.94	0.19	3.1	17.4	B		
	モズ				1	1	2	1	0.25	0.13	0.01	0.2	1.2		3	1.50
	カケス					10	12								22	11.00
	ハシボソガラス	1	1	2	5	2	1	9	2.25	1.16	0.11	1.9	10.5		3	1.50
20	ハシブトガラス	○	1	5	5	1	2	11	2.75	1.42	0.14	2.3	12.8		3	1.50
	ヤマガラ	1	1					2	0.50	0.26	0.03	0.4	2.3			
	ヒガラ					1	1								2	1.00
	シジュウカラ	2	3	1	2	2		8	2.00	1.03	0.10	1.7	9.3	B	2	1.00
	ツバメ	3	6	5	12			26	6.50	3.35	0.33	5.4	30.2	B		
25	イワツバメ				10			10	2.50	1.29	0.13	2.1	11.6			
	ヒヨドリ	18	21	25	22	10	11	86	21.50	11.10	1.08	18.0	100.0		21	10.50
	ウグイス	12	17	15	14	4	1	58	14.50	7.48	0.73	12.1	67.4	B	5	2.50
	ヤブサメ	1	2	2	2			7	1.75	0.90	0.09	1.5	8.1	B		
	エナガ			2	4		3	6	1.50	0.77	0.08	1.3	7.0		3	1.50
30	メジロ	4	8	6	6	2	2	24	6.00	3.10	0.30	5.0	27.9	B	4	2.00
	ムクドリ		4					4	1.00	0.52	0.05	0.8	4.7			
	カワガラス		1		1		1	2	0.50	0.26	0.03	0.4	2.3	B	1	0.50
	クロツグミ		○					○								
	ルリビタキ					1	1								2	1.00
35	ジョウビタキ					1	1								2	1.00
	キビタキ	5	5	2	5			17	4.25	2.19	0.21	3.6	19.8	B		
	スズメ	6	11	10	10	37	17	37	9.25	4.77	0.46	7.7	43.0	B	54	27.00
	キセキレイ	1		2	3			6	1.50	0.77	0.08	1.3	7.0			
	ハクセキレイ		1					1	0.25	0.13	0.01	0.2	1.2			
40	セグロセキレイ		1		1	2		2	0.50	0.26	0.03	0.4	2.3		2	1.00
	アトリ					1									1	0.50
	カワラヒワ	12	10	9	4	6	4	35	8.75	4.52	0.44	7.3	40.7	B	10	5.00
	ベニマシコ					2	1								3	1.50
	ホオジロ	7	5	9	8	1	5	29	7.25	3.74	0.36	6.1	33.7	B	6	3.00
45	カシラダカ						110								110	55.00
	アオジ					3	1								4	2.00
	コジュケイ	1	○		1			2	0.50	0.26	0.03	0.4	2.3	B		
	ガビチョウ	8	7	11	10	3	1	36	9.00	4.65	0.45	7.5	41.9	B	4	2.00
	カオジロガビチョウ			2	1			3	0.75	0.39	0.04	0.6	3.5			
50																
計	範囲内	個体数	104	117	117	140	98	184	478	119.50	61.68	5.98			282	141.00
	種 数	種 数	22	24	21	28	23	21	35						26	
	全 種 数	全 種 数	25	27	22	30	23	21	37						26	

市町村別鳥類生息密度調査報告書
第13次鳥獣保護管理事業計画（令和4年度～令和8年度）第三次報告

令和7年9月発行

発行者 群馬県（環境森林部自然環境課）
〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1
電話 027-226-2874

調査受託者 日本野鳥の会群馬

印刷 ジャーナル印刷株式会社

本報告書の内容の無断転載を禁じます。